

徳島県立博物館年報

第30号（令和2年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No. 30 (for the fiscal year of 2020)

目次

徳島県立博物館の使命	2	3. インターネットによる情報提供	42
I 展示		4. 外部ネットワークとの連携	43
1. 常設展	3	5. 情報システムの概要	43
2. 企画展	5	6. ネットワーク接続の変更	43
3. 特別陳列	9	7. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応	44
4. 館外での展示	12		
5. 常設展の更新及び活性化に向けての 取り組み	13	VI 県民協働・参画	
6. 展示関係出版物	16	1. 博物館友の会	45
		2. 公募ボランティア	46
		3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進	47
II 普及教育			
1. 普及行事	17	VII シンクタンクとしての社会貢献	
2. 学校教育支援事業	20	1. レファレンス業務	49
3. 普及教育関係出版物	23	2. 各種委員会委員等の受諾	49
		3. 講師の派遣	50
		4. 大学教育への寄与	52
		5. 学会・研究会等の運営への寄与	52
		6. 博物館ネットワーク	53
III 調査研究			
1. 課題調査	25	VIII 管理運営・マネジメント	
2. 日本最古級恐竜化石含有層 調査・発信プロジェクト	26	1. 組織・職員	55
3. 分野別（個別）調査研究	27	2. 予算	55
4. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）	29	3. 文化の森の連携事業	56
5. 科学研究費補助金等による研究	29	4. 機能強化のための取り組み	56
6. 他機関との共同研究	30	5. 防災及び危機管理	56
7. 研究成果の公表	30	6. ユニバーサル化への取り組み	57
		7. 博物館協議会	57
		8. 各種研修会への参加	57
		9. 視察等博物館関係来訪者	58
IV 資料の収集・保存と活用			
1. 採集資料	35	IX 中期活動目標と自己評価	
2. 購入資料	35	1. 中期活動目標	59
3. 寄贈資料	36	2. 令和2年度実績と自己評価	67
4. 寄託資料	36		
5. 資料の貸し出し	36	X 観覧者等統計	82
6. 写真・映像の提供	37		
7. 資料の提供	38	XI 施設の概要	
8. 資料の交換	38	1. 沿革	87
9. 館蔵資料数	38	2. 施設の概要	88
10. 資料収集委員会	38	3. 博物館各室面積	90
11. 文献資料の収集	38		
12. 資料の保存	39	XII 例規	92
V 情報の発信と公開			
1. 博物館の広報活動	41		
2. テレビ・ラジオへの出演等	41		

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—だれもがつどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

伝

未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

連

つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがつどえる地域の拠点を目指します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—県民とともに成長する博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

使命と事業の関係

- 1 知 知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
- 2 探 地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝 未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 連 つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館
 - (1) 情報の発信と公開
 - (2) 県民協働・参画
 - (3) シンクタンクとしての社会貢献
- 5 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) 管理運営・マネジメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展 示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然と歴史・文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的な関わりについても理解できるよう、様々なテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は開館以来変わっていない。したがって、学問の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、より多くの人に博物館に親しんでもらえるようなユニバーサル化、グローバル化への対応が遅れたりしている。

そのような中で、平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」を実施し（年報24号参照）、その成果に基づいて、27年度には文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。

29年度からは、常設展リニューアルに向けての検討を本格化させた。「未来創造！博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置して新常設展のあり方について、外部委員とともに検討を行った。また、新常設展基本計画案を作成し、「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員を交えた検討を行った。

30年度は、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催し、公募した県民等と意見交換を行うなど、29年度に引き続き、常設展リニューアルに向けての検討を進めた。7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定し、9月には新常設展設計事業業務委託プロポーザルを行った。同業務については、株式会社乃村工藝社と契約し、10月から新常設展の基本設計業務に取り組み、3月末には基本設計図書が納品された。

令和元年度は、4月から10月までの間、実施設計業務に取り組み、10月には実施設計図書が納品された。12月には展示製作にかかる入札を行い、株式会社乃村工藝社が落札した。3月、県議会での承認を得て、同社と契約を締結し、展示構築業務を開始した。

2年度は、引き続き展示構築業務を継続した。8月31日から常設展示室を閉室し、新常設展の展示製作を進めた。

企画展は、専用の企画展示室を使って行うことにし

ている。学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりのある資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組むとともに、外部資金の獲得、民間との連携等予算獲得の工夫をしている。

なお、常設展示室の閉室後、常設展関係資料等の仮収蔵場所として企画展示室を使用する必要があったため、下半期は企画展示室での展示ができなかった。

また、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大下にあったため、4月22日（水）から5月8日（金）の間、臨時休館とした。さらに、感染症拡大防止のため、受付カウンターへのアクリル製パーティションや展示室入口への非接触型検温器、消毒用アルコール等の設置、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等の対策を行った。来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、連絡先の記入、ソーシャルディスタンスの徹底等、展示室内での各種対策への協力をお願いした。

1. 常設展

リニューアルのため、8月30日までの公開とし、8月31日から常設展示室を閉室し、新常設展の展示製作を進めた。令和3年度も引き続き展示製作を進める予定である。

(1) 常設展の構成

博物館の常設展は、総合展示、部門展示及びラプラタ記念ホールの展示の3つで構成している。リニューアル後は、全面的に再構成することになっている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマに沿って展示を展開している。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

4 展示

●部門展示

総合展示とは異なる角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：近世の焼き物／なつかしいモノたち など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／
生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された、南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

メガテリウム全身骨格（レプリカ）

パノクツス全身骨格及び甲羅

マクラウケニア全身骨格（レプリカ）

トクソドン全身骨格（レプリカ）

スミロドン全身骨格（レプリカ）

ヒッピディオオン全身骨格（レプリカ）

ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマを決めて随時展示替えをしている。平成20年度から、多様な資料の公開を図るため、自然史関係の展示も行っている。令和2年度は、次の展示を行った。

●阿波晩茶の製造技術と製造用具

元年度（2月18日（火））～4月12日（日）

展示資料数 45点（館蔵資料45点）

展示関係印刷物 あり

那賀町の阿波晩茶生産農家から寄贈された製造用具を中心に、阿波晩茶の製造技術と製造用具を紹介した。

●発掘された木の道具

4月14日（火）～6月14日（日）

展示資料数 205点（館蔵資料2点）

展示関係印刷物 あり

「木」は、人間の生活の中で、道具などの材料とし

て古くから利用されてきたが、そのほとんどは長い時間の間に朽ち果て現在まで残るものは少ない。徳島県内でごくまれに発掘調査で出土し、保存処理された木製品を展示し、古代から近世の生産や信仰などを紹介した。

●骨格標本の世界

6月16日（火）～8月30日（日）

展示資料数 29点（館蔵資料29点）

展示関係印刷物 あり

私たちヒトを含む脊椎動物にとって、骨は体を支え、動くためになくてはならないものである。この展示では、様々な動物の骨格標本を展示し、骨格標本がどのように、また、何のために作られているのかを紹介した。

(3) 阿波の近世絵画の展示

「藩政のもとで」のコーナー内で、以下の資料を展示した。

展示資料数 1点（館蔵資料1点）

元年度（1月28日（火））～2年8月30日（日）

中山養福筆 四季富士山図 1点

(4) トピックコーナーでの小展示

2年度は、次の展示を行った。タイムリーな展示ができるよう努めている。

●令和元年度の恐竜化石含有層発掘調査で発見された恐竜化石

4月24日（金）～6月28日（日）

展示資料数 3点（館蔵資料3点）

徳島県勝浦町の恐竜化石含有層から発見された恐竜の骨質化した腱、竜脚類の歯、獣脚類の歯を展示した。

●新着資料紹介 徳島ゆかりの歴史資料

6月30日（火）～8月30日（日）

展示資料点数 10点（館蔵資料10点）

元年度に購入した資料の中から、徳島藩主蜂須賀家旧蔵のコレクション「阿波国文庫」など、主に江戸時代の徳島の歴史・文化に関わる資料を紹介した。



「発掘された木の道具」の展示



「骨格標本の世界」の展示

(5) 博物館ロビー等での小展示

2年度は、常設展示入口周辺の博物館ロビーや、2階エントランス、中央ロビー（鳥居龍蔵記念博物館常設展示室前）等において小規模な展示を行った。定期的な展示ではないが、タイムリーなテーマがあれば実施することとしている。

●写真で見る徳島の遺跡 2

元年度（2月26日（水））～10月11日（日）

展示資料点数 20点（パネル）

1960年代後半から80年代にかけて、徳島県博物館が実施した遺跡の発掘調査時に撮影された写真を紹介した。

●草木染めで外来種対策にチャレンジ

10月13日（火）～11月1日（日）

展示資料点数 20点

特定外来種のオオキンケイギクの花を使って簡単に草木染をする方法を展示した。あわせて、特定外来種やその分布拡大対策などについても説明した。



「恐竜化石含有層発掘調査で見つかった恐竜化石」の展示



「徳島ゆかりの歴史資料」の展示



「徳島まるづかみ展 県央編 第2期」の展示

●馬形はにわ

10月20日（火）～11月22日（日）

展示資料点数 8点

鳴門市大麻町池谷や小松島市前山遺跡から出土した馬形埴輪などを展示した。

●徳島まるづかみ展 県央編第2期

12月1日（火）～3年度（4月25日（日））

展示資料数 32点

新常設展プレビュー企画として、博物館や博物館資料によって描くことのできる「徳島らしさ」を展示で紹介した。県央編第2期は、県央部の自然と歴史・文化関係資料を中心に、新常設展ロビーゾーン展示のプレビュー企画として開催した。

2. 企画展

令和2年度は、次の2回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」

徳島県立博物館では、徳島県の自然・歴史・文化に関する資料を継続的に収集・保存しており、現在、その総数は53万点を超える。この企画展では、文化の森総合公園が開園30周年を迎えるのを記念し、これらの収蔵資料のうち、指定文化財や動植物のタイプ標本、学芸員の“イチオシ”資料など、よりすぐりの“宝もの”を公開した。また、文化財の高精細画像をあわせて展示することで、資料をより細部まで観察できるようにした。さらに、博物館における資料収集保存活動の事例も紹介し、徳島の貴重な自然や文化財を未来へ引き継ぐための取り組みについて紹介した。

●主催 徳島県立博物館

文化の森総合公園開館30周年記念

30 文化の森総合公園開館30周年記念

とっておきの“お宝”を一挙大公開!

蔵出し! とくしま “宝もの” 展

とくしま

新発見の宝! “タイプ標本”

ぜひ見てもらいたい! 学芸員の“イチオシ”資料

2020 4.24(金) - 6.7(日)

会場/徳島県立博物館1階 企画展示室
 開館時間/9:30~17:00
 休館日/毎週月曜日、5月7日(木) 第5月4日(水)は買戻
 観覧料/一般200円、高校生・大学生100円、小学生50円
 20名以上の団体は割引/10名以上は10円(定額できるものの観覧料必須)
 三・休館日、前日は前夜まで観覧/学芸員による特別解説
 特別解説は事前、観覧手帳、博物館長特別解説に予約が必要及びその分加算
 1名1枚無料(観覧できるもの数が多い必須)

文化の森総合公園 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島県徳島市八万塚山 TEL: 086-668-3635 / FAX: 086-668-7197

博物館常設展示室は令和3年8月にリニューアルオープン

本誌
 ※令和2年9月~令和3年7月まで常設展示室をリニューアルします(予定)
 ※常設展示室リニューアル中、鳥居屋敷記念博物館・文化の森公園・図書館・文芸館はご利用いただけます。

「蔵出し! とくしま “宝もの” 展」チラシ表面

博物館が語る 指定文化財の紹介!

高橋健爾蔵で拡大して観賞できます!

ぜひ見てもらいたい! 学芸員の“イチオシ”資料

新発見の宝! “タイプ標本”

初公開資料もいっぱい!

“宝もの”を守り、伝える活動も紹介!

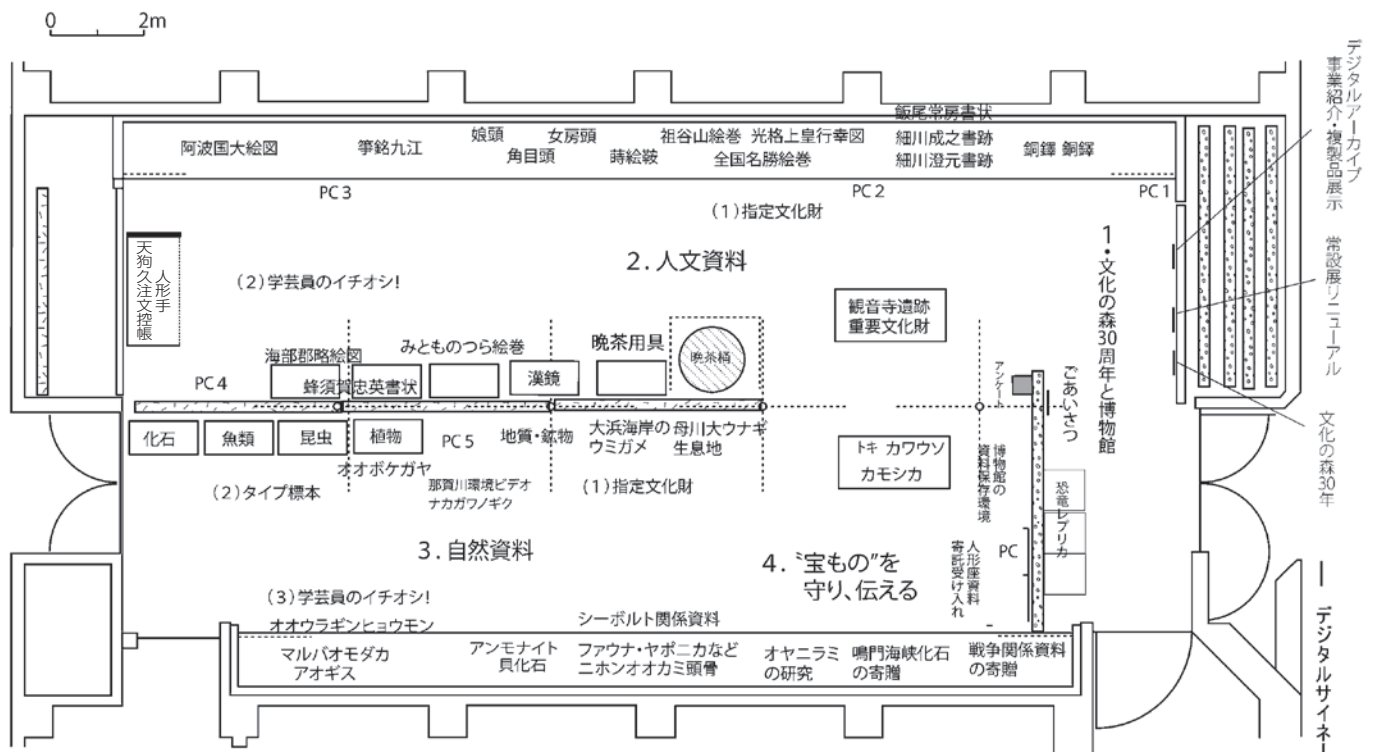
博物館の“宝もの”を上手に活用して、自然や歴史・文化に親しみ、参加・体験することで子どもから大人まで楽しく学んでいます。多くの方のご入会をお待ちしております。

みなのおいでよ! 友の会

○本会 個人会員 2,000円 家族会員 3,000円 (10月~3月の半年会費は半額)
 博物館の施設等・企画展の観覧料が無料になります。
 館内施設・博物館コース、会費等をお断りします。
 友の会行事に参加できます。(一部の施設は必須です。)
 友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。

徳島県立博物館 友の会事務局 〒770-8070 徳島県徳島市八万塚山 TEL: 086-668-3636 / FAX: 086-668-7197

「蔵出し! とくしま “宝もの” 展」チラシ裏面



「蔵出し! とくしま “宝もの” 展」の展示配置

- **期 間** 令和2年5月9日（土）～6月14日（日）
（開催日数32日）
※当初は4月24日（金）～6月7日（日）に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言を受けての臨時休館に伴い、開催期間を変更した。

- **会 場** 博物館企画展示室
- **観覧料** 一般200円（65歳以上100円）
高校・大学生100円 小・中学生50円

● **観覧者数** 1,190人

● **展示構成**

- (1) 文化の森30周年と博物館
文化の森30年の歩み／常設展示室リニューアル／文化の森デジタルアーカイブ事業
- (2) 人文資料
 - ① 指定文化財～有形文化財・有形民俗文化財～
 - ② 学芸員のイチオシ！
- (3) 自然資料
 - ① 指定文化財～名勝・天然記念物～
 - ② タイプ標本
 - ③ 学芸員のイチオシ！
- (4) “宝もの”を守り、伝える



「蔵出し！とくしま“宝もの”展」の展示



「蔵出し！とくしま“宝もの”展」関連行事 展示解説

オヤニラミの研究／鳴門海峡の化石／戦争関係史料／人形座資料の調査・保存／博物館における資料保存環境の管理

● **展示資料数** 111点（館蔵資料86点）

● **マスコミによる報道件数** 8件

● **関連行事**

展示解説

第1回：5月17日（日）14：00～15：00

参加者：26人

第2回：6月7日（月）14：00～15：00

参加者：36人

(2) **第2回企画展「甲虫すげいぜ！」**

甲虫は地球上でもっとも種類の多い生きものである。これまでに世界で約38万種が知られていて、その数はすべての生物種の約4分の1を占める。種数がすげいだけでなく、甲虫の体の大きさや形、色、暮らしぶりもすげい。そこには私たちの想像をはるかに超える多様な世界が広がっている。この企画展では、徳島県立博物館が30年かけて収集してきた膨大な数の甲虫コレクションをもとに、だれもが驚く甲虫のすげい世界を紹介した。

● **主 催** 徳島県立博物館

● **期 間** 令和2年7月11日（土）～8月30日（日）
（開催日数44日）

● **会 場** 博物館企画展示室

● **観覧料** 一般200円（65歳以上100円）
高校・大学生100円 小・中学生50円

● **観覧者数** 14,803人

● **展示構成**

- (1) 甲虫とは？
- (2) いろいろな甲虫
- (3) すみかがすげい！
- (4) 見た目がすげい！
- (5) 徳島の甲虫がすげい！
- (6) 外来の甲虫がやばい！
- (7) 愛好家の自慢のひと箱がすげい！
- (8) コレクターズ標本がすげい！
- (9) プロの技がすげい！
- (10) 生きている甲虫がすげい！

● **展示資料数** 21,901点（館蔵資料21,609点）

● **マスコミによる報道件数** 16件

● **関連行事**

① 展示解説

第1回：7月12日（日）14：00～15：00

参加者：180人

第2回：8月9日（日）14：00～15：00

参加者：54人

第3回：8月30日（日）14：00～15：00

参加者：57人

②プロの技！標本づくり実演&昆虫なんでも相談室

場所：博物館2階常設展示室 受付横

第1回：7月26日（日）10：00～12：00

参加者：40人

第2回：7月26日（日）14：00～16：00

参加者：110人

第3回：8月23日（日）10：00～12：00

参加者：30人

第4回：8月23日（日）14：00～16：00

参加者：40人



「甲虫すごいぜ！」の展示



「甲虫すごいぜ！」関連行事 展示解説

3. 特別陳列

(1) 徳島まるづかみ展 県央編第1期

新常設展プレビュー企画として、博物館や博物館資料によって描くことのできる「徳島らしさ」を紹介した。県央編第1期では、県央部の自然と歴史・文化にスポットを当てた。

●主催 「徳島まるづかみ」事業実行委員会（当館が中核館）

●期間 令和2年11月3日(火・祝)～12月3日(木)
(開催日数27日)

●会場 文化の森多目的活動室

●観覧料 無料

●観覧者数 3,488人

●展示構成

- 1 県央まるづかみコレクション
- 2 徳島の恐竜時代
- 3 バーチャルまるづかみ（石室 VR 体験）
- 4 徳島の銅鐸の世界
- 5 地質時代の徳島
- 6 藍作とすくもづくり
- 7 四国遍路
- 8 工芸と絵画
- 9 阿波の三番叟
- 10 吉野川の生きもの
- 11 リニューアルの軌跡

●展示資料 65点（館蔵資料65点）

●マスコミによる報道件数 7件

●関連行事

①展示解説

第1回目：11月8日（日）14：00～15：00

参加者数：25人

第2回目：11月29日（日）14：00～15：00

参加者数：9人

②三葉虫を調べよう

11月14日（土）13：30～15：00

会場：博物館実習室

講師：大野照文氏（三重県総合博物館長）

参加者数：19人



「徳島まるづかみ展」関連行事 展示解説

令和2年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業
飛び出せ博物館!!「徳島まるづかみ」事業



徳島まるづかみ展

徳島県立博物館
新常設展プレビュー企画
2021年8月上旬
グランドオープン(予定)の
新常設展、先行してちよと
お見せします!

「いのち」と「とき」のモノ語り

【主催】「徳島まるづかみ」事業実行委員会
【会期・会場】

① 徳島まるづかみ展・県央編 第1期
会期 2020年11月3日(火・祝)～12月3日(木)
会場 文化の森多目的活動室(1階)
休館日 月曜日(ただし11月23日は開館し、24日が休館)

② 徳島まるづかみ展・県央編 第2期
会期 2020年12月1日(火)～
会場 徳島県立博物館ロビー(2階)
休館日 月曜日(ただし12月24日が休館)
年末年始(12月29日～1月4日)

③ 徳島まるづかみ展・県西編
会期 2020年12月18日(金)～2021年1月18日(月)
会場 実業市立図書館アリススペース(ミクイズ2階)
休館日 火曜日、年末年始(12月29日～1月4日)

④ 徳島まるづかみ展・県南編
会期 2021年2月9日(火)～3月14日(日)
会場 海部町立博物館企画展示室
休館日 月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合はその翌日が休館)
※観覧料：各会場とも無料

〒770-8070 徳島県徳島市八万町 阿波山
TEL 089-963-5336 / FAX 089-963-7187
https://museum.bourmont.tokushima.jp

「徳島まるづかみ展」チラシ表面

2021年8月上旬 徳島県立博物館 **新常設展グランドオープン!** (予定)

徳島県立博物館新常設展示室の特徴とイメージ

① 徳島まるづかみ
最新の研究成果をふまえた、徳島の自然と歴史・文化を見て、感じて、感じることができる展示

② 先端技術で驚きの体験
インターネットや高精細映像を活用した展示システムによる、参加体験型展示

③ 誰もが楽しめる場所
多言語化や音声・手話解説はもとより、グラフィックや多機能型解説設備を用いた誰もが快適に通じやすい施設

④ 地域の交流拠点
レファレンス(調べもの相談)機能の充実や、県民の調査研究結果の発信を通して、県民とのつながりをより一層大切に展示

ロビーゾーン
コミュニケーションゾーン
徳島セクション(中世)
地球セクション(生物の多様性)

徳島県立博物館では、「徳島まるづかみ—いのち」と「とき」のモノ語り—をコンセプトとして、常設展の全面リニューアルを進めています。本展は、徳島県立博物館の新常設展プレビュー企画として、新常設展の一部を先行してお見せします。

「徳島まるづかみ展」関連行事 ※参加費は、どの行事も無料です。

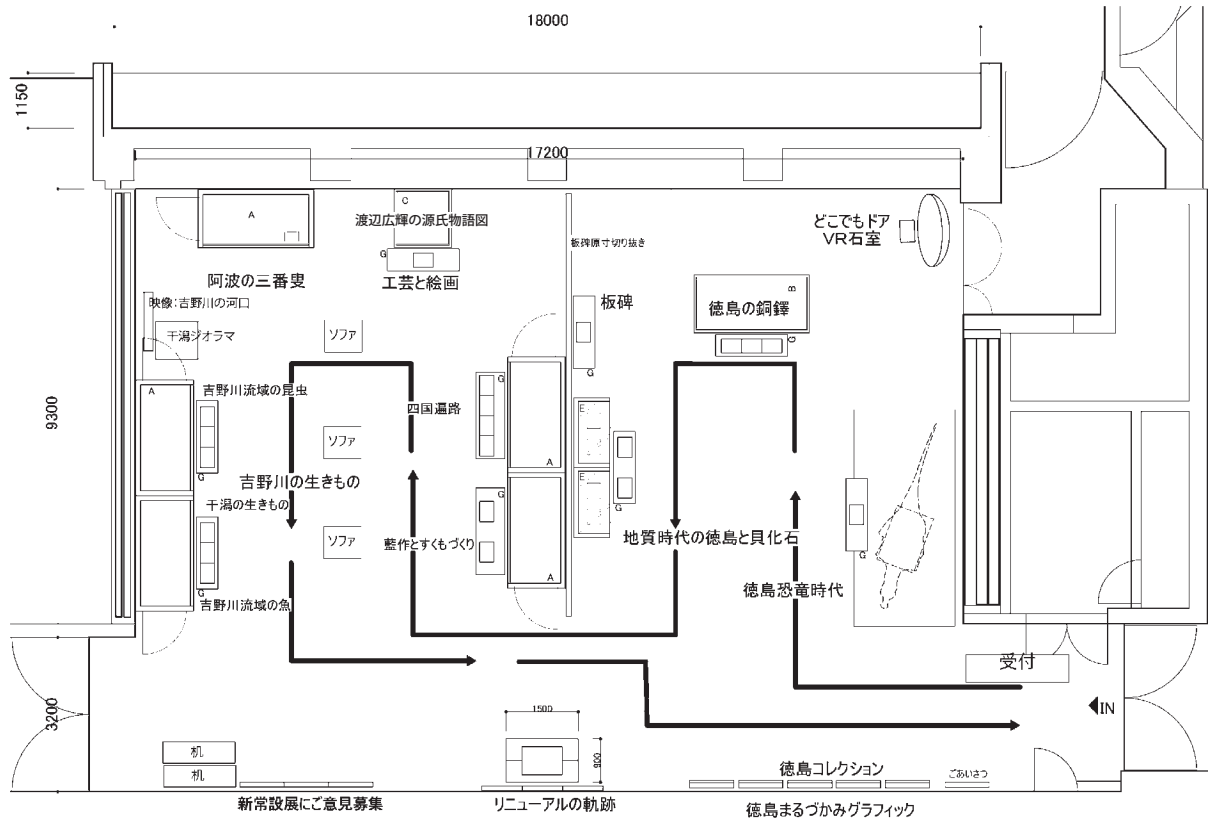
①「徳島まるづかみ展・県中編」展示解説
日時 2020年11月8日(日)、29日(日)
いずれも14:00～15:00
会場 文化の森多目的活動室(1階)
講師 徳島県立博物館学芸員

②「三草虫を調べよう」展示解説
日時 2020年11月14日(土) 13:30～15:00
会場 徳島県立博物館実習室(3階)
講師 矢野麻衣氏
(三重県総合博物館協力)

③「徳島まるづかみ展・県南編」展示解説ワークショップ
日時 2021年1月10日(日)、17日(日)
いずれも13:30～15:30
会場 徳島市立図書館アリススペース(アリス2階)
講師 徳島県立博物館学芸員
※申し込みが必要(申し込み方法はホームページ参照)、小学生以上の行事です。

④「徳島まるづかみ展・県南編」展示解説ワークショップ
会期 2021年2月14日(日)、28日(日)
会場 海部町立博物館企画展示室
講師 徳島県立博物館学芸員

「徳島まるづかみ展」チラシ裏面



「徳島まるづかみ展 県央編第1期」の展示配置

(2) 文化の森開園30周年記念 共同企画展 文化遺産を後世に伝えるーとくしまデジタルアーカイブー

文化の森総合公園は、置県 100 年を機に、文化創造活動の拠点、県民の文化意識高揚のシンボルとして、平成 2 年 11 月 3 日に開園した。図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館が、それぞれ独自の機能を果たすとともに、これらの施設をとりまく公園と一体となって、展示室、閲覧室として機能するよう計画されたものである。また、22 年度には鳥居龍蔵記念博物館が加わった。

文化の森では、各館が収蔵している資料の情報について、開館当初から情報通信を通じて県民に提供してきた。令和元年度からは「とくしまデジタルアーカイブ」として、普段は展示等に活用することが難しい貴重な資料の高精度画像を公開しており、パソコンやスマートフォン、タブレットなどでインターネットにつながっていれば、誰でも、いつでも、どこでも資料を詳しく見ることができる。今回の展示ではその一部を実物とともに紹介した。

●主 催 徳島県立図書館、徳島県立博物館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、(公財) 徳島県建設技術センター

●期 間 令和 2 年 11 月 3 日(火・祝)～11 月 15 日(日)
(開催日数 12 日)

●会 場 近代美術館ギャラリー

●観覧料 無料

●観覧者数 1,311 人

●展示構成

- 1 開催にあたって
- 2 デジタル技術の発展とデジタルアーカイブ
- 3 徳島県立図書館のデジタルアーカイブ



「文化遺産を後世に伝える」の展示

- 4 徳島県立文書館のデジタルアーカイブ
- 5 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館のデジタルアーカイブ
- 6 徳島県立博物館のデジタルアーカイブ
- 7 徳島県立近代美術館のデジタルアーカイブ
- 8 徳島県立二十一世紀館のデジタル促進活動紹介
- 9 徳島県建設技術センター 文化の森に咲く花

●展示資料数 120 点 (館蔵資料 2 点)

●マスコミによる報道件数 2 件

(3) 鳥居龍蔵生誕 150 周年記念 鳥居龍蔵の学問と世界

2 年度は、鳥居龍蔵 (1870-1953) の生誕 150 周年の節目であり、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の開館 10 周年にもあたる。鳥居は、生涯を通じて、台湾、中国西南部、中国東北部、朝鮮半島など東アジアを中心に、考古学・民族学・人類学的調査を精力的に行い、次々と成果を発表した。その主要な研究テーマは、日本人の起源を明らかにすることであり、また一方で、中国東北部・内モンゴルにあった王朝「遼」や、巨石文化に関する研究なども行った。これらのことは、鳥居龍蔵記念博物館が収蔵し、整理を進めている膨大な遺稿やメモ、ノートなどの研究資料から、その片鱗をうかがうことができる。この展示では、鳥居が生涯をかけて追い求めた学問とその世界について紹介した。

●主 催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●期 間 令和 3 年 2 月 13 日(土)～3 月 21 日(日)
(開館日数 32 日)

●会 場 文化の森多目的活動室

●観覧料 一般 200 円 (65 歳以上 100 円)
高校・大学生 100 円 小・中学生 50 円

●観覧者数 546 人

●展示構成

プロローグ 鳥居龍蔵の生涯と学問

- I 日本人の起源を探る
 - 1 先住民族を「アイヌ」と確信する
 - 2 「固有日本人」を発見する
 - 3 南方からの影響を見いだすーインドネシアとインドシナ民族の移動ー
 - 4 日本人起源論の確立
- II 多様な視点に基づく探究
 - 1 遼の文化を探る
 - 2 巨石文化を発見する

エピローグ 未完の研究ー鳥居龍蔵の夢の痕跡ー

●展示資料総点数 101 点 (館蔵資料 3 点)

(4) 2020 年度文化の森人権啓発展

文化の森 6 館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

- 主 催 文化の森 6 館・徳島県教育委員会人権教育課
- 期 間 令和 2 年 12 月 9 日（水）～12 月 15 日（火）
- 会 場 近代美術館ギャラリー（展示）
ミニシアター（ビデオ上映）
- 観覧者数 447 人

- 観覧者数 574 人
- 資料点数 40 点（館蔵資料 40 点）
- 関連行事 展示解説＆ワークショップ
- 第 1 回 2 月 14 日（日）13:30～15:30
参加者数：10 人
- 第 2 回 2 月 28 日（日）13:30～15:30
参加者数：10 人

4. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ（テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット）の貸し出しを行っている。2 年度は貸し出しがなかった。

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。2 年度は移動展が 3 件あった。

●恐竜化石展—かつうらの恐竜時代—

- 主 催 勝浦町
- 協 力 徳島県立博物館
- 期 間 令和 2 年 8 月 1 日（土）～8 月 30 日（日）
- 会 場 勝浦町立図書館 2 階 郷土資料展示室
- 観覧者数 1,132 人
- 資料点数 33 点（館蔵資料 33 点）

●徳島まるづかみ展 県西編

- 主 催 「徳島まるづかみ」事業実行委員会（当館が中核館）
- 会 場 美馬市立図書館フリースペース（ミライズ 2 階）
- 観覧者数 1,317 人
- 資料点数 59 点（館蔵資料 59 点）
- 関連行事 展示解説＆ワークショップ
- 第 1 回 1 月 10 日（日）
大雪のため中止
- 第 2 回 1 月 17 日（日）13:30～15:30
参加者数：16 人

●徳島まるづかみ展 県南編

- 主 催 「徳島まるづかみ」事業実行委員会（当館が中核館）
- 会 場 海陽町立博物館企画展示室



「恐竜化石展—かつうらの恐竜時代—」の展示



「徳島まるづかみ展 県西編」の展示



「徳島まるづかみ展 県南編」の展示

5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

(1) これまでの常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐりに常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった(年報7号参照)。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアルオープンする計画で、事業規模を縮小して計画の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。厳しい財政状況のもと、常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学術研究の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。

そこで、19年度に、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた(年報17号参照)。21年度には、この計画案に沿いながら、一部の中項目や小項目の変更を含む「リフレッシュ事業」(中規模な展示更新)を行った(年報19号参照)。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行ってきた。大規模な展示更新が見込めないなかで、27年度は文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の部分的な改装を行った(年報25号参照)。

開館30周年が近づいたことから、29年度には、常設展の更新に向けての取り組みを本格化させることになった。9月から10月にかけては、「未来創造!博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置し、新常設展のあり方について外部委員(文化の森各館職員や県及び県教委関係課職員)とともに検討を行った。10月30日にはタスクフォースによる検討結果を受けて、県知事との意見交換会(ランチミーティング)を行った。こうした検討結果をもとに、さらに検討を深化させるため、11月から12月にかけて「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員(有識者等)から意見をもらった。2月には「未来の博物館を考える検討委員会提言書—徳島県立博物館新常設展基本計画案—」が提示された。

30年度は、29年度の検討を踏まえ、参加者公募型による、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催した。4月30日(月・祝)、5月13日(日)

の2日間にわたり、10歳代から60歳代までの延べ34人(4月30日:16人、5月13日:18人)の県民と、専門家延べ9人(4月30日:4人、5月13日:5人)、アドバイザー2人(4月30日:1人、5月13日:1人)が参加し、当館職員とともに新常設展のあり方について意見を交わした。ここでの意見も踏まえ、7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定した。これにもとづき、9月には新常設展設計事業業務委託公募型プロポーザルを実施した。

(2) 新常設展設計事業

新常設展設計事業については、株式会社乃村工藝社と契約し、設計準備会を行った上で、30年10月25日から新常設展の基本設計に取り組み、3月末には基本設計図書が納品された。30年度の基本設計に続き、令和元年度は4月から10月までの間、実施設計に取り組み、10月に設計図書が納品された。

基本設計及び実施設計に係る協議及び調査等は、内容によって4つの分科会を設定した上で実施した(年報28・29号参照)。

分科会A:全般、ロビーゾーン、コミュニケーションゾーン、その他

分科会B(人文):メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会B(自然):メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会C:モニター調査、PR企画

(3) 新常設展構築事業

元年12月には展示製作に係る入札を行い、株式会社乃村工藝社が落札した。2年3月、県議会での承認を得て、同社と契約を締結した。

これ以後、展示製作に係る協議、執筆、撮影、資料調査、旧展示撤去、制作、編集等各種作業を進めた。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の状況から、2年4~5月の間、対面による協議等を行うことができなかった。

展示製作に係る協議や各種作業等は、内容によって以下の分科会を設定した上で実施した。

- ・総合定例会
- ・共通コンテンツ分科会
- ・自然史系分科会
- ・人文系分科会
- ・エントランス系分科会

(日程)

6月12日(金) 総合定例会、共通コンテンツ分科会

6月25日(水) 共通コンテンツ分科会、自然史系分

- 科会
- 6月26日(木) 総合定例会、人文系分科会
- 7月16日(木) 共通コンテンツ分科会、自然系分科会、工事系現地調査
- 7月17日(金) 総合定例会、人文系分科会、エントランス系分科会
- 8月17日(月) 総合定例会、自然史系分科会
- 8月18日(火) 共通コンテンツ分科会
- 8月28日(金) 第1回インクルーシブデザインワークショップ
- 8月31日(月) 常設展示室仮囲い設置
- 9月1日(火)~旧常設展資料、備品類の撤去及び各収蔵庫・企画展示室等での仮保管
- 9月18日(金) 第2回インクルーシブデザインワークショップ、自然史系分科会
- 9月25日(金) 自然史系分科会
- 9月26日(土) 人文系分科会
- 9月28日(月) 総合定例会、共通コンテンツ分科会、自然史系分科会
- 9月29日(火) 人文系分科会
- 9月30日(水)~10月1日(木)
第1回新常設展展示内容再点検のためのワークショップ
- 10月16日(金) プレビュー展グラフィック協議
- 10月26日(月) 総合定例会、共通コンテンツ分科会
- 10月27日(火)~28日(水) 自然史系分科会
- 10月28日(水) 人文系分科会
- 11月4日(水)~5日(木) 人文系分科会
- 11月5日(木)~6日(金) 自然史系分科会
- 11月11日(水) ワークショップ「林業の今を聞く」
- 11月16日(月) 人文系分科会
- 11月17日(火) 自然史系分科会
- 11月24日(火) 総合定例会、共通コンテンツ分科会
- 11月26日(木) 自然史系分科会、人文系分科会

- 11月30日(月)~12月1日(火) 人文系分科会
- 12月7日(月)~9日(水) 自然史系分科会
- 12月10日(木)~11日(金) 第2回新常設展展示内容再点検のためのワークショップ
- 12月21日(月) 総合定例会、共通コンテンツ分科会
- 1月12日(火)~13日(水) 自然史系分科会
- 1月25日(月) 総合定例会、共通コンテンツ分科会
- 2月8日(月)~10日(水) 自然史系分科会
- 2月15日(月) 総合定例会
- 2月17日(水)~18日(木) 人文系分科会
- 3月9日(火)~10日(水) 自然史系分科会
- 3月16日(火) 総合定例会

展示製作の過程で、県民や専門家等の協力を得て、委託業務を行う乃村工藝社とともに、各種ワークショップを実施した。

●第1回インクルーシブデザインワークショップ

8月28日(木)

ファシリテーター：山田百合子氏(NPO法人Collable)、塩瀬隆之氏(京都大学総合博物館 准教授)

リードユーザー：6人(徳島県国際交流員1人、徳島県国際交流協会多言語相談員1人、徳島大学留学生4人)

参加者：博物館職員、乃村工藝社社員

外国人にもわかやすい展示方法を検討するため、英語、中国語、韓国語を使うリードユーザーから意見をもらった。

●第2回インクルーシブデザインワークショップ

9月18日(金)

ファシリテーター：山田百合子氏(NPO法人Collable)、塩瀬隆之氏(京都大学総合博物館 准教授)

リードユーザー：5人(徳島県国際交流員1人、徳



第1回インクルーシブデザインワークショップ



第2回新常設展展示内容再点検のためのワークショップ

鳥県国際交流協会多言語相談員 1
人、徳島大学留学生 3 人)

参加者：博物館職員、乃村工藝社社員

各リードユーザーからの意見をふまえ、恐竜、瓦、銅鐸、自然の各テーマについて、具体的な展示方法を検討した。

●第 1 回新常設展展示内容再点検のためのワークショップ

9月30日(水)～10月1日(木)

アドバイザー：染川香澄氏(ハズ・オンプランニング)

参加者：博物館職員、乃村工藝社社員

●第 2 回新常設展展示内容再点検のためのワークショップ

12月10日(木)～11日(金)

アドバイザー：染川香澄氏(ハズ・オンプランニング)

参加者：博物館職員、乃村工藝社社員

アドバイザーを交えての展示内容に関する討議を行った。セクションごとに展示計画を説明し、アドバイザーからのコメントを参考に展示内容の改善策を検討した。

●ワークショップ「林業の今を聞く」

11月11日(水)

講師：工藤剛生氏(一般社団法人やましごと工房 理事長)

参加者：博物館職員

新常設展「徳島の自然と暮らし」のコーナーに関連したワークショップを実施した。

(4) 新常設展グランドオープンに向けた広報戦略策定業務

4月にプロポーザルを実施した結果、株式会社 JTB 総合研究所と契約を結び、委託業務を実施した。新常設展グランドオープンに向けた広報戦略の策定を目的とし、主に他館事例調査、広報戦略コンセプト策定、広報戦略策定支援(キャッチコピー、ロゴマーク等の制作)を実施した。3月には実施報告書が提出された。

(5) 常設展示室・企画展示室の改修・修繕

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受付カウンターへのアクリル製パーティションや次亜塩素酸空間除菌機の設置、展示室入口への非接触型検温器、手指消毒用アルコール等の設置、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等の対策を行った。来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、連絡先の提供、ソーシャルディスタンスの徹底等、展

示室内での各種対策への協力をお願いした。

展示ケースなど各種設備・備品に経年劣化や破損が見られるようになり、早期の改修や修繕が望まれていた。8月30日をもって常設展示室を閉室し、展示製作の一環として常設展示室の必要な箇所の改修を行った。

(6) 常設展の運用における各種の取り組み

常設展リニューアルに向けて準備を進める一方で、現行常設展の手直しなどを進め、より利用しやすく、また、より変化の見えるかたちへと変えていくよう取り組みを継続してきた。これまでであれば、展示室を利用したイベントや展示解説の充実を図るところであるが、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面による活動などへの制約が大きかった。主な取り組みは、以下の通りである。

①部門展示(人文)における多様な展示の展開

人文、自然のテーマを織り交ぜて3回の展示、2回の展示替えを行った(詳細は p.4 参照)。

②キッズ・チャレンジコーナーの利用休止

低年齢の子どもが利用しやすいよう「キッズ・チャレンジコーナー」を設置している。カーペットマットと座卓を設置し、土器パズルや塗り絵など体験学習的な内容を継続してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用を休止し、塗り絵等グッズの配布のみを行った。

③トピックコーナーの更新

速報性、話題性に富んだ展示を心がけている。2年度は更新を2回行った(詳細は p.4 参照)。

④展示解説等の促進

・部門展示「発掘された木の道具」、「骨格標本の世界」で展示解説を行った。

・常設展の展示解説として、学芸員によるイブニング解説「阿波のやきもの」、「きらめく昆虫のひみつ」、「見たことある? 「銅鐸の内側」」、「板碑に見る中世の信仰」、「くらやみで光らせよう」、「徳島の恐竜発見・発掘秘話」、「古文書が語る徳島の歴史」、「古墳から寺院へ」、「動物の骨」を実施した(詳細は p.19 参照)。

・友の会会員を対象に「さよなら常設展 一度限りの夢企画」として常設展展示解説を実施した。

⑤展示解説シート等の配布

・部門展示「発掘された木の道具」、「骨格標本の世界」で、新たに展示解説シートを設置し、配布した。

・「徳島まるづかみ展 展示ガイド」を作成し、徳島まるづかみ展の各会場(特別陳列、移動展、ロビー展示)に設置し、配布した。

- ・常設展示室内数箇所で作りのセルフガイドを設置・配布している。

6. 展示関係出版物

■企画展図録

●第1回企画展図録「蔵出し!とくしま“宝もの”展」

編集・発行 徳島県立博物館

令和2年4月24日発行、A4判70ページ、500部
友の会増刷 200部



企画展図録「蔵出し!とくしま“宝もの”展」の表紙

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

令和2年度は、年間83回計画し、うち70回を実施し、12回が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1回が悪天候のため中止になった。他にクイズラリーを10回計画し、8回行った。また、常設展示室が、リニューアル工事開始に伴い8月で閉室となったことから、これまでの常設展示室での最後の行事となる「さよなら常設展スペシャル」として、「学芸員によるイブニング解説」と「わたしの博物館～過去・現在・未来～」を実施した。

新型コロナウイルス感染症の流行が影響し、普及行事の中止・縮小などがあったが、これまでの積み重ねにより普及行事は県民のあいだにかなり定着してきている。参加者は徳島市内と近郊在住者が多いが、阿南市や美馬市からの参加も見られる。さらに、「歴史散歩」、「野外生きものかんさつ」、「海部自然・文化セミナー」等において、遠隔地域で開催するなど参加者に興味をもっていただけるような工夫をしている。

1. 普及行事

■ワクワクむかし体験

昔の人々の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

12月 2日（日） やきものを作ろう①（成形） 21人

1月 7日（日） やきものを作ろう②（焼成） 20人

■歴史散歩

県内外の遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

10月 4日（日） 渋野の古墳見学 20人

10月 18日（日） 脇町を歩こう 11人

11月 29日（日） 松茂を歩こう 12人

※松茂町歴史民俗資料館共催

■野外生きものかんさつ

野外に出かけて、季節に応じた動植物の観察を行うシリーズ。

4月 25日（土）	初めての植物かんさつ（春編）	中止
5月 9日（土）	花巡り！植物かんさつハイキング 5月～風薫る季節を体感～	中止
6月 7日（日）	初めての植物かんさつ（梅雨期編）	中止
7月 5日（日）	花巡り！植物かんさつハイキング 7月～海開き山開き自然の中へ！	10人
7月 12日（日）	川魚かんさつ	中止
7月 19日（日）	漂着物を探そう！	16人
8月 1日（土）	初めての植物かんさつ（夏編）	16人
8月 9日（日）	夏の昆虫ウォッチング	20人
9月 13日（日）	花巡り！植物かんさつハイキング 9月～秋の七草探してみませんか？～	12人
11月 22日（日）	花巡り！植物かんさつハイキング11月 ～植物の冬支度を見に行こう！～	11人
12月 6日（日）	初めての植物かんさつ（冬編）	19人
1月 31日（日）	初めての植物かんさつ（新春編）	19人

■みどりを楽しもう・味わおう

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習や



野外生きものかんさつ「花巡り！植物かんさつハイキング7月」

18 普及教育

調理を通して学ぶシリーズ。

8月 9日 (日)	葉っぱのスタンプで遊ぼう	11人
8月 30日 (日)	草木染めで外来種対策にチャレンジ	15人
12月 13日 (日)	リースをつくろう	19人

■たのしい地学体験教室

地層や化石、岩石・鉱物などの野外観察や室内での実習を通して学ぶシリーズ。

5月 31日 (日)	化石のレプリカをつくろう	9人
6月 14日 (日)	貝化石標本をつくろう	12人
7月 11日 (土)	アンモナイト標本をつくろう	17人
2月 14日 (日)	木の葉化石の発掘体験	16人
3月 14日 (日)	土柱周辺の地形と地質のかんさつ	26人

■生きものしらべ隊

昆虫や植物、化石などの調べ方を学び、自然の専門家をめざすシリーズ。

5月 24日 (日)	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ	5人
8月 2日 (日)	魚類の頭骨標本をつくろう	10人

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。

4月 25日 (土)	ゼロから始める植物学～植物用語編～	中止
5月 24日 (日)	蒔絵の名工・飯塚桃葉	3人
6月 7日 (日)	ゼロから始める植物学～名前の調べ方編～	中止
7月 24日 (金・祝)	四国遍路と旅日記	14人
8月 1日 (土)	ゼロから始める植物学～標本の作り方編～	10人
8月 8日 (土)	アジアの竜脚類 (福井県立恐竜博	

物館との連携講座)	35人	
12月 6日 (日)	ゼロから始める植物学～植物の名前編～	14人
1月 31日 (日)	ゼロから始める植物学～標本整理編～	6人

■古文書で学ぶ歴史入門

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。

6月 20日 (土)	ゼロからの古文書①	7人
7月 18日 (土)	ゼロからの古文書②	8人
8月 1日 (土)	ゼロからの古文書③	7人
9月 19日 (土)	古文書に親しむ①	21人
10月 17日 (土)	古文書に親しむ②	18人
11月 14日 (土)	古文書に親しむ③	17人
12月 19日 (土)	古文書に親しむ④	19人
1月 16日 (土)	古文書に親しむ⑤	14人

■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。全4回のうち1回は海陽町立博物館職員が担当した。

6月 21日 (日)	海と魚食文化	9人
7月 19日 (日)	四国南東部の地形と地質みどころ案内	19人
8月 23日 (日)	徳島の郷土刀 海部刀	26人
10月 25日 (日)	役行者の虚実と修験道	23人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」関連行事		
4月 26日 (日)	企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」展示解説&バックヤードツアー	中止
5月 5日 (火・祝)	企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」展示解説	中止



たのしい地学体験教室 アンモナイト標本をつくろう



古文書で学ぶ歴史入門 古文書に親しむ

- 5月17日(日) 企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」展示解説 22人
 6月7日(日) 企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」展示解説 36人

●企画展「甲虫すごいぜ!」関連行事

- 7月12日(日) 企画展「甲虫すごいぜ!」展示解説 180人
 7月26日(日) プロの技! 標本づくり実演&昆虫なんでも相談室① 40人
 7月26日(日) プロの技! 標本づくり実演&昆虫なんでも相談室② 110人
 8月9日(日) 企画展「甲虫すごいぜ!」展示解説 54人
 8月23日(日) プロの技! 標本づくり実演&昆虫なんでも相談室① 30人
 8月23日(日) プロの技! 標本づくり実演&昆虫なんでも相談室② 40人
 8月30日(日) 企画展「甲虫すごいぜ!」展示解説 57人

●特別陳列「徳島まるづかみ展 県央編第1期」関連行事

- 11月8日(日) 特別陳列「徳島まるづかみ展」展示解説 25人
 11月14日(土) 三葉虫を調べよう 15人
 11月29日(日) 特別陳列「徳島まるづかみ展」展示解説 9人

●移動展「徳島まるづかみ展 県西編」関連行事

- 1月10日(日) 展示解説&ワークショップ 中止
 1月17日(日) 展示解説&ワークショップ 16人

●移動展「徳島まるづかみ展 県南編」関連行事

- 2月14日(日) 展示解説&ワークショップ 10人
 2月28日(日) 展示解説&ワークショップ 13人

●部門展示関連行事

- 4月19日(日) 部門展示「発掘された木の道具」展示解説 中止
 5月17日(日) 部門展示「発掘された木の道具」展示解説 26人
 7月26日(日) 部門展示「骨格標本の世界」展示解説 36人

■その他の普及行事等(博物館スペシャルなど)

- 文化の森こどもの日フェスティバル
 5月5日(火・祝日) 中止
 ●教員のための博物館の日 in 徳島
 7月22日(水) 中止
 ●わたしの博物館～過去・現在・未来～
 7月23日(木)～8月30日(日)
 博物館の思い出やお気に入りの展示資料、新しい博

物館への希望や夢について、来場者に文章や絵で紙に表現してもらい、エントランスで展示した。

参加者:206人

●とくしま藍の日スペシャル「藍の葉っぱで遊ぼう」

7月24日(金)

7月24日がとくしま藍の日ということで、タデアイを使って、藍染めについての体験的な活動を行った。企画展による集客の影響から、例年の5倍以上の参加者があった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者の間隔をあける工夫に努めた。

参加者:152人

●標本の名前を調べる会

8月22日(土)

毎年8月に行う恒例の行事で、学芸員のほか3人の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。

参加者:6人

●文化の森サマーフェスティバル

8月23日(日)

中止

●さよなら常設展スペシャル「学芸員によるイブニング解説」

リニューアル工事の開始に伴い、常設展示室が8月で閉室となることから、これまでの常設展示室での最後の行事として、実施した。学芸員一人一人が担当展示の解説を通して、県民に思いを伝え、共に常設展を振り返った。

8月1日(土) 「阿波のやきもの」 参加者:2人

8月8日(土) 「きらめく昆虫のひみつ」

参加者:4人

8月8日(土) 「見たことある? 「銅鐸の内側」」

参加者:8人



学芸員によるイブニング解説「古墳から寺院へ」

20 普及教育

8月15日(土) 「板碑に見る中世の信仰」

参加者：5人

8月22日(土) 「くらやみで光らせよう」

参加者：4人

8月22日(土) 「徳島の恐竜発見・発掘秘話」

参加者：6人

8月22日(土) 「古文書が語る徳島藩の歴史」

参加者：3人

8月29日(土) 「古墳から寺院へ」

参加者：5人

8月29日(土) 「動物の骨」

参加者：1人

●インクルーシブデザインワークショップ

外国人にわかりやすい展示づくりのため、英語、中国語、韓国語を使うリードユーザーとワークショップを行った。

8月28日(金) (参加者：6人 専門家：2人)

9月18日(金) (参加者：5人 専門家：2人)

●文化の森 大秋まつり !!

11月3日(火・祝) 中止

文化の森全体でウォークラリーのみ実施した。

●文化の森ウィンターフェスティバル

2月11日(木・祝) 中止

文化の森全体でウォークラリーのみ実施した。

●博物館Vキング

2月11日(木・祝)

「博物館資料のレプリカを作ろう」、「押し花でしおりをつくろう」の2つのハンドクラフト体験を行うとともに、「恐竜ペーパークラフト」キットを配布した。

参加者：24人

ボランティアスタッフ：10人

●鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

2月21日(日)

鳥居龍蔵記念博物館との共催。少年時代に徳島の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、後に世界的な研究活動を展開した鳥居龍蔵の取り組みを踏まえ、中学生・高校生による自主的な歴史文化研究の支援と人材育成のため、平成28年度から実施し、5回目となる。研究レポート(鳥居龍蔵研究、地域研究)を公募し、フォーラム(発表会)での口頭発表をしてもらった上で、優れた成果を表彰した。応募は中学生3件、高校生5件で、中学生3件、高校生5件を表彰対象とした。

参加者：90人

●クイズラリー

毎月第2・第4土曜日に、高校生以下を対象にクイズラリーを実施している。この行事は、常設展の活用と入館者の獲得を目的に行っており、参加者が展示資料に関する簡単な問題を解きながら観覧することで、

新しい発見につながることを期待している。参加者全員に記念品を贈呈している。

4月11日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

4月25日 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

5月16日 29人(未就学 17・小 11・中1・高0)

5月23日 71人(未就学 50・小 20・中1・高0)

6月13日 98人(未就学 58・小 40・中0・高0)

6月27日 82人(未就学 34・小 48・中0・高0)

7月11日 191人(未就学 91・小 99・中0・高1)

7月25日 296人(未就学 0・小 296・中0・高0)

8月8日 82人(未就学 48・小 34・中0・高0)

8月22日 84人(未就学 43・小 36・中1・高4)

以降は、常設展示室リニューアル工事のため中止。

参加者合計 933人(未就学 341・小 584・中3・高5)

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとっては遠足での博物館見学以外にも様々な活用ができる。また、学習指導要領にも、博物館等の社会教育機関の活用が明記され、博物館に対しても積極的な学校教育への支援が要請されている。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携(博学連携)のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣(出前授業)、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ定期的に案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつあり、令和2年度においても館内での授業や資料貸出は、例年と同数程度の利用の依頼があった。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援(館内授業)

講座室や実習室において、理科や社会科の授業と関連して、学年単位で博物館が利用されている。受け入れに当たっては、展示資料だけではなく、必要に応じて収蔵資料を見たりさわったりしてもらうなどの体験的な活動も取り入れている。

①横瀬小学校(勝浦町) 7月28日(火)

6年生 12人

- 勝浦町の恐竜化石について（講師：辻野）
 ②論田小学校（徳島市） 9月25日（金）
 3年生 75人
 変わる私たちの暮らし（講師：磯本）
 ③北井上小学校（徳島市） 10月16日（金）
 3年生 25人
 昆虫のひみつ（講師：山田）
 ④北井上小学校（徳島市） 10月16日（金）
 1年生 22人
 生活科（あきであそぼう）（講師：茨木）
 ⑤高原小学校（石井町） 10月20日（火）
 3年生 33人
 昔の道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑥徳島大学あゆみの森保育園（徳島市）10月23日（金）
 5歳児 20人
 どんぐりの木を見つけよう など（講師：茨木）
 ⑦上八万小学校（徳島市） 10月30日（金）
 5年生 49人
 化石について（講師：中尾）
 ⑧上八万小学校（徳島市） 10月30日（金）
 3年生 50人
 かわる道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑨貞光中学校（美馬郡） 11月13日（金）
 1年生 15人
 草木染めにチャレンジ（講師：小川）
 ⑩長生小学校（阿南市） 11月26日（木）
 5年生 21人
 メダカと環境（講師：井藤）
- 3年生 85人
 昆虫のつくりと育ち（講師：山田）
 ⑥上八万小学校（徳島市） 9月17日（木）
 5年生 50人
 暮らし・いのちをみつめよう（講師：井藤）
 ⑦土成小学校（阿波市） 11月13日（金）
 6年生 36人
 地層について（講師：中尾）
 ⑧高越小学校（吉野川市） 12月9日（水）
 6年生 23人
 国づくりの歩み（講師：植地・岡本）
 ⑨助任小学校（徳島市） 12月15日（火）
 6年生 149人
 おそいかかる空襲（講師：松永）
 ⑩津田小学校（徳島市） 1月13日（水）
 3年生 85人
 昔の道具と暮らし（講師：庄武）
 ⑪内町小学校（徳島市） 1月19日（火）
 3年生 49人
 かわる道具と暮らし（講師：庄武）
 ⑫川内北小学校（徳島市） 1月20日（水）
 3年生 101人
 わたしたちの徳島市のあゆみ（講師：庄武）
 ⑬加茂名小学校（徳島市） 1月20日（水）
 3年生 73人
 かわる道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑭羽ノ浦小学校（阿南市） 1月21日（木）
 3年生 108人
 わたしたちの市の歩み「かわる道具と暮らし」
 （講師：磯本）
 ⑮昭和小学校（徳島市） 1月26日（火）
 3年生 81人
 かわる道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑯牛島小学校（吉野川市） 1月27日（水）
 3年生 27人
 かわる道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑰加茂名南小学校（徳島市） 1月29日（金）
 3年生 106人
 昔の道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑱渋野小学校（徳島市） 2月3日（水）
 4年生 36人
 かわる道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑲知恵島小学校（吉野川市） 2月4日（木）
 3年生 20人
 かわる道具と暮らし（講師：磯本）
 ⑳森山小学校（吉野川市） 2月5日（金）
 3年生 23人

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①脇町高校（美馬市） 5月9日（土）
 教員・生徒 4人
 課題研究現地調査（講師：井藤）
 ②脇町高校（美馬市） 5月15日（金）
 教員2人
 スーパーサイエンスハイスクール課題研究（講師：井藤）
 ③文理小学校（徳島市） 6月24日（水）
 6年生 57人
 国づくりの歩み（講師：植地・岡本）
 ④特定非営利活動法人オーティの会（徳島市）
 7月19日（日）
 小学2年生～高校1年生・大学生ボランティア 25人
 昆虫採集体験（講師：山田）
 ⑤津田小学校（徳島市） 8月27日（木）

22 普及教育

- かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ②①吉井小学校（阿南市） 2月10日（水）
3年生 12人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ②②柿原小学校（阿波市） 2月19日（金）
3年生 23人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ②③高越小学校（吉野川市） 3月2日（火）
3年生 34人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ②④見能林小学校（阿南市） 3月3日（水）
3年生 73人
かわる道具とくらし（講師：庄武）

(3) 遠足

保育園・幼稚園、各種学校、教育関係機関等の来館がある。受付案内員による常設展示の解説や、企画担当職員による体験的な活動、ワークシートを使った案内などを行っている。

過去5年間の校種別入館件数、地域別入館件数は、表の通りである。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入館件数の大幅な減少が見られる。入館した学校は、徳島市が圧倒的に多い。当館より遠くなるにつれて少なくなるが、県下各地からの入館がある。遠足に館内授業を組み合わせるなどの仕掛けがさらに必要である。香川県の学校からの入館もここ数年続いていたが2年度はなかった。

(4) 博物館資料の学校への貸し出し

小・中学校及び高校の授業等で活用してもらうため、10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、15年度末には「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

- ①南部中学校（徳島市） 6月26日～7月10日
貸出資料：写真パネル10、徳島大空襲遺物2、焼夷弾（複製）1 計13点
使用目的：徳島大空襲に関する学びをとおして、戦争と平和について考えるため。
- ②城南高等学校（徳島市） 10月19日～11月7日
貸出資料：一遍聖絵（複製）巻四 計1点
使用目的：3年生の日本史Bの授業で活用
- ③八万南小学校（徳島市） 10月21日～11月20日
貸出資料：セラティテス（アンモナイト）、ナウマンゾウ右下顎骨と第4乳臼歯（レプリカ）
プテロトリゴニア（二枚貝）、植物化石（ブナ？の葉） 計4点
使用目的：理科授業で使用するため
- ④海南小学校（海陽町） 10月25日～11月15日
貸出資料：アンモナイト（ネパール産）4・（マダガスカル産）7・サメの歯5・モササウルスの歯5・三葉虫5 計26点
使用目的：理科授業で使用するため
- ⑤八万小学校（徳島市） 10月28日～11月11日
貸出資料：三葉虫7・アンモナイト（マダガスカル産）7・カルカロドンの歯7・モササウルスの歯7・ヌムリテス7 計35点
使用目的：理科授業で使用するため

校種別入館件数

年度	幼稚・保育園	小学校	中学校	高校	その他※	計
H28	26	58	3	1	11	99
H29	32	63	3	7	4	109
H30	37	60	3	1	22	123
R1	22	63	0	4	50	139
R2	6	19	1	0	8	34

※放課後児童クラブ、発達支援施設など

地域別入館件数

年度	徳島市	板野郡	鳴門市	小松島市		阿南市	名西郡 名東郡	阿波市	吉野川市	那賀郡	美馬市	三好市	県外	計
				海部郡	美馬郡					三好郡				
H28	52	4	3	9	6	3	5	5	5	1	3	3	99	
H29	52	6	8	3	13	2	8	5	3	1	4	4	109	
H30	49	18	4	9	17	4	5	6	5	2	2	2	123	
R1	53	34	3	7	19	2	4	8	3	3	2	1	139	
R2	18	3	0	5	4	1	1	0	0	2	0	0	34	

- ⑥助任小学校（徳島市）12月 4日～12月15日
貸出資料：写真パネル11、徳島大空襲遺物2、焼夷弾（複製）1 計14点
使用目的：徳島大空襲についての理解を深めるため
- ⑦加茂名小学校（徳島市）1月13日～1月15日
貸出資料：千歯こき1、田打ち車（除草器）1、洗濯板1、羽釜1 計4点
使用目的：3年生の社会科授業で使用するため
- ⑧西麻植小学校（吉野川市）1月15日～1月30日
貸出資料：糸車 1点

(5) 職場体験の受け入れ

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①城南高校（徳島市）7月25日～26日
1年生 2人
- ②池田高校（三好市）8月 1日～ 2日
3年生 1人
- ③城東高校（徳島市）8月 4日～ 5日
2年生 2人
- ④城西高校 神山校（徳島市）8月28日～29日
2年生 1人
- ⑤高知大学（県庁インターンシップ）9月 1日
2年生 1人
- ⑥岡山大学（県庁インターンシップ）9月 1日
3年生 1人

(6) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たっている。

- ①教員のための博物館の日 in 徳島 2020
（大学・研究機関等研修、フレッシュ研修、ミドルリーダー研修）
7月22日（水） 中止

(7) その他

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業や放課後児童クラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じることとしている。

3. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する"Culture Club"、館藏品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・8ページ(全ページカラー)で8,000部を印刷している。

令和2年度は、次の4号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

● No.119 (2020年6月25日発行)

- 表紙 まばゆい甲虫
Culture Club 山伏の中世と近世－仙光寺文書は語る－
企画展 甲虫すごいぜ！
歴史散歩 香川県高松市 屋嶋城跡
情報ボックス 石灰岩植物～過酷な環境に生える植物たち～
Q&A 画家の藤重春山について教えてください。

● No.120 (2020年9月15日発行)

- 表紙 常設展全面リニューアルと「徳島まるづかみ展」
特集 徳島県立博物館事始め
特集 兵庫県南部地震の調査－これまでの仕事の中で、もっとも印象に残っていること－
特集 私と徳島県立博物館
特集 待望の常設展リニューアル
新常設展プレビュー企画 「徳島まるづかみ展」

● No.121 (2020年12月5日発行)

- 表紙 飛び出せ博物館!! 徳島まるづかみ展・県西編
特集 新常設展の私のイチオシ! 木偶
特集 新常設展の私のイチオシ!
谷田蒔絵 扇軍配散模様料紙硯箱
特集 新常設展の私のイチオシ!
徳島はカタツムリ王国
特集 新常設展の私のイチオシ!
海部川の生きもの 徳島県南部のアカメ
移動展 「徳島まるづかみ展・県西編」

● No.122 (2021年3月25日発行)

- 表紙 特別陳列 徳島まるづかみ展－コミュニケーションで展示を楽しもう!－
Culture Club 徳島県の恐竜化石の発見史
(1993年～2020年)
特別陳列 徳島まるづかみ展－コミュニケーションで展示を楽しもう!－
収藏品紹介 守川保忠「四国旅日記」－徳島藩士の四国遍路－
情報ボックス 古墳の被葬者は女性?男性?

Q & A 花の色の紙を作れるって本当ですか？

(2) その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したA4判パンフレットを7万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領や申込み方法等の案内を印刷した、A3判またはA4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどを説明した印刷物。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介したパンフレット。

Ⅲ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなすものである。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、14人の学芸スタッフがこの業務に携わっている。

1. 課題調査

令和2年度は、次の1件の課題調査を行った。

(1) 徳島県におけるミミズハゼ属魚類の分布解明と本属魚類における環境DNAの有効性の検証

ミミズハゼ属魚類は、河川や河口の伏流水中や、干潟、沿岸域の水深20～50mの泥底あるいは転石帯・砂礫の隙間に生息する。このような環境は、防波堤の設置や干潟の埋め立て等、人為的な影響を受けやすいため、近年、本属魚類の複数の種がその個体数を減少させ、絶滅危惧種や準絶滅危惧種等に指定されている。本属魚類の保護には分類学的整理を進めると共に、各



課題調査「徳島県におけるミミズハゼ属魚類の分布解明と本属魚類における環境DNAの有効性の検証」

種の生息状況を把握することが必須だが、本属が生息する環境は潮汐や波浪の影響を受けやすく、調査地点も絞りにくいいため全国的にあまり調査が進んでいない。また、伏流水が豊富な砂礫の隙間の奥深くで生活する種が多く、一般的な魚類採集方法では採集が困難で、本属魚類の生態を熟知した者が専門的な調査を行わなければ採集できない種が多い。

徳島県でも、ミミズハゼ属魚類を中心とした調査報告はなく、数年から数十年前に散発的に数種が報告されているのみである。徳島県は瀬戸内海・太平洋に面し、海峡等の多様な沿岸環境を持つ地域であることから、これまで報告されていないミミズハゼ属魚類が未だ数多く生息していると予想される。本調査では徳島県に生息するミミズハゼ属魚類の分布状況を最新の分類学的情報を基にして調査し、環境DNAの手法を試行的に取り入れ、採集が困難な種が多く、砂礫の隙間の奥深くに生息するという特殊な生態を持つ本属魚類の分布調査において、本手法がどれほど有効かを検証した。

●調査メンバー

博物館学芸員：井藤大樹（動物）
：佐藤陽一（動物）
館外調査員：乾 隆帝（福岡工業大学准教授）
：奥村大輝（美馬市在住 アマチュア研究者）

●調査概要および結果

徳島県内の沿岸（播磨灘、紀伊水道、太平洋）および河川において計26地点を調査し、15種のミミズハゼ属魚類とミミズハゼ属魚類に近縁な3種が採集された。これらのうち、ミミズハゼ属魚類11種とミミズハゼ属魚類に近縁な3種は徳島県での初記録種であった。さらに、県南部で採集されたイドミミズハゼの中に形態と生態が異なる2型が確認された。これらの成果についてはすでに学術論文5編が発表済みであり、残りの成果についても学術論文としてまとめて発表する予定である。本調査によって、徳島県においてこれまで知られていなかった魚類が多数生息していることが明らかになった。

DNA分析にあたっては、対象領域のPCR増幅がうまく増幅される種と増幅されない種がみられ、試葉の選定やサーマルサイクラーの温度・時間設定を検討

する必要があり、現在、条件を変えて分析を進めている。

2. 日本最古級恐竜化石含有層調査・ 発信プロジェクト

徳島県勝浦町には、白亜紀前期（約1億3000万年前）の地層である立川層が分布する。平成6年に立川層から四国初となる鳥脚類イグアノドン類の歯化石が発見された。その後、平成28年に徳島県で2つ目の恐竜の化石（竜脚類ティタノサウルス形類の歯）が発見された。この発見を受け、当館は、福井県立恐竜博物館や徳島県内の化石愛好家の協力を得て、同年冬から30年春まで、断続的に恐竜化石発見地点周辺の地質調査を行ってきた。その結果、30年4月に恐竜化石などの脊椎動物化石を多く含む層（ボーン・ベッド）を発見し、多数の恐竜化石を採集した。そして、30年冬から発掘調査を開始し、令和2年度も10月1日から12月25日までの約3か月間、発掘調査を実施した。

令和2年度の発掘調査は、化石産地周辺の保安林解除が完了したことから、重機（ショベルカー）を複数台導入し、ボーン・ベッドが分布する斜面上部から掘削を行った。化石が含まれる可能性が高い岩石は、発掘現場近くにある敷地や後方支援施設（徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校勝浦 かんきつテラスとくしま）に運搬し、県内の化石愛好家や阿波井戸端塾などの協力を得て、岩石の小製作業と化石の探索を行った。発掘調査では、獣脚類の肢骨などの化石を発見した。

●調査メンバー

博物館学芸員：辻野泰之（地学）・中尾賢一（地学）
小布施彰太（地方創生推進員）
佐藤陽一（動物）

館外調査者：柴田正輝（福井県立大学・福井県立恐竜博物館）
河部壮一郎（福井県立大学・福井県立恐竜博物館）
中山健太郎（福井県立恐竜博物館）
安里開士（福井県立恐竜博物館）
小笠原憲四郎（筑波大学名誉教授）
橋本寿夫（元・板野中学校）
両角芳郎（元・徳島県立博物館）
元山茂樹（鳴門高校）

調査協力者：35名（徳島県化石同好会・徳島化石研究会・阿波勝浦井戸端塾・阿南市科学センター・金沢大学大学院生・広島大学大学院生・福井県立大学生など）

業務委託業者：6名

●調査日程

10月1日（木）～12月25日（金）：化石発掘現場での調査

12月17日（木）～12月24日（木）：後方支援施設での作業

●調査概要および結果

化石発掘現場の調査および後方支援視察での小製作業において、獣脚類の肢骨の化石などを含む84点の脊椎動物化石を発見した。

内訳は以下のとおりである。

・獣脚類の肢骨	1点
・恐竜の骨質した腱	1点
・カメの甲羅	44点
・ワニの歯	3点
・硬鱗魚などの魚類のウロコ	10点
・淡水生サメ類の歯	5点
・その他 骨片	20点

採集された脊椎動物化石は、現在も徳島県立博物館で、整理作業を行い、岩石から取り出すためのクリーニングを実施中である。

●勝浦町恐竜化石発掘活性化協議会

徳島県をはじめ勝浦町、関係団体等が密接な連携のもと、恐竜化石産地周辺の環境に配慮した発掘調査を促進し、県民参加型の発掘の仕組みの検討や恐竜を核とした魅力の発信等を通じて、徳島県及び勝浦町の地方創生、地域活性化を図ることを目的にして協議会を設置している。2年度は2回開催した。

第5回 令和2年9月17日（木）

13時30分～15時

会場 勝浦町住民福祉センター

第6回 令和3年3月11日（木）

14時～15時30分

会場 徳島県立博物館



発掘作業の様子

●勝浦町恐竜発掘活性化協議会委員等名簿

(令和3年3月31日現在)

氏名	役職等
小笠原 憲四郎 (委員長)	筑波大学名誉教授、元国立科学博物館客員研究員
石田 啓祐	徳島大学名誉教授
岩城 秀行	徳島県化石同好会代表 (代理)
稲井 稔	特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端塾理事長
中田 明男	地元自治区長
小椋 昇明	徳島県未来創生文化部副部長
東條 揚子	徳島県文化の森振興センター副所長
新居 美佐子 (副委員長)	徳島県立博物館長
市川 公雄 (副委員長)	勝浦町教育委員会教育長
石木 正昭	勝浦町教育委員会事務局長
山上 達也	徳島県政策創造部地方創生局とくしま回帰推進課長
吉田 貞伸	徳島県商工労働観光部観光政策課長
寺尾 由美	勝浦町企画交流課長
東 洋一 (オブザーバー)	福井県立恐竜博物館名誉顧問、福井県立大学名誉教授

3. 分野別 (個別) 調査研究

山田量崇 (動物・無脊椎動物)

①トコジラミ上科半翅類の外傷性授精に関する研究
トコジラミ類の特異的な交尾様式について、とくに雌雄交尾器の機能と構造に着眼して研究を進めた。

②ムクゲカメムシ下目の分類学的研究
ムクゲカメムシ下目カメムシ類の分類学的研究を進めた。徳島県や島根県など西日本の各地からクリイロムクゲカメムシ属の新種を発見、記載した。

③半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明

国内外で得られたカメムシ亜目昆虫の雌雄交尾器を詳細に観察し、形態データを抽出した (北海道大学科研費による分担研究)。

佐藤陽一 (動物・脊椎動物)

①ドローンによる県内河川・海岸の空撮

淡水魚類等の生物の分布は河川争奪や盆地・平野の氾濫原などにおける溢流など地史の影響を大きく受けていると考えられる。その表れが地形である。これまで関心ある地域の空撮は手軽にできるものではなかったが、高性能で小型のドローンが開発されたことにより、容易に撮影できるようになった。当館では昨年度末にドローンを導入し、平成30年度より河川流域の空撮を開始した。令和元年度は吉野川水系や那賀川水系などの河川、播磨灘、紀伊水道、県南の千羽海岸など、広範囲な地形撮影を行った。また、日本最古級恐竜化石含有層緊急発掘調査事業に関連し

て発掘調査および勝浦川流域の撮影も行った。

井藤大樹 (動物・脊椎動物)

①徳島県淡水魚類相調査

シマヒレヨシノボリの県内での分布調査 (国松翔太氏と共同) や本県で初となるイワナとアマゴの交雑個体の報告 (古川 学氏と共同) を行った。

②徳島県でのミミズハゼ属魚類の調査

徳島県でのミミズハゼ属魚類の分布や形態、分子遺伝学的特徴に関する調査を行った (乾 隆帝氏、奥村大輝氏と共同)。

③ホトケドジョウ類の進化および分類学的研究

日本産ホトケドジョウ類の進化や分類に関する研究を進めた。

小川 誠 (植物)

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った (木下 覺氏らと共同)。また、2年度は阿波学会の調査をかねて海陽町の植物相について調査を行った。

②タンポポの分布調査

市民参加型調査であるタンポポ調査を3月1日より実施した。

③自然に興味を持ってもらうためのツールの開発

「博物館から提案する、新しい外来種対策手法ー楽しみながらオオキンケイギクの繁殖抑制ー」のタイトルでオオキンケイギクの花を草木染に用いて、種子繁殖を抑制する手法を確立した。

茨木 靖 (植物)

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った (木下 覺氏らと共同)。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況に関する調査を行った (濱 直大氏らと共同)。

中尾賢一 (地学)

①鮮新統～更新統の貝化石相の調査

高知県で堆積構造の観察と貝化石の採集及び二枚貝類の分類学的研究を行った (三本健二氏と一部共同)。

②勝浦町及び上勝町に分布する白亜紀層に関する調査
勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した (福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会などと共同)。

③海陽町の地質調査

海陽町竹ヶ島、大砂海岸などで地質調査を行った (徳島大学理工学部などと共同)。

④ 5万分の一図幅「鳴門海峡地域の地質」、陸海シームレス地質情報集作製、および兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録関連事業のための調査

阿波市、鳴門市、淡路島で地質調査および研究の打ち合わせ等を行った（産総研地質調査総合センター、徳島大学理工学部、兵庫県立人と自然の博物館と共同）。

辻野泰之（地学）

① 北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

② 勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した（福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会などと共同）。

③ 阿讃山脈産の白亜紀後期アンモナイトに関する調査

阿讃山脈に分布する白亜紀後期の地層の和泉層群産の異常巻きアンモナイトの分類学的研究を行った（北九州市立自然史・歴史博物館と共同）。

植地岳彦（考古・保存科学）

① 館蔵鉄製品の保存科学的調査

節句山古墳、泉谷古墳出土鉄製品の発錆状況について保存科学調査と保存処理を継続して行った。

② 博物館等の展示及び収蔵に関する環境・設備の調査

展示室、収蔵庫の温度・湿度の変動と有機酸・アンモニアの発生状況について調査した。

③ 若杉山遺跡出土赤色顔料の調査

若杉山遺跡発掘調査出土赤色顔料に関する資料調査を行った。

④ 赤外線調査

県内市町の教育委員会、博物館・資料館、個人等の依頼を受け、棟札などの赤外線調査を行った。

⑤ 外部から依頼された文化財等の材質調査などを実施した。

岡本治代（考古・保存科学）

① 四国地方における古代軒瓦の文様系譜・技術系譜の整理

香川県を中心に、軒瓦の文様系譜・技術系譜を整理した。

② 四国地方における鬼瓦の調査

香川県高松市讃岐国分寺跡、善通寺市善通寺、丸亀市法勲寺の鬼瓦の調査を行った。

③ 阿南市若杉山遺跡出土遺物の調査

若杉山遺跡出土遺物の再整理及び記録作成を行った。

④ 鳥居龍蔵の近畿調査関連資料の調査

鳥居龍蔵が1917年（大正6）に行った近畿地方での遺跡調査に関連する資料を調査した。

⑤ 鳥居龍蔵の中国東北部・内モンゴル調査関連資料の調査

慶稜・慶州城などで採集された瓦やフィールドノートなどの資料の調査を行った。

長谷川賢二（歴史）

① 中近世移行期における山伏の動向に関する研究

阿波をフィールドとして、従来の修験道史研究における中近世移行期理解を再検討する作業を継続した。

② 四国遍路形成史の研究

四国遍路形成における熊野信仰の影響や時期的な推移について再検討した。

③ 晩年の鳥居龍蔵の学知をめぐる調査

鳥居龍蔵記念博物館所蔵資料にもとづき、晩年の鳥居龍蔵の学問的関心、とくにアジア諸民族史の構想について検討した。

松永友和（歴史）

① 四国遍路に関する調査

江戸時代における四国遍路の歴史を調査した。特に、遍路日記に注目し、武士身分の者による四国遍路の位置付けを検討した。

② 阿波藍に関する調査

江戸時代における阿波藍の歴史を調査した。当館所蔵の手塚家資料の調査を進めた。

③ 鳥居龍蔵および周辺人物に関する調査

鳥居龍蔵の周辺人物、特に本山彦一と坪井正五郎を中心に、鳥居龍蔵記念博物館が所蔵する資料を調査した。

④ 徳島藩に関する概要調査

新常設展の構築にあたり、徳島城の特徴や徳島藩の支配構造、藩領社会（町・村）などについて概要を調査した。

⑤ 近現代の徳島に関する調査

新常設展の構築にあたり、近代徳島の人物などについて概要を調査した。

庄武憲子（民俗）

① 徳島県内の人形座に関する調査

徳島市の大谷旭源之丞座と共同で、同座所蔵の人形浄瑠璃資料の調査記録を行った。

② 民家に遺された神札の調査

徳島県内の民家に遺された神札についての資料整理、調査を行った。成果の一部を令和3年度企画展で公表する予定。

磯本宏紀（民俗）

①移住漁民による技術移動と定住に関する民俗学的研究

徳島県を出身地とする移住漁民を対象に、移住の経緯と都市部定住後の技術移動や生業、コミュニティの形成の把握を目的に調査研究を行った。

②新常設展展示製作のための調査

新常設展の展示テーマに関連して、聞き取り調査、写真撮影、映像撮影を行った。

③朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化

カタクチイワシ漁と加工法及び食文化の植民地期の朝鮮への伝播と、戦後におけるそれらの変遷及び文化的影響についての共同研究に参加している（国立歴史民俗博物館科研費の研究分担者）。

④地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

⑤ポスト专业化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から

生業遂行にあたり、従事者のコストとモチベーション、その調整過程の解明を元に、限界性を見極めた持続可能な生業遂行モデルを考察した（聖徳大学科研費の研究分担者）。

⑥「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクトにおける漁業民俗に関する調査

淡路島、沼島、鳴門等の鳴門海峡周辺地域における漁業及び漁業民俗に関する調査を行った（「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会との共同）。

大橋俊雄（美術工芸）

①江戸時代の阿波の画壇についての調査

江戸時代に阿波で活動がみられた狩野派、住吉派、文人画派などについて、資料と作品を調査した。

②阿波の工芸品についての調査

刀剣、漆器、焼き物など、阿波にゆかりの深い作品、作者について調査した。

4. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）

課題調査及び分野別（個別）調査研究等について、

学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。令和2年度は次の通り実施した。

6月3日（水） 小布施彰太「下部白亜系北谷層のワニ形類の多様性」

1月29日（金） 井藤大樹「課題調査報告「徳島県におけるミミズハゼ属魚類の分布解明と本属魚類における環境DNAの有効性の検証」」

5. 科学研究費補助金等による研究

●基盤研究（B）：朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化（平成29～令和3年度）

研究代表者：松田睦彦氏（国立歴史民俗博物館准教授）

当館の研究分担者：磯本宏紀

●基盤研究（B）：半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明（平成31～令和5年度）

研究代表者：吉澤和徳氏（北海道大学農学部准教授）

当館の分担研究者：山田量崇

●基盤研究（B）：霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究（令和2～6年度）

研究代表者：胡光氏（愛媛大学法文学部教授）

当館の分担研究者：長谷川賢二、松永友和

●基盤研究（C）：ポスト专业化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から（平成31～令和3年度）

研究代表者：石本敏也氏（聖徳大学文学部准教授）

当館の研究分担者：磯本宏紀

●若手研究：新たな環境への進出と進化：ホトケドジョウ属における源流域への進出と進化プロセス（令和2～令和4年度）

研究代表者：井藤大樹

●全国科学博物館活動等助成事業「博物館から提案する、新しい外来種対策手法—楽しみながらオオキンケイギクの繁殖抑制—」

研究代表者：小川 誠

6. 他機関との共同研究

●若杉山遺跡出土品に関する調査

国の史跡に指定された若杉山辰砂採掘遺跡から出土し、館が所蔵している石器、土器に関する調査を行った（徳島県文化資源活用課と共同）。

●タンポポ調査・西日本 2020

近畿、中国、四国の17府県の広域にわたりタンポポ調査を実施した（兵庫県立人と自然の博物館や倉敷市立自然史博物館、高知県立牧野植物園などと共同）。

●勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査

勝浦町の恐竜化石含有層の周辺地域の地質調査や化石の探索を実施した（福井県立恐竜博物館や徳島県化石同好会と共同）。

●「鳴門海峡地域の地質」図幅および陸海シームレス地質情報集の作製のための調査

阿波市、鳴門市、兵庫県南あわじ市で地質調査を行った（産総研地質調査総合センターおよび徳島大学理工学部と共同）。

●地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館との共同）。

●「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト

兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会の活動の一環として、鳴門の渦潮と淡路島、の文化遺産の調査を行った（「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会との共同）。

7. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第31号の発行

2021年3月24日発行、A4判101ページ、600部
(*印：館外研究者)

論文

近藤洋一*・中尾賢一：鳴門海峡海底からスイギュウ化石の発見. p.1-6.

清水孝昭*：愛媛県宇和海沿岸より得られたフグ目魚類4種の記録. p.7-12.

清水孝昭*：愛媛県瀬戸内海域から得られた魚類8種の記録. p.13-21.

調査報告・資料紹介

大原賢二*・山田量崇：アサギマダラの移動に関する

徳島県の記録（2020年）. p.23-41.

短報

井藤大樹・古川 学*：徳島県那賀川水系から得られたイワナとアマゴの交雑個体. p.43-48.

奥村大輝*・井藤大樹・平石成伸*：徳島県から得られたオチヨコナガミミズハゼ（スズキ目：ハゼ科）. p.49-52.

国松翔太*・井藤大樹：徳島県立博物館所蔵標本からみた徳島県におけるシマヒレヨシノボリの分布. p.53-58.

小川 誠・大原賢二*：徳島県阿南市におけるナガエツルノゲイトウ（ヒユ科）の新産地. p.59-61.

研究ノート

谷岡 仁*：アズマモグラと同定されていた徳島県産モグラ標本の検討. p.63-67.

資料紹介

植地岳彦・岡本治代：徳島県阿南市若杉山遺跡出土石器類. p.69-98.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

(*印：館外研究者)

●動物

〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）

☆Yasunaga, T., Yamada, K. & Ohno, T.* (2020.4) A new species of the genus *Loricula* Curtis from central Honshu, Japan (Heteroptera: Microphysidae). *Zootaxa*, 4759: 98-106.

☆Yamada, K. & Hayashi, M.* (2020.5) First East Asian record of the genus *Alpagut* (Hemiptera: Heteroptera: Dipsocoridae), with description of a new species and a note on the metacoxal adhesive pad of Dipsocoridae. *Zootaxa*, 4768: 271-281.

☆Yamada, K. (2020.6) A little-known flower bug genus *Indocoris* Muraleedharan and Ananthakrishnan (Heteroptera, Anthocoridae): Redescription, systematic position, and first records from East and Southeast Asia. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 26: 138-143.

☆山田裕貴*・氏部崇之*・清水孝昭*・佐藤陽一・田代優秋*・佐藤仁泉*・池田 実*・高木基裕* (2020.3) 徳島県で見出された国内外来由来のオヤニラミ個体群と遺伝的攪乱の懸念. *保全生態学研究*, 25 (1): 9-23

☆田中和大*・井藤大樹・細谷和海* (2020.4) 環境教育における骨格標本用教材としてのブラックバス. *環境教育*, 29 (3): 49-56.

井藤大樹・有田忠弘*・佐藤陽一 (2020.6) 徳島県海部郡海陽町の大里海岸に漂着したハチワレ（ネズミ

- ザメ目:オナガザメ科)の記録. 南紀生物, 62 (1): 63-66.
- ☆井藤大樹・乾 隆帝*・奥村大輝* (2020.12) 徳島県海部川から得られた地下水性ミミズハゼ属 (Perciformes: Gobiidae) の形態と生息環境. 日本生物地理学会会報, 75: 18-24.
- ☆井藤大樹・奥村大輝* (2020.12) 徳島県から得られたアマハゼ *Inu ama* (Gobiidae). 日本生物地理学会会報, 75: 81-84.
- ☆井藤大樹・乾 隆帝*・佐藤陽一 (2020.12) 徳島県立博物館所蔵標本からみた瀬戸内海における希少魚イドミミズハゼの分布と形態. 地域自然史と保全, 42 (2): 101-102.
- ☆中島 淳*・西村俊明*・井藤大樹・宮崎淳一*・大井和之*・平川周作* (2021.3) 福井県嶺北地方で発見されたナガレホトケドジョウの新たな地域集団. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 6: 33-37.
- 井藤大樹・古川 学* (2021.3) 徳島県那賀川水系から得られたイワナとアマゴの交雑個体. 徳島県立博物館研究報告, (31): 43-48.
- 奥村大輝*・井藤大樹・平石成伸* (2021.3) 徳島県から得られたオチヨコナガミミズハゼ (スズキ目: ハゼ科). 徳島県立博物館研究報告, (31): 49-52.
- 国松翔太*・井藤大樹 (2021.3) 徳島県立博物館所蔵標本からみた徳島県におけるシマヒレヨシノボリの分布. 徳島県立博物館研究報告, 31: 53-58.
- ☆井藤大樹 (2021.3) 香川県小豆島から得られたタネハゼ (スズキ目: ハゼ科). 四国自然史科学研究, (14): 7-11.
- ☆奥村大輝*・井藤大樹・乾 隆帝* (2021.3) 徳島県南部の3河川で得られたイドミミズハゼ (スズキ目: ハゼ科) の記録. 四国自然史科学研究, (14): 12-18.
- 竹内 基*・柿野 亘*・染谷 聖*・塩練元輝*・吉田 誠*・島津隆盛*・井藤大樹・金子誠也*・横井謙一* (2021.3) 青森県西部屏風山池沼群における「モニタリングサイト1000」淡水魚類調査で得られた新知見. 青森自然誌研究, (26): 123-139.
- 野澤雅美*・山田量崇 (2020.11) 積み枯葉から発見された多数のズイムシハナカメムシ. *Rostria*, (65): 61-63.
- 大原賢二*・山田量崇 (2021.3) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2020年). 徳島県立博物館研究報告, (31): 23-41.
- 〈一般著述〉
- 山田量崇 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ 〈1〉 徳島では絶滅 幻のチョウオオウラギンヒョウモン標本. 毎日新聞 徳島版 5月1日.
- 山田量崇 (2020.6) まばゆい甲虫. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (119): 1.
- 山田量崇 (2020.12) 新常設展の私のイチオシ 徳島はカタツムリ王国. 徳島県立博物館ニュース (特集), (121): 5.
- 佐藤陽一 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ 〈11〉 オヤニラミ. 毎日新聞 徳島版 5月23日.
- 井藤大樹 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ 〈3〉 ニホンカワウソ剥製. 毎日新聞徳島版 5月6日.
- 井藤大樹 (2020.5) 阿波っ子タイムズ 県立博物館学芸員のイチオシ 蔵出し! 宝もの展から 〈上〉 ナガレホトケドジョウ. 徳島新聞 5月17日.
- 井藤大樹 (2020.6) 四国お宝巡礼 トキ. 朝日新聞徳島版 6月3日; 香川版 6月6日.
- 井藤大樹 (2020.7) 四国お宝巡礼 アオギス. 朝日新聞徳島版 7月18日.
- 井藤大樹 (2020.9) 私と徳島県立博物館. 徳島県立博物館ニュース (特集), (120): 5.
- 井藤大樹 (2020.11) 四国お宝巡礼 コウノトリ. 朝日新聞徳島版 11月13日; 高知版 11月27日.
- 井藤大樹 (2020.12) 新常設展の私のイチオシ 徳島県南部のアカメ. 徳島県立博物館ニュース (特集), (121): 6.
- 植物
- 〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)
- 小川 誠・大原賢二* (2021.3) 徳島県阿南市におけるナガエツルノゲイトウ (ヒユ科) の新産地. 徳島県立博物館研究報告, (31): 59-61.
- ☆小川 誠・木下 覺*・成田愛治*・中村俊之*・茨木 靖 (2021.3) 海陽町の植物. 阿波学会紀要, (63): 95-105.
- Ibaragi, Y. (2020. 10) Aristidoideae. In K. Iwatsuki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), *Flora of Japan 4a*. 152. Kodansha, Tokyo.
- Ibaragi, Y. (2020. 10) Panicoideae. In K. Iwatsuki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), *Flora of Japan 4a*. 152-202. Kodansha, Tokyo.
- Ibaragi, Y. (2020. 10) Arundinoideae. In K. Iwatsuki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), *Flora of Japan 4a*. 202-205. Kodansha, Tokyo.
- Ibaragi, Y. (2020. 10) Micrairoideae. In K. Iwatsuki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), *Flora of Japan 4a*. 205-208. Kodansha, Tokyo.
- Ibaragi, Y. (2020. 10) Danthonioideae. In K. Iwatsuki, D.

E. Boufford and H. Ohba (eds.), Flora of Japan 4a. 208. Kodansha, Tokyo.

Ibaragi, Y. (2020. 10) Chloridoideae. In K. Iwatsuki, D. E. Boufford and H. Ohba (eds.), Flora of Japan 4a. 209-224. Kodansha, Tokyo.

☆茨木 靖・中西弘樹* (2020.12) 琉球列島以北の日本本土におけるモモタマシ発芽漂着種子の記録. 漂着物学会誌, 18 : 27-28.

☆茨木 靖・久米 修* (2020.12) 香川県におけるアカヒゲガヤ (イネ科) の生育地と種子発芽能力について. 植物研究雑誌, 95 (6) : 348-353.

〈一般著述〉

小川 誠 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ〈12〉 ナカガワノギク. 毎日新聞徳島版 5月26日.

小川 誠 (2020.9) 草木染めで外来種対策. 理科教育ニュース, (1115) : 1.

小川 誠 (2020.9) 徳島県立博物館事始め. 徳島県立博物館ニュース, (120) : 2-3.

小川 誠 (2021.3) レファレンス Q & A 花の色の紙を作れるって本当ですか?. 徳島県立博物館ニュース, (122) : 7.

茨木 靖・木場英久*・横田昌嗣* (2020.4) 南のイネ科ハンドブック. 120pp. 文一総合出版, 東京.

茨木 靖 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ〈7〉 オオボケガヤ. 毎日新聞徳島版 5月15日.

茨木 靖 (2020.6) 石灰岩植物～過酷な環境に生える植物たち～. 徳島県立博物館ニュース, (119) : 6.

茨木 靖 (2021.3) 特別陳列 徳島まるづかみ展ーコミュニケーションで展示を楽しもう!ー. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (112) : 1.

茨木 靖 (2021.3) 特別陳列 徳島まるづかみ展ーコミュニケーションで展示を楽しもう!ー. 徳島県立博物館ニュース, (121) : 4.

●地学

〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

Tonomori, W. *, Takahashi, Y. *, Yamaoka*, Y. and Nakao, K. (2020.12) Large-sized cetacean fossils from the Tonohama Group in the Iwado area, Muroto City, Kochi Prefecture, Japan. Bulletin of the National Museum of Nature and Science Series C (Geology & Paleontology), Vol. 46, 79-86.

西山賢一*・中尾賢一・辻野泰之・石田啓祐* (2021.3) 徳島県海陽町竹ヶ島の地質と地形. 阿波学会紀要, 63 : 87-94.

近藤洋一*・中尾賢一 (2021.3) 鳴門海峡海底からス

イギユウ化石の発見. 徳島県立博物館研究報告, (31) : p.1-6.

〈一般著述〉

中尾賢一 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ〈9〉 鳴門海峡の化石 海底に眠る最終氷期の痕跡. 毎日新聞徳島版 5月19日.

中尾賢一 (2020.6) 四国お宝巡礼 メガテリウムの全身骨格. 朝日新聞徳島版 6月30日.

中尾賢一 (2020.9) 兵庫県南部地震の調査ーこれまで仕事の中で、もっとも印象に残っていることー. 徳島県立博物館ニュース (特集), (120) : 4.

辻野泰之 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ〈5〉 白亜紀後期のアンモナイトリビコセラス. 毎日新聞徳島版 5月11日.

辻野泰之 (2020.8) 四国お宝巡礼 恐竜化石. 朝日新聞徳島版 8月31日.

辻野泰之 (2021.3) 四国お宝巡礼 アンモナイト. 朝日新聞徳島版 3月18日.

辻野泰之 (2021.3) 徳島県の恐竜化石の発見史. 徳島県立博物館ニュース (CC), (122) : 2-3.

●考古

〈学術的著述〉

植地岳彦 (2021.3) 奥ノ池遺跡出土品に付着する赤色顔料の分析報告. 高松市教育委員会編「奥ノ池遺跡」高松市埋蔵文化財調査報告 214, 高松市教育委員会: 32-35.

植地岳彦・岡本治代 (2021.3) 徳島県阿南市若杉山遺跡出土石器類. 徳島県立博物館研究報告, (31) : 61-98.

岡本治代 (2020.8) 鳥居龍蔵の愛知調査関連資料Ⅱ. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (4) : 143-166.

岡本治代 (2020.12) 近畿調査の成果とその意義. 鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編「鳥居龍蔵の学問と世界」, 思文閣出版: 245-273.

岡本治代 (2021.2) 四国における一本づくり・一枚づくり. 奈良文化財研究所編「古代瓦研究 Xー一本づくり・一枚づくりの展開 2 (西日本編)ーI 報告編」, 奈良文化財研究所: 172-190.

岡本治代 (2021.2) 阿波. 奈良文化財研究所編「古代瓦研究 Xー一本づくり・一枚づくりの展開 2 (西日本編)ーII 資料編」, 奈良文化財研究所: 248-253.

岡本治代 (2021.2) 土佐. 奈良文化財研究所編「古代瓦研究 Xー一本づくり・一枚づくりの展開 2 (西日本編)ーII 資料編」, 奈良文化財研究所: 264-267.

〈一般著述〉

植地岳彦 (2020.9) 飛び出せ博物館!! 徳島まるづかみ展・県西編. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (121) :

1. 植地岳彦 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展〈6〉斜縁二神二獣鏡 古墳時代伝える青銅鏡. 毎日新聞徳島版 5月13日.
- 岡本治代 (2020.6) 香川県高松市屋嶋城跡. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (119): 5.
- 岡本治代 (2020.6) 蔵出し! とくしま“宝もの”展学芸員のイチオシ〈14〉重要文化財 観音寺・敷地遺跡出土木簡. 毎日新聞徳島版 6月2日.
- 岡本治代 (2020.12) 四国お宝巡礼 遼代の施釉瓦 (徳島県立鳥居龍蔵記念博物館). 朝日新聞徳島版 12月9日.
- 岡本治代 (2021.3) 古墳の被葬者は女性? 男性?. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (122): 6.

●歴史

〈学術的著述〉

- 長谷川賢二 (2020.4) 市民参加と博物館経営. 金山喜昭編「転換期の博物館経営」, 同成社: 191-201
- 長谷川賢二 (2020.8) 園城寺・熊野・修験道. 熊野学研究, (8): 63-82.
- 長谷川賢二 (2020.8) 鳥居龍蔵記念博物館における高等学校との連携の試み—2014～15年度「博学連携推進モデル事業」について—. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (4): 133-142.
- Hasegawa Kenji (Translation by Carina Roth) (2020.11) Shugendo within Japanese Buddhism: Considerations on the Formation of Shugendo. A. Castiglioni, F. Rambelli and C. Roth eds., Defining Shugendo: Critical Studies on Japanese Mountain Religion, Bloomsbury Publishing: 63-73.
- 長谷川賢二 (2020.12) 鳥居龍蔵の未刊原稿群と学知のあり方—中国からの帰国時作成目録に注目して—. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編「鳥居龍蔵の学問と世界」, 思文閣出版: 464-481.
- 松永友和 (2020.7) 史料紹介 大坂町奉行所与力・同心の四国出役関係史料について—古郷家文書「諸御触記録帳」の紹介と翻刻—. 史窓 (50): 44-54.
- 松永友和 (2020.12) 大正期の鳥居龍蔵と本山彦一—本山彦一書簡の紹介を中心に—. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編「鳥居龍蔵の学問と世界」, 思文閣出版: 433-453.
- 松永友和 (2021.3) 武士の四国遍路—徳島藩士の遍路日記を中心に—. 四国遍路と世界の巡礼, (6): 29-42.

〈一般著述〉

- 大石雅章*・長谷川賢二・町田 哲* (2020.3) まとめ. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報

告書 14 普明山真光院熊谷寺 四国八十八箇所霊場 第8番札所」, 徳島県: 82.

- 長谷川賢二 (2020.3) 古代・中世の常楽寺. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 15 盛寿山延命院常楽寺 四国八十八箇所霊場 第14番札所」, 徳島県: 11.
- 大石雅章*・長谷川賢二・町田 哲* (2020.3) まとめ. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 15 盛寿山延命院常楽寺 四国八十八箇所霊場 第14番札所」, 徳島県: 99.
- 大石雅章*・長谷川賢二・町田 哲* (2021.3) まとめ. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 17 日照山魚量寿院極楽寺 四国八十八箇所霊場 第2番札所」, 徳島県: 80.
- 長谷川賢二 (2021.3) 古代・中世の平等寺. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 18 白山水山医王院 平等寺 四国八十八箇所霊場 第22番札所」, 徳島県: 10.
- 大石雅章*・長谷川賢二・町田 哲* (2021.3) まとめ. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 18 白山水山医王院 平等寺 四国八十八箇所霊場 第22番札所」, 徳島県: 96.
- 長谷川賢二 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展学芸員のイチオシ〈13〉細川成之書状. 毎日新聞徳島版 5月29日.
- 長谷川賢二 (2020.5) 阿波っ子タイムズ 県立博物館学芸員のイチオシ 蔵出し! 宝もの展から〈番外編〉呪咀秘伝. 徳島新聞 5月31日.
- 長谷川賢二 (2020.6) 山伏の中世と近世—仙光寺文書は語る—. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (119): 2-3.
- 長谷川賢二 (2020.8) 四国遍路と世界の巡礼—愛大研究センター通信—〈38〉四国遍路の形成と聖・山伏. へんろ, (437): 5.
- 長谷川賢二 (2020.9) 徳島県博物館協議会の軌跡. 博物館研究, 55 (9): 10-14.
- 長谷川賢二 (2021.1) 徳島の部落史研究・前近代編—「部落史の見直し」と現状をめぐって—. とくしま社会運動資料センター編「公開講座講演集 第2集 部落史関連講座講演録」とくしま社会運動資料センター: 5-38.
- 長谷川賢二 (2021.1) 四国お宝巡礼 写真帳. 朝日新聞徳島版 1月20日; 高知版 1月29日.
- 松永友和 (2020.5) 蔵出し! とくしま“宝もの”展 博物館学芸員イチオシ〈4〉鳥原・天草一揆に関する徳島藩主の書状. 毎日新聞徳島版 5月10日.
- 松永友和 (2020.5) 四国お宝巡礼 阿波国大絵図. 朝

日新聞徳島版5月13日；高知版5月26日。

松永友和(2020.5)阿波っ子タイムズ 県立博物館学芸員のイチオシ 蔵出し!宝もの展から〈中〉阿波国大絵図。徳島新聞5月24日。

松永友和(2020.9)四国遍路と世界の巡礼～愛大研究センター通信～〈39〉武士の四国遍路。へんろ(438):5。

松永友和(2021.3)守川保忠「四国旅日記」—徳島藩士の四国遍路—。徳島県立博物館ニュース(収蔵品紹介),(122):5。

●民俗

〈学術的著述〉(☆:査読付学術雑誌)

庄武憲子(2020.8)徳島県内漁港でのえびす信仰。四国民俗,(49):1-15。

☆磯本宏紀(2020.10)朝鮮植民地期の日本人漁業経営の実態と展開—香川県観音寺市伊吹島,広島県坂町横浜出身の漁業経営者を対象として—。国立歴史民俗博物館研究報告,(221):25-53。

☆磯本宏紀(2020.11)漁民の移動と定住をめぐる段階性—堂浦一本釣り漁民と九州・五島行き以西底曳網漁民の移動を事例として—。日本村落研究学会企画・福田恵編「人の移動からみた農山漁村—村落研究の新たな地平」,農山漁村文化協会:99-138。

磯本宏紀(2021.3)阿波晩茶製造技術と動力機械の導入—茶摺り機・茶捌き機・選別機とその変遷過程。徳島地域文化研究,(19):1-17。

磯本宏紀(2021.3)地域の総合博物館における民俗展示と民俗学—博物館での隣接領域との接点と基盤。佐野賢治編「現代民俗学考—郷土研究から世界常民学へ」,春風社:751-767。

〈一般著述〉

庄武憲子(2020.5)蔵出し!とくしま“宝もの”展 博物館学芸員イチオシ〈8〉阿波人形浄瑠璃舞台図。毎日新聞徳島版5月17日。

庄武憲子(2020.12)新常設展の私のイチオシ 木偶。徳島県立博物館ニュース(特集),(121):2-3。

庄武憲子(2021.3)新刊紹介 檜瑛司ほか『阿波の遊行—檜瑛司民俗芸能写真集』。徳島地域文化研究,(19):140-141。

磯本宏紀(2020.5)蔵出し!とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ〈2〉阿波晩茶製造用具 生産者の苦労、刻む道具。毎日新聞徳島版・電子版。

磯本宏紀(2020.5)阿波っ子タイムズ 県立博物館学芸員のイチオシ 蔵出し!宝もの展から〈下〉阿波晩茶の釜をかきまぜる又木のヒストリー。徳島新聞5月3日。

磯本宏紀(2020.5)書評:増崎勝敏著「現代漁業民俗

論 漁業者の生活誌とライフヒストリー研究」,地域漁業研究,60-1:53-55。

磯本宏紀(2021.3)宍喰の祇園祭。福原敏男・西岡陽子・橋本章・村上忠喜編「山・鉾・屋台の祭り研究事典」,思文閣出版:698-702。

磯本宏紀(2021.3)新刊紹介:藤田恵著「木頭村—その山河が問いかけるもの」,徳島地域文化研究,(19):142-144。

●美術工芸

大橋俊雄(2020.12)徳島城復元図の制作と城山貝塚。徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編「鳥居龍蔵の学問と世界」,思文閣出版:454-463。

〈一般著述〉

大橋俊雄(2020.5)阿波っ子タイムズ 県立博物館学芸員のイチオシ 蔵出し宝もの展から〈上〉波濤蒔絵鞍。徳島新聞5月17日。

大橋俊雄(2020.5)。蔵出し!とくしま“宝もの”展 学芸員のイチオシ〈10〉全国名勝絵巻 諸国の風景、忠実に写す。毎日新聞徳島版5月20日。

大橋俊雄(2020.12)新常設展の私のイチオシ! 谷田蒔絵 扇軍配散模様料紙硯箱。徳島県立博物館ニュース(特集),(121):4。

(3) 学会・研究会等での発表

(*印:館外研究者)

●歴史

長谷川賢二(2020.8)四国遍路の形成と熊野信仰をめぐる再検討。阿波戦国史研究会(徳島)。

長谷川賢二(2020.10)顕密寺院における中近世移行の様相。「城下町科研」準備検討会(徳島)。

松永友和(2020.9)武士の四国遍路—徳島藩士の旅日記を中心に—。徳島地方史研究会9月例会(徳島)。

松永友和(2020.10)武士の四国遍路—徳島藩士の遍路日記を中心に—。愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター講演会 第13回四国地域史研究大会(松山)。

●民俗

磯本宏紀(2020.11)生業における機械化の動機と影響—阿波晩茶の製造をめぐる。科研費「ポスト専門化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から」研究会(リモート)。

磯本宏紀(2021.2)沼島の漁業概要と“ヨソ行き”。「淡路島と鳴門の渦潮」調査研究会(リモート)。

IV 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の4つを基本方針として資料を収集している。

- (1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- (2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- (3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- (4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、県民や官公庁からの資料の寄贈も多い。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

令和2年度は5人（人文1、自然4）の会計年度任用職員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）

ムササビ	3点
ホトケドジョウ類	多数
徳島県産海岸性魚類	多数
徳島県産淡水魚類	多数
福井県産淡水魚類	2点
北海道産淡水魚類	1式

●動物（無脊椎動物）

アナムシオイ	3点
--------	----

●植物

県内各地の標本	多数
---------	----

●地学

淡路島地野の和泉層群産化石（無脊椎動物）	8点
淡路島地野・仁頃の和泉層群の化石（脊椎動物・植物）	8点
勝浦町三谷のデボン紀化石	8点
高知県穴内層産化石	10点

角閃石デイサイト	10点
勝浦町の恐竜化石含有層産の化石	84点

2. 購入資料

●地学

エドモントサウルスの下顎骨	1点
スピノサウルスの頭骨（複製）	1点
スピノサウルスの脊椎骨	1点
購入資料合計	3点



エドモントサウルスの下顎骨



スピノサウルスの頭骨（複製）

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

兵庫県揖保川産魚類標本	1式	乾 隆帝氏・小山彰彦氏
吉野川・旧吉野川産魚類	1式	いであ株式会社大阪支社
イワナとアマゴの交雑個体及びイワナ、アマゴ	9点	古川 学氏
シロマダラ	2点	田中幸寿氏
カジカ大卵型	1点	川田正明氏

●動物（無脊椎動物）

アシダカグモ	1点	矢間利彦氏
ワスレガイ標本	2点	中尾賢一氏

●動物（昆虫）

徳島県産蛾類標本	204点	樋口博美氏
フェモラータオオモモブトハムシ標本	4点	大島康宏氏
片岡義明氏徳島県および奄美大島産トンボ標本	5573点	片岡和美氏
ヒメホソアシナガバチの巣	1点	飯島一郎氏
徳島県産蛾類標本	240点	樋口博美氏
クロセセリ標本	2点	樋口博美氏
洞窟性チビゴミムシ・地中性ハネカクシ標本	507点	吉田正隆氏
日本産コメツキムシ標本	157点	黒田祐次氏
日本産ヒメハナカミキリ標本	126点	林 寛次氏
日本産ゲンゴロウ・ホソコバナカミキリ標本	54点	増田敏雄氏
日本産クワガタムシ標本	117点	滑田保生氏
アカギカメムシ標本	2点	大原賢二氏
エゾゼミ標本	3点	丸山璃空氏

●植物

香川県産植物標本	164点	久米 修氏
宮崎県産植物標本	3点	杉万裕一氏
小笠原産イネ科標本	191点	木場英久氏
ワセビエ標本	6点	浅井元朗氏
カモノハシ、タイワンカモノハシ標本	3点	中村俊之氏
ヒナザサ標本	1点	兵頭正治氏

●地学

下部白亜系立川層産の化石	340点	香西 武氏
鹿児島県産砂鉄	3点	阿部 肇氏
ハスノハクモヒトデ化石	7点	鎌田誠一氏
那賀町産三疊紀アンモナイト	1点	小林敬治氏
和泉層群産アンモナイト	2点	奥平耕右氏

蝦夷層群産化石	7点	平島 昭氏
蝦夷層群産化石	8点	平島 昭氏
北海道産のアンモナイト	1点	平島 昭氏
北海道および徳島県産化石	5点	平島 昭氏
徳島県上勝町産化石	1点	鎌田誠一氏
徳島県上勝町産化石	2点	板東一郎氏
淡路島地野の和泉層群のアンモナイト化石	1点	森氏

トウキョウホタテほか鳴門海峡海底産化石	9点	八木忠弘氏
ナウマンゾウ上顎骨化石ほか鳴門市産化石	5点	福間 弘氏
石灰岩	1点	高島芳弘氏
勝浦町辻谷産デボン紀リンボク類	1点	田中源吾氏
さぬき市産鉱物	4点	阿部 肇氏
白亜紀の化石	4点	平島 昭氏
勝浦町産の頭足類化石	3点	三木讓二氏

●考古

万字文軒丸瓦	12点	野口隆一氏
--------	-----	-------

●歴史

伝三好長輝木像ほか	4点	三好 豊氏
東川田村分間絵図ほか	12点	原田 晃氏

●民俗

卓袱台、炭火アイロン、黒電話	3点	鉄谷 茂氏
鳴子（鳥獣除け）、釣竿	2点	村井徹志氏
和錠	1点	橋本明美氏
阿波木偶 着付け人形（真柴久吉）ほか	2点	文化服飾博物館

4. 寄託資料

令和2年度末時点で寄託されている資料は79件あり、2年度に新たに寄託された資料は、次の通りである。

●民俗

旧木頭村共楽座資料	478点	岡田育大氏
-----------	------	-------

5. 資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型など資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した（詳細は p.22～23 参照）。

●動物

タナゴ類標本 9点
武山智博氏（岡山理科大学）

●地学

穴内層産イモガイ化石 13点
加瀬友喜氏（神奈川大学）
静岡県産ワスレガイ化石 1点
芳賀拓真氏（国立科学博物館）
高知県産ワスレガイ化石 1点
芳賀拓真氏（国立科学博物館）

●考古

安都真3号銅鐸レプリカほか 2点
徳島市立考古資料館

●歴史

徳島大空襲関係遺物 2点 徳島県立文書館
盛家旧蔵巡礼資料ほか 3点
徳島市立徳島城博物館
兵庫北関入船納帳（複製） 1点 海陽町立博物館

6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

●動物

ニホンカワウソ写真 1点
東京書籍株式会社
ニホンカワウソ写真 1点 森 力也氏

●地学

獣脚類のイラストなど 3点 阿南市文化協会
ティタノサウルス形類のイラストなど
2点 ケーブルテレビ徳島株式会社
勝浦町産の獣脚類の歯の写真
1点 勝浦町地域活性化協会
アンモナイト・パラプゾシア写真
1点 多摩六都科学館
白亜紀前期の徳島県勝浦町周辺の景観復元図
1点 勝浦町教育委員会
徳島県勝浦町産イグアノドン類の歯化石写真
1点 株式会社小学館
メガテリウムの写真 130点
新村龍也氏（足寄動物化石博物館）
竜脚類ティタノサウルス形類のイラストデータほか
2点 勝浦町
トクソドンの写真 107点
新村龍也氏（足寄動物化石博物館）
勝浦町産の獣脚類の歯の写真 1点 広島放送

獣脚類のイラストほか 4点 株式会社ひのき
苦土かんらん石の写真 1点 TBS テレビ
菱マンガン鉱の写真 2点 株式会社ネクサス
アンモナイト・パラプゾシア写真
1点 多摩六都科学館
勝浦町産肉食恐竜の歯の写真 1点
勝浦町地域活性化協会
ティラノサウルス骨格写真 1点
ラムダプロダクション合同会社

●考古

若杉山遺跡出土「水銀朱精製関連遺物」の写真
1点 NPO 法人むきばんだ応援団
安都真3号銅鐸等の写真 14点
徳島市立考古資料館
前山遺跡出土人物埴輪他 2点
TRC-ADEAC 株式会社
伝長者ヶ原1号銅鐸他 2点
TRC-ADEAC 株式会社

●歴史

御国産名物見立相撲写真 1点
株式会社ココア堂
阿波国渭津城之図写真 1点
一般社団法人ツーリズム徳島
大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
1点
一般財団法人徳島県観光協会
盛家旧蔵巡礼資料写真ほか 4点
徳島市立徳島城博物館
徳島御城下絵図写真 1点
徳島県立文学書道館
兵庫北関入船納帳（複製）写真
1点 海陽町立博物館
喜田貞吉肖像写真 1点
一般社団法人徳島県労働福祉会館
とくしま社会運動資料センター
三十二番職人歌合写真（鳥売り、桂の女）
2点 株式会社清水書院
名西郡神領村絵図写真ほか 4点
清文堂出版株式会社
細川成之画像模写図写真 1点
藍住町教育委員会
大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
1点 一般財団法人徳島県観光協会
大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
1点 株式会社ワン・パブリッシング
大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
1点 小山弘明氏（清水デザイン事務所）

大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点 一般財団法人徳島県観光協会
 徳島御城下絵図写真 1点
 徳島城博物館ボランティア友の会

●民俗

阿波人形浄瑠璃舞台図写真
 1点 株式会社集英社
 天狗久人形注文控帳面写真ほか
 2点 阿波木偶箱まわし保存会
 昭和45、46年度民謡調査記録 No.31 里神楽音声
 1点 河野良嗣氏
 岩朝哲男氏撮影写真資料「鳴門の昭和史」
 1点 近藤裕子氏（株式会社大塚製薬工場
 総務部社内報担当）

●美術工芸

吉成葎亭筆 阿波盆踊図屏風写真
 1点 阿波おどり会館
 鈴木其一筆 月に芋図写真
 1点 西山事務所
 守住貫魚筆 阿波国勝浦郡田之浦村掘出古甲図写真
 1点 小松島市教育委員会
 吉成葎亭筆 阿波盆踊図屏風写真
 1点 株式会社筑摩書房
 渡辺広輝筆 祖谷山絵巻（木地挽小屋全図）写真
 1点 徳島市立徳島城博物館
 阿州泰吉作 刀写真ほか 2点
 株式会社美和企画
 守住貫魚筆 阿波国勝浦郡田之浦村掘出古甲図写真
 1点 小松島市長
 守住貫魚筆 阿波国勝浦郡田之浦村掘出古甲図写真
 1点 藤川智之氏
 松浦春拳筆 弱檜五匹猿図写真ほか
 2点 須藤茂樹氏

7. 資料の提供

令和2年度は、資料の提供を行わなかった。

8. 資料の交換

研究や展示、普及など様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を、他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本について、現在、東北大学、北海道大学、

福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学及びソウル大学と定期的な標本交換を行っている（「3. 寄贈資料」及び「7. 資料の提供」参照）。

9. 館蔵資料数

令和3年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、表の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を未来創生文化部長が委嘱する。

令和2年度は、委員会を開催していない。

11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌の他、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。なお、平成27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

●図書冊数（データベース登録数による）

14,529冊（うち令和2年度分 寄贈図書86冊、購入図書113冊）

●購入雑誌

自然史系(7タイトル):科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌

人文系(23タイトル):美術研究、美術史、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理、日本史研究

博物館学(2タイトル):博物館研究、ミュゼ

●分野別収蔵資料数（令和3年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実 物	レ プ リ カ	模 型・模 写	文 献
脊 椎	25,486	25,412	55	13	6
無 脊 椎	49,308	49,242	0	58	8
昆 虫	216,915	215,582	0	7	1,326
植 物	199,354	199,002	62	8	282
地 学	10,451	10,312	136	3	0
考 古	8,433	8,282	73	19	59
歴 史	13,292	12,504	26	4	758
民 俗	18,924	18,914	5	5	0
美術工芸	9,861	9,852	0	4	5
合 計	552,024	549,102	357	121	2,444

●当館刊行物の定期発送先（令和3年3月末現在）

博物館ニュース	1,152 か所
博物館年報	317 か所
研究報告（国内）	426 か所
（国外）	31 か所
展示解説	88 か所
企画展図録（自然）	162 か所
（人文）	238 か所

12. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だて、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量などによって、次の①～③の3種類の燻蒸を行ってきた。

①常圧燻蒸庫での燻蒸

まとまった量や大型の資料は、一時保管庫（24時間温湿度管理）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。

常圧燻蒸庫は床面積20㎡×高さ3m（約60㎡）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。平成17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

令和2年度は、常圧燻蒸庫での燻蒸を3回行った。

②収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどに伴って、資料の保存に悪影響を与える害虫やカビなどが侵入することがある。そのため、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。30年度に実施したため、2年度は実施しなかった。

③二酸化炭素を用いた殺虫処理

寄贈や寄託を受けた資料のなかで、虫害が目立つも

の、またその恐れがあるものについては、燻蒸庫燻蒸に先じて二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施した。2年度は1回実施した。

(2) 展示室における資料保存環境の管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、展示室全体の燻蒸が不可能である。また、室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。さらに、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少していることから、室温上昇による資料への影響が懸念される。

このような環境の中で、資料の虫菌害を防ぐとともに、資料保存に適した温湿度を維持するため、外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。また、第3期中期活動目標（26～30年度）では、常設展示室の定期点検を行うことを目標として定めており、26～27年度に、文化財害虫のモニタリング、温湿度の計測を中心とした点検項目を検討した。28年度からは、学芸員の輪番制で月に1回程度点検を実施している。リニューアル工事が始まった2年9月以降は、工事の妨げとならない場所で、文化財害虫モニタリングと温湿度の測定を行った。

企画展示室において、資料汚損の原因となるアンモニア及び有機酸の発生状況を把握するため、パッシブインジケーターによる空気環境調査を行ったところ、有機酸・アンモニアの測定値の上昇が確認された。そのため、空調設備のケミカルフィルターを交換し、適切な環境に戻ったことを確認した。

(3) 収蔵庫における資料保存環境の管理

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防除あるいは早期に発見でき

40 資料の収集・保存と活用

るだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。当館では、25年度より学芸員の輪番制で月に1回程度、収蔵庫定期点検表に基づく各収蔵庫の点検を行っており、2年度も継続して実施した。また、2年度において、生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫で、パッシブインジケーター及びガス検知管による空気環境のモニタリングを行ったところ、有機酸・アンモニアの測定値の上昇が確認された。空気環境適正化のため、空調設備のケミカルフィルターを交換し、適切な環境に戻ったことを確認した。今後もケミカルフィルターの定期的な交換が必要である。

(4) 資料保存に関する設備・機器の管理

開館から30年が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでいる。燻蒸庫及び燻蒸設備の不備は十分な燻蒸効果を妨げるうえ、重大な事故や環境汚染につながりかねない。そのため、定期的なメンテナンスを行い、常に万全の状態を保ちながら運用する必要がある。2年度は、常圧燻蒸庫の燻蒸作業に付随して活性炭交換を実施した。そして、日常的な温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。



燻蒸庫の活性炭交換

V 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供、催し物案内の電子メールサービス等により、博物館事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	169 か所
中学校	86
高等学校・支援学校・その他学校	61
学会・研究所・同好会等	59
県及び県教育委員会各課・機関	54
市町村教育委員会	25
公民館・隣保館	205
市町村及び大学図書館	33
博物館施設等	310
宿泊施設等	38
報道関係機関等	62

●報道機関への資料提供

令和2年度は、次のとおり資料提供を行った（月間催し物案内を除く）。

4月21日	新たに発見された「竜脚類恐竜の歯と恐竜の骨質化した腱化石」について
6月2日	令和2年度ボランティアスタッフの公募について
6月12日	部門展示「骨格標本の世界」の開催について
6月30日	企画展「甲虫すごいぜ！」の開催について
9月15日	第5回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について
10月21日	博物館新常設展プレビュー企画「徳島

まるづかみ展」について

10月21日	博物館新常設展プレビュー企画「徳島まるづかみ展」について
12月15日	勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査（後方支援施設での小割作業）の開始について
3月3日	令和2年度発掘調査で発見された「獣脚類恐竜の骨と恐竜の骨質化した腱化石」について
3月3日	第6回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について
3月31日	「古地図等歴史資料」の寄贈に係る贈呈式について

2. テレビ・ラジオへの出演等

出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

4月15日	辻野泰之 NHK徳島放送局「おはよう徳島／とく6徳島」（勝浦町で発見された肉食恐竜の歯について）
5月9日	辻野泰之 四国放送 徳島新聞ニュース（トピックコーナーの勝浦の恐竜化石について）
5月13日	中尾賢一・岡本治代・井藤大樹 ケーブルテレビ徳島「らぶ！らぶ！徳島」（企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」について）
5月15日	辻野泰之 エフエムびざん「とくしま子育て課」（トピックコーナーの勝浦町の恐竜化石について）
5月20日	辻野泰之 NHK徳島放送局「とく6徳島」（トピックコーナーの勝浦町の恐竜化石について）
5月27日	辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「らぶらぶ！徳島」（トピックコーナーの勝浦町の恐竜化石について）
6月10日	辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「朝ごはんたべた」（トピックコーナーの勝浦町の恐竜化石について）
7月20日	山田量崇 エフエムびざん「B-STEP

- TALKING」(企画展「甲虫すごいぜ！」について)
- 7月26日 井藤大樹 エーアイテレビ「テレビミュージアム」(部門展示「骨格標本の世界」について)
- 11月3日 磯本宏紀 四国放送「フォーカス徳島」(徳島まるづかみ展県央編第1期について)
- 11月4日 磯本宏紀 ケーブルテレビ徳島「らぶらぶ！徳島」(徳島まるづかみ展県央編第1期について)
- 12月2日 磯本宏紀 NHK松山放送局「ひるどき四国」(徳島まるづかみ展県央編第2期について)
- 12月26日 磯本宏紀、辻野泰之、植地岳彦、庄武憲子、井藤大樹 エーアイテレビ「テレビミュージアム」(徳島県立博物館2021年常設展リニューアル独占インタビュー)
- 3月11日 辻野泰之 四国放送「フォーカス徳島」(令和2年度発掘の勝浦町の恐竜化石について)

- ・関連活動紹介(友の会、博物館協議会など)
 - ・学芸員関連のページ
 - ・特別メニュー(子ども向けメニュー、映像コーナー、自宅で博物館を楽しもう！など)
- ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学分野ごとに収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内などは定期的に行っている。それ以外にも、展示担当者、イベントボランティア担当者など、各担当者が随時行っている。令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止による休校・外出自粛が続く中、博物館を自宅で楽しめるコンテンツを作成・集約した。ホームページの主な追加事項は下記のとおりである。

- ・自宅で博物館を楽しもう！
- ・勝浦町恐竜化石発掘調査に関するプレス発表
- ・令和2年度博物館ボランティアの活動内容について
- ・みどりのサポート隊の活動
- ・各種催し物、企画展等の案内

②アクセスについて

2年度は、1年間でホームページへの総アクセス数が約1011万件あった。ホームページへの総訪問者数は約46万人であった。

●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	訪問者数	アクセス数
2020年4月	39,113	934,282
2020年5月	62,187	1,369,273
2020年6月	59,837	1,202,411
2020年7月	62,368	1,378,940
2020年8月	59,730	1,252,739
2020年9月	51,785	1,055,176
2020年10月	25,721	570,373
2020年11月	20,525	480,833
2020年12月	21,570	448,741
2021年1月	21,920	483,436
2021年2月	20,758	456,498
2021年3月	21,385	480,886
合計	466,899	10,113,588

3. インターネットによる情報提供

(1) ホームページ

①概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。20年10月に「徳島県文化の森総合公園情報提供システム」が構築されたことから、ホームページを <https://museum.bunmori.tokushima.jp/> に変更した。閲覧者が利用しやすいよう、トップページのメニューボタンの設置、新しいコンテンツの作成、各種イベントの情報発信など、日常的にホームページの更新を行っている。

ホームページの内容は下記の通りである。

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内など)
- ・展示案内(企画展、特別陳列、部門展示、常設展示)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物(展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内)

(2) Facebook (フェイスブック) ページの運用

インターネットメディアの多様化とソーシャルネットワークサービス（以下 SNS）の普及に伴い、博物館をはじめとする社会教育機関においても SNS 等を活用した情報発信、情報交流が進められている。当館では、公式 Facebook ページを新設し、28 年 3 月 18 日より運用を開始した。

Facebook ページでは、博物館の催し物や活動等の情報を発信している。2 年度は、47 件の記事を新たに掲載した。内容は、企画展や部門展示などの準備の様子、展示資料の紹介、常設展リニューアルの進捗など、博物館の日常の活動を即時的に伝えている。また、勝浦町の恐竜化石に関する情報発信など、ホームページではみられなかった即時性が特徴となり、情報提供のツールの一つとして活発に活用されている。

(3) デジタルアーカイブの構築

元年度に引き続き「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」により、28 点の資料を撮影し、1 件の写真フィルムをデジタル化した。また、TRC-ADEAC 株式会社制作・運営する、デジタルアーカイブの検索・閲覧を行うためのプラットフォームシステム「ADEAC」において、撮影データを公開した。

さらに、文化の森館内の端末で各館が所蔵する資料の画像を閲覧できるデジタルアーカイブシステム「文化の森デジタルアーカイブ閲覧システム」を、新たに構築した。3 年 4 月公開の予定である。

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成 12 年度及び 13 年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18 年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット (<http://science-net.kahaku.go.jp/>) を使うことによって、160 館以上のホームページを一度に検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、26 年度には当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及び GBIF (Global

Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

第 5 期文化の森のシステム更新が平成 23 年度に行われたが、29 年度には第 6 期文化の森のシステム更新が行われた。基本的には前システムのパソコン等ハード、ソフトの置き換えである。令和 2 年度には、文化の森が知事部局へ移管されたことに伴い、徳島県文化の森総合公園情報提供システムを構築することになった。

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の 2 つに大別できる。次のような構成で第 6 期システムの運用にあたっている。

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット (1000BaseT) の LAN でつないである。ファイルサーバ (Windows サーバ) とデータベースサーバ (FileMaker Server16 Advanced) の 2 台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐する SE (システムエンジニア) によって毎日バックアップがとられている。職員 1 人に 1 台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linux サーバを用いて、WWW サーバと資料データベースを構築している。柔軟なデータベース公開ができるように、MySQL サーバによる Web データベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWW サーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されていたが、2 年 10 月には、文化の森総合公園内に独立した情報提供用サーバを構築し、外部系サーバをコンピュータ室に設置、館内用サーバとともに管理している。

6. ネットワーク接続の変更

当館をはじめとする文化の森の 6 館は、令和 2 年 4

月に教育委員会から知事部局に移管された。これに伴い、従来利用していた徳島県立総合教育センターが管理するネットワークから、文化の森が独自に管理するネットワークに切り替えることになった。変更点は、公開用サーバの文化の森内への移転、文化の森ネットワーク経由での端末のインターネット接続、文化の森のメールサーバーの運用などである。基本的には徳島県立総合教育センター経由で利用していた回線を文化の森の独自回線に置き換えたものである。端末や業務系館内 LAN については変更はない。令和2年10月より運用を開始したが、ドメイン名が変更になったため、ホームページのアドレスが <https://museum.bunmori.tokushima.jp/> となった。Google などの検索エンジンで、旧ページにリンクがはられている場合は、リンク切れを起こすので、来訪者が情報にたどり着きにくいという不具合が起こっているが、時間がたてば解消するであろう。また、職員や代表のメールアドレスも変更となった。

7. 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、ホームページに「自宅で博物館を楽しもう」のコーナーを設けて、来館しなくても博物館の展示などを楽しめる工夫をした。また、オンライン会議のツールであるズームを導入して、リモート授業や遠隔会議ができる環境を整えた。

VI 県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービスの対象として各種の事業を展開している。より県民に親しまれる博物館となっていくためには、利用者が主体的に関わって博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが重要である。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育・生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、なお一層の県民協働・参画を推進したいと考える。

1. 博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然や歴史・文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援を行い、さらには友の会独自の行事も行っている。事務局は当館内に置いている。

■会員（令和2年度末）

個人会員（年会費 2,000 円）	39 人
（半年会費 1,000 円）	0 人
家族会員（年会費 3,000 円）	40 組 146 人
（半年会費 1,500 円）	0 組 0 人

■役員（令和2年度）

会 長：行成正昭
 副会長：大杉洋子、徳野壽治、新居美佐子（博物館長）
 幹 事：森 敏博、幸坂敏行、結城孝典、本田壮一、坂井なつ
 監 査：石尾和仁、中村由香
 顧 問：鳥居 喬

■事業

●博物館出版物の増刷・頒布

令和2年度博物館企画展の図録等（「蔵出し！徳島“宝もの”展」）の増刷・頒布を行った。

●広報活動

新規会員の獲得をめざし、勧誘ポスターの掲示や会員募集案内チラシの配布を行った。また、博物館掲示板や展示ケース、博物館ホームページ、催し物案内、博物館ニュース、企画展チラシ等を活用した会員募集や情報発信に努めた。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.66・67を発行し、会員に配付した。

① No.66（2020年11月30日発行）

大阪万博から半世紀—私の万博コレクション—
 蜂須賀茂詔と日本赤十字社
 友の会行事報告 化石をさがそう！（勝浦産の岩石から）
 友の会行事報告 夜の文化の森たんけん（自然の中で生きものかんさつ）
 友の会行事報告 川魚をかんさつしよう！
 報告 2020年度総会
 新スタッフ紹介
 常設展リニューアルのお知らせ

② No.67（2021年3月31日発行）

昭和2（1927）年夏の鳥居龍蔵を追いかけて
 友の会行事報告 さよなら常設展 一度限りの夢企画
 友の会行事報告 レキシルとくしまの見学と板野町の遺跡散策
 友の会行事報告 徳島まるづかみの旅（県南編）常設展リニューアルのお知らせ

●会員を対象とする行事

会員を対象とする行事を6回実施した。

①化石をさがそう！	6月6日（日）	19人
場所：文化の森総合公園		
②夜の文化の森たんけん	7月25日（日）	19人
場所：文化の森総合公園		
③川魚をかんさつしよう！	8月10日（土）	17人
場所：美馬市 穴吹川		



化石をさがそう！



川魚をかんさつしよう!

- ④ さよなら常設展 一度限りの夢企画
8月30日(土)
場所：文化の森総合公園 41人
- ⑤ レキシルとくしまの見学と板野町の遺跡散策
1月23日(土)
場所：板野町 10人
- ⑥ 徳島まるづかみの旅(県南編) 2月14日(土)
場所：海陽町 16人

2. 公募ボランティア

平成17年度から、博物館の常設展示室を活用し、博物館や博物館資料の魅力を伝えるためのイベントを企画・運営するボランティアを公募し、毎年2月11日に開催しているボランティア企画イベント「博物館Vキング」に向けて、活動している(年報第15号p.43-44参照)。

令和2年度は、例年と同様の活動に加えて、3年度に控える常設展示室のリニューアルオープンに向けて、新常設展示室におけるボランティア活動の内容を検討する会も開催した。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、例年とは異なる運営を行った部分も多かった。

まず、例年は6月から活動を開始しているが、2年度は活動開始時期を遅らせ、新型コロナウイルス感染症拡大がいったん収束した9月から開始した。また、例年は、博物館資料や博物館の活動を紹介するとともに他団体の活動を学ぶため、徳島大学で開催される「科学体験フェスティバル in 徳島」などにブースを出展しているが、イベントの中止や縮小を受けて、出展を見合わせた。こうした中でも、23人のボランティアスタッフが活動に参加し、年間を通じて10回の会合

を開催し、1件のイベントを実施した。

- ① 新常設展示室でのボランティア活動の検討(10月11日(日)・10月24日(土))

新常設展示室の概要を説明するとともに、他館のボランティア活動の事例を紹介し、そのうえで新しい常設展示室での活動のアイデアを募った。従来のボランティア活動で行ってきたハンズオンキットの開発やイベントの企画運営を継続したい、との要望に加え、ボランティア活動を行う上で展示室内に必要な設備や、他のボランティア団体と連携する、といった運営上の工夫に関する意見などが集まった。

ボランティアスタッフ：10月11日 5人・24日 7人

- ② 博物館Vキング(2月11日(木・祝))

例年は、同日に文化の森で開催される「文化の森ウィンターフェスティバル」の一環として「博物館Vキング」を実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、ウィンターフェスティバルが中止となったことから、「博物館Vキング」単独での開催となった。また、例年会場としている常設展示室が、リニューアル工事のため閉室していることから、博物館実習室・



新常設展示室でのボランティア活動内容の検討



博物館Vキング「押し花しおり」

講座室を会場として、13:30～14:30と15:00～16:00の2回、イベントを行った。

イベントの内容としては、実習室で「博物館資料のレプリカを作ろう」、講座室で「押し花でしおりをつくろう」の2つのハンドクラフト体験を行うとともに、「恐竜ペーパークラフト」キットを配布した。なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、参加は事前申し込み制とし、各回の参加者数も20人以内とした。

参加者：24人 (①13:30～14:30 16人
②15:00～16:00 8人)
ボランティアスタッフ：10人

3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進

展示・普及教育・調査研究事業のうち、以下について、県民と協働で実施した。

(1) 展示

■県民との協働による展示

●企画展「甲虫すごいぜ！」

7月11日(土)～8月30日(日)

県内在住の甲虫愛好家が収集した甲虫コレクションを展示・紹介するコーナーを設けた。

●ロビー等での小展示「馬形はにわ」

10月20日(火)～11月22日(日)

鳴門市大麻町池谷や小松島市前山遺跡から出土した馬形埴輪とともに、城東高校生が製作した埴輪の模型を展示した。

●移動展「徳島まるづかみ展 県南編」

2月9日(火)～3月14日(日)

漂着物のコーナーで、とくしま海の観察会と協働で展示を製作し、展示解説&ワークショップでは、協働で展示解説をした。

■常設展の更新に向けた活動

●インクルーシブデザインワークショップ

8月28日(木)、9月18日(金)

外国人にもわかりやすい展示方法を検討するため、英語、中国語、韓国語を使うリードユーザーからの意見をもらい、表現方法について検討した。

(2) 普及教育

●ミュージアムトーク

4月25日(日) ゼロから始める植物学～植物用語編～

6月7日(土) ゼロから始める植物学～名前の調べ方編～

8月1日(土) ゼロから始める植物学～標本の作り方編～

12月6日(日) ゼロから始める植物学～植物の名前編～

1月31日(日) ゼロから始める植物学～標本整理編～

●野外生きものかんさつ

4月25日(日) 初めての植物かんさつ(春編)

5月9日(土) 花巡り!植物かんさつハイキング5月～風薫る季節を体感～

6月7日(日) 初めての植物かんさつ(梅雨期編)

7月5日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング7月～海開き山開き自然の中へ!～

8月1日(日) 初めての植物かんさつ(夏編)

9月1日(日) 漂着物を探そう!

9月13日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング9月～秋の七草探してみませんか?～

11月22日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング11月～植物の冬支度を見に行こう!～

12月6日(日) 初めての植物かんさつ(冬編)

1月31日(日) 初めての植物かんさつ(新春編)

●徳島まるづかみ展県南編

展示解説&ワークショップ 2月14日(日)

●インクルーシブデザインワークショップ

第1回 8月28日(木)

第2回 9月18日(金)

(3) 調査研究

●タンポポ調査・西日本2020

近畿、中国、四国の17府県にまたがる広域でタンポポ調査を行った。だれもが調査できる方法を採用し、参加を呼びかけた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてこの調査は延長され、3年度にも行われ、3年度末に結果をまとめて報告する予定である。

●日本最古級恐竜化石含有層発掘調査・発信プロジェクト

徳島県勝浦町で行われた恐竜化石含有層の発掘調査では、県内の化石愛好家や阿波勝浦井戸端塾などの勝浦町内のボランティア39人(内、有識者4名)の協力を得て、化石の探索作業を行った。

(10月1日(木)～12月25日(金):化石発掘現

場での調査および後方支援施設での作業)

●漂着物の調査

県内の漂着物研究会である、とくしま海の観察会と、年4回定期的に県内海浜において漂着物の調査を実施している。調査結果は、展示や県民向けの講座などで活用されている。

●アサギマダラのマーキング調査

県民へ参加を呼びかけて実施している調査ではなく、問い合わせのあった方に協力をお願いしている。県内のマーキング記録は、アサギマダラメーリングリスト [asagi]、[asaginet] およびアサギネット掲示板から情報を整理している。

●人形座資料調査

江戸時代から続く人形座である大谷旭源之丞座の所蔵資料について座員と共同で調査記録を進めている。

VII シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

令和2年度に行ったレファレンスの件数は527件で、分野別内訳は下表のとおりである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが233件（44%）で最も多く、次いでマスコミ・出版関係が167件（32%）、博物館・図書館・

●分野別レファレンス件数（令和3年3月31日現在）

分野	件数
動物（脊椎）	65
（無脊椎）	29
（昆虫）	149
植物	58
地学	95
考古	21
歴史	47
民俗	14
美術工芸	6
保存科学	7
その他	36
合計	527

官公庁等が63件（12%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が20件（4%）、一般企業や調査会社が17件（3%）、大学生・院生・研究者等が15件（3%）、その他が12件（2%）であった。

2. 各種委員会委員等の受諾

令和2年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

新居美佐子

（公財）日本博物館協会参与

（令和2.4.1～令和3.3.31）

日本博物館協会四国支部副支部長

（令和2.4.1～令和3.3.31）

四国地区博物館協議会副会長

（令和2.4.1～令和3.3.31）

徳島県博物館協議会会長

（平成31.4.1～令和3.3.31）

長谷川賢二

徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員

（平成19.5.1～）

阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員

（令和2.7.1～4.6.30）

徳島県文化財保存活用大綱策定委員会委員

（令和2.8.1～策定の日）

吉野川支流域名勝調査委員会委員

（令和2.6.1～事業終了の日）

海陽町立博物館運営協議会委員

（令和2.4.1～4.3.31）

徳島県戦没者記念館企画委員会委員

（平成27.7～）

高大連携教育研究会専門委員

（令和2.4.1～令和3.3.31）

日本山岳修験学会理事

（令和元.9～3.9）

日本ミュージアム・マネジメント学会中・四国支部会副支部長

（平成30年度～）

四国中世史研究会運営委員

（平成31.4～令和3.3）

50 シンクタンクとしての社会貢献

- 歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
(平成 25. 9. 1 ~)
- 小川 誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
(令和 2. 4. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
(平成 21. 4. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- 徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成 31. 4. 1 ~ 令和 4. 3. 31)
- 環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24. 7. 1 ~ 令和 3. 6. 30)
- 吉野川支流名勝調査委員会委員
(令和 2. 6. 1 ~ 事業終了の日)
- 茨木 靖
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成 31. 4. 1 ~ 令和 4. 3. 31)
- 環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24. 7. 1 ~ 令和 3. 6. 30)
- 阿波学会紀要第 62 号 編集委員
(平成 29. 4. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- 徳島市歴史文化基本構想策定委員会委員
(平成 29. 9. 1 ~ 令和 2. 3. 31)
- 中尾賢一
産業技術総合研究所客員研究員
(令和元. 5. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- 三好ジオパーク構想推進協議会学術顧問
(令和元 ~)
- 辻野泰之
日本古生物学会 化石友の会幹事
(令和元. 7. 1 ~ 令和 3. 6. 30)
- 山田量崇
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成 21. 12. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- 国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」
(平成 23. 5. 25 ~ 令和 3. 3. 31)
- 国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員
(平成 24. 4. 2 ~ 令和 3. 3. 31)
- 環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24. 7. 1 ~ 令和 3. 6. 30)
- 日本昆虫学会「日本の昆虫」編集委員
(平成 25. 3. 14 ~)
- 日本昆虫分類学会評議員
(平成 27. 1. 1 ~)
- 佐藤陽一
日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長
(平成 15. 4. 1 ~)
- 井藤大樹
徳島県田園環境検討委員
(令和 2. 1. 15 ~)
- 庄武憲子
四国民俗学会理事
(令和 2. 4. 1 ~ 3. 3. 31)
- 磯本宏紀
公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員
(平成 31. 4. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- 一般社団法人日本民俗学会評議員
(平成 30. 10 ~ 令和 2. 9)
- 一般社団法人日本民俗学会情報広報担当特別理事
(令和元. 5 ~ 令和 2. 9)
- 犬伏家住宅保存活用計画検討委員会委員
(令和 2. 5. 18 ~ 令和 4. 3. 31)
- 「鳴門の渦潮」世界遺産登録学術調査委員会専門委員
(令和元. 11. 4 ~ 令和 3. 3. 31)
- 「淡路島と鳴門の渦潮」調査研究チーム委員
(令和 2. 6. 5 ~ 令和 3. 3. 31)
- 阿波学会紀要第 63 号 編集委員
(令和元. 4. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- 松永友和
徳島地方史研究会運営委員
(平成 23. 5 ~)
- 歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
(平成 25. 9. 1 ~)
- 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議会委員
(平成 31. 4. 1 ~ 令和 3. 3. 31)
- 岡本治代
阿波学会紀要第 63 号 編集委員
(令和元. 4. 1 ~ 令和 3. 3. 31)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けた講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す(内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略)。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「Ⅱ 普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している(詳細は p. 21 ~ 22 参照)。

4月24日 小川 誠

徳島県立阿南支援学校で実習「オオキンケイギクで草木染め」(徳島県立阿南支援学校)

5月27日 岡本治代

- 徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「古代の阿波 ①国府」(徳島県立総合福祉センター) 中止
- 6月 3日 岡本治代
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「古代の阿波 ②寺院」(徳島県立総合福祉センター) 中止
- 6月 3日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」(徳島県立総合福祉センター) 中止
- 6月 22日 辻野泰之
阿南市文化協会で講演「徳島県の恐竜化石発掘調査」(阿南市文化会館研修室)
- 6月 27日 辻野泰之
社会福祉法人カリオン れもんワークスで講演・実習「化石について 知ろう！作ろう！」(れもんワークス)
- 7月 7日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校小松島校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」(小松島市総合福祉センター) 中止
- 7月 3日 松永友和
歴史文化倶楽部(月例講座)で講演「阿波の百姓一揆と義民伝承」(あわぎんホール)
- 7月 16日 松永友和
徳島県シルバー大学校鳴門校で講演「江戸時代の旅と「鳴門」見物」(うずしお会館) 中止
- 7月 17日 井藤大樹
松茂町教育委員会「長原海岸の海辺の生き物調べ隊」講師(松茂町長原海岸) 中止
- 8月 8日 井藤大樹
吉野川交流推進会議「交流体験 in よしのがわ(下流編)～おさかな博士の川魚かんさつ～」講師(鮎喰川)
- 8月 8日 長谷川賢二
一般社団法人阿波和紙伝統産業会館・講座「阿波を学ぶ(歴史編II)」で講演「四国遍路の成立過程」(吉野川市アメニティセンター)
- 8月 9日～10日 辻野泰之
「発見しよう！恐竜の化石発掘体験」に講師として協力(勝浦町地域活性化センター「レヴィタかつうら」) 中止
- 8月 26日 中尾賢一
阿波市観光協会主催の野外観察会で観察指導「土柱周辺の地形と地質のかんさつ」
- 8月 26日 松永友和
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「大塩平八郎と阿波・徳島」(徳島県立総合福祉センター) 中止
- 9月 28日 松永友和
徳島県シルバー大学校上板校で講演「江戸時代後期の阿波藍と徳島藩」(上板町老人福祉センター) 中止
- 9月 5日 植地岳彦
第41回全国公民館研究集会徳島県大会でファシリテーターとして分科会グループワーク実施「学校・家庭・地域との連携」(アスティとくしま)
- 10月 7日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の成立過程」(徳島県立総合福祉センター) 中止
- 11月 11日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と三好氏の落日」(徳島県立総合福祉センター) 中止
- 11月 15日 辻野泰之
かつうら元気市&音楽祭「発見しよう！恐竜の化石発掘体験 PETIT」化石発掘体験に講師として協力(勝浦町 星谷運動公園)
- 11月 23日 辻野泰之
「第19回恐竜の里ウォークラリー」に講師として協力(勝浦町 人形文化交流館および恐竜の里)
- 12月 10日 茨木 靖
まなびーあ徳島「新あわ学コース」で講演「徳島の植物」(四国大学)
- 1月 23日 辻野泰之
まなびーあ徳島「新未来とくしま講座」で講演「徳島県の恐竜化石をもっと発掘！さらに発見！」(徳島県立総合教育センター)
- 1月 6日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校阿南校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」(阿南ひまわり会館) 中止
- 1月 30日 長谷川賢二
徳島県立総合大学校本部主催講座「とくしま“ひと・まち”づくり実践講座 ～遍路道とまちづくり～」で講演「四国遍路の形成過程」(徳島県立総合教育センター)
- 2月 16日 磯本宏紀
関西博物館連盟研修会で講演「四国の博物館ネットワークによる連携活動」(リモート開催)
- 3月 8日 長谷川賢二
歴史文化倶楽部(月例講座)で講演「阿波と紀伊を結ぶ人々」(徳島県郷土文化会館)

3月13日 辻野泰之

「発見しよう！恐竜の化石発掘体験」に講師として協力（勝浦町地域活性化センター「レヴィタかつうら」）

3月27日 辻野泰之

「恐竜化石発掘体験モニターツアー」に講師として協力（勝浦町 ふれあいの里さかもと）

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受託

令和2年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次の通りである。

磯本宏紀

徳島大学非常勤講師（博物館経営論）
（令和2.4.8～令和元.9.30）

山田量崇

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（令和2.4.3～令和2.9.23）

松永友和

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）
（令和2.4.3～令和2.9.23）

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

2年度は、8月18日（火）～22日（土）に実習生の受け入れを行った。実習生は8人で、大学別の内訳は次の通りである。

鳴門教育大学	2人
四国大学	5人
八洲学園大学	1人

なお、近年、同時期に県立総合大学校本部の依頼により、徳島県インターンシップ実習学生として、高知大学の1人、岡山大学の1名を受け入れた。

カリキュラムは表のとおりである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

(3) 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学との間の協定（年報22号参照）にもとづき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。講義は、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で担当した。例年は博物館講座室を会場としているが、2年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、遠隔授業を行った。

各科目の日程、受講者数は次の通りである。

①博物館資料保存論 9月8日～12日

徳島大6人、鳴門教育大2人、四国大25人

②博物館教育論 2月19～21日、24、27日

徳島大6人、鳴門教育大3人、四国大36人

③博物館展示論 2月28日、3月6～7日、3月9～10日

徳島大6人、鳴門教育大2人、四国大36人

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

令和2年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等はない。

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●徳島地域文化研究会

主として徳島地域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年2～3回程度）、会誌『徳島地域文化研究』の発行（年刊）等を行っている。

●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成されており、研究会の開催（年2回程度）、会報『四国民具通信』の発行、会誌『民具集積』（年刊）の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。

●四国民俗学会

四国地域の民俗研究者により構成されており、研究会の開催（年1回程度）、会誌『四国民俗』の発行（年刊）、資料の調査研究等を行っている。

令和2年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (4人)		B 班 (4人)	
		実習名(場所)	担当者	実習名(場所)	担当者
8/18(火)	午前	館長あいさつ(実習室)	新居	館長あいさつ(実習室)	新居
		ガイダンス・館内施設見学	大橋	ガイダンス・館内施設見学	大橋
	午後	民俗資料を考える(常設展示室・実習室)	庄武	魚類標本の整理(液浸収蔵庫)	井藤
8/19(水)	午前	植物標本の整理(生物収蔵庫)	茨木	化石レプリカの作製実習(実習室)	辻野
	午後	学校教育と博物館の連携(講座室・館内)	西川・丸山	学校教育と博物館の連携(講座室・館内)	西川・丸山
8/20(木)	午前	地学資料の整理(作業室・地学収蔵庫)	中尾	考古資料の整理(実習室・考古収蔵庫)	岡本
	午後	美術資料の整理と扱い(講座室)	大橋	美術資料の整理と扱い(講座室)	大橋
8/21(金)	午前	歴史資料の整理(作業室)	松永	昆虫標本の整理(生物収蔵庫と実習室)	山田
	午後	文化財のX線調査(X線撮影室・実習室)	植地	民俗資料の調査と講座計画(考古収蔵庫)	磯本
8/22(土)	午前	標本の名前を調べる会(実習室・講座室)	井藤	標本の名前を調べる会(実習室・講座室)	井藤
	午後	標本の名前を調べる会(実習室・講座室)	井藤	標本の名前を調べる会(実習室・講座室)	井藤

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在62館(園)が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、令和2～3年度は愛媛県美術館が会長館をつとめ、当館は理事館をつとめている。

2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年開催される役員会・総会及び研修は行われず、役員会の書面開催のみであった。

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。設立当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、3年3月末現在では48館になっている。当館が事務局をつとめている。

●2年度事業

①役員会の開催

6月12日(金) 文化の森イベントホール
2月26日(金) 徳島県立博物館

②総会の開催

参加者：30人

日時：6月12日(金) 13:30～15:00

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会と役員会を兼ね、短時間で実施した。

場所：文化の森イベントホール

議事：令和元年度事業報告及び決算報告

令和元年度監査報告

令和2年度事業計画及び予算

その他

視察：徳島県立近代美術館展示の見学

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No.63～65を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者17人

日時：11月18日(水) 13:30～16:00

場所：川口ダム自然エネルギーミュージアム

内容：研修1「川口ダムの発電について」

講師 湯浅 信次郎 氏(川口ダム自然エネルギーミュージアム館長)

研修2「川口ダム自然エネルギーミュージアムの館内施設紹介」

講師 原 明宏 氏(川口ダム自然エネルギーミュージアムディレクター)

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク(略称「人権ネット」)は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、30機関・団体が加入している。令和2年度は、福岡市で第25回総会が開催されたほか、フィールドワークが行われた(11月19～20日)が、当館からは参加できなかった。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた

54 シンクタンクとしての社会貢献

環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者143人が参加している。

2年度は、自然系博物館における博物館スタッフのための技術講座、公開シンポジウム「Where Culture Meets Nature ～日本文化を育んだ自然をいかに魅せるか～」を開催した。また、資料貸し出し事業「ワークショップ用ブラックライト」などを行った。

(5) 阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査 GISデータの管理

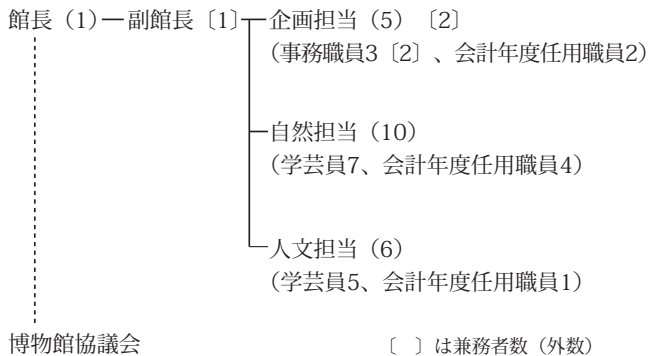
吉野川河口に平成24年4月に開通した阿波しらさぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画し、11年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GISデータとしてとりまとめ配布することになった（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から当館がGISデータを収録したDVDの管理を担当することとなり、27年3月より試行版の配布を開始し、正式版は27年5月より配布を開始した。

VIII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員

(1) 組織図（令和3年4月1日現在）



(2) 職員名簿（令和3年4月1日現在）

館長	新居美佐子
副館長	長谷川賢二（烏居龍藏記念博物館長本務）
〈企画担当〉	
課長補佐	森 篤之
〃	植地 岳彦（考古・保存科学）
〃	石橋 典子（二十一世紀館課長補佐本務）
係長	丸山 直生
主任	後藤 優樹（二十一世紀館主任本務）
会計年度任用職員	松家あき子
〃	田原 晶子
〈自然担当〉	
課長	小川 誠（植物）
上席学芸員	中尾 賢一（地学）
〃	茨木 靖（植物）
学芸係長	辻野 泰之（地学）
〃	山田 量崇（動物）
主席	佐藤 陽一（動物）
主任学芸員	井藤 大樹（動物）
会計年度任用職員	田中 裕美
〃	豊谷 千幸
〃	中村美代子
〃	小布施彰太
〈人文担当〉	
課長	大橋 俊雄（美術工芸）
上席学芸員	庄武 憲子（民俗）

専門学芸員 磯本 宏紀（民俗）
 学芸係長 松永 友和（歴史）
 主任 岡本 治代（考古・保存科学）
 会計年度任用職員 尾崎みどり

(3) 人事異動

〈令和3年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉
 転出：西川栄展・課長補佐、那賀町立鷺敷小学校
 教頭へ
 転入：森 篤之・課長補佐（中央子ども女性センター
 課長補佐）
 兼務：森 篤之・文化の森振興センター

(4) 令和2年度会計年度任用職員

松家あき子（令和 2.4.1～令和 3.3.31）
 田原 晶子（令和 2.4.1～令和 3.3.31）
 田中 裕美（令和 2.4.1～令和 3.3.31）
 豊谷 千幸（令和 2.4.1～令和 3.3.31）
 尾崎みどり（令和 2.4.1～令和 3.3.31）
 中村美代子（令和 2.4.1～令和 3.3.31）
 小布施彰太（令和 2.5.1～令和 3.3.31）

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を下に示す。

●令和2年度博物館費（2月現計予算額）（単位：千円）

予算総額	6,051,310
管理運営	2,871
展覧	4,769
調査研究	1,748
収集保存	4,419
普及教育	1,505
新常設展設計	600,000
日本最古級恐竜化石含有層緊急発掘調査プロジェクト	30,698
新常設展プレビュー展事業	5,300

●令和2年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業

飛び出せ博物館!!「徳島まるづかみ事業」	6,693
「徳島まるづかみ」事業実行委員会（事務局：当館）	

3. 文化の森の連携事業

平成24年度以来、文化の森各館から職員1人ずつが、教育委員会文化の森振興本部企画振興部・二十一世紀館文化の森企画広報室を兼務することで、文化の森内の横断的な連携を図ってきた（27年度からは本部兼務のみ）。令和2年度には、文化の森全館の知事部局への移管に伴い、本部に代わって文化の森振興センターが設置されたため、同センターを兼務することで連携を図る体制となった。定期的な会議を継続しながら、文化の森6館の連携と企画・広報の推進を図っている。2年度に取り組まれた主な内容は、次の通りである。

①文化の森全館連携事業

例年4回行っている全館共同のイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止し、11月3日、2月11日に共同による「文化の森ウォークラリー」を実施した。

また、文化の森開園30周年記念の連携事業として、「文化の森開園30周年記念共同企画展 文化遺産を後世に伝える—とくしまデジタルアーカイブ—」（11月3日～11月15日）を開催した。「とくしまデジタルアーカイブ」で公開している高精細デジタル画像と実物資料をあわせて展示することで、多様な資料の保存と活用を担う文化の森各館の意義について理解を深めてもらった。

今後の連携事業のあり方については、検討を深めていく予定である。

②文化の森学習応援事業

平成28年度から、学校の長期休業期間にあわせ、学習場所として環境の整っている博物館、近代美術館、図書館、二十一世紀館の貸館スペースを学習室として開放してきたが、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

4. 機能強化のための取り組み

常設展リニューアルを契機として、博物館の機能強化を図るため、次のような取り組みを行った。

(1) 令和2年度文化庁地域と共働した博物館創造活動支援事業「飛び出せ博物館!! 「徳島まるづかみ」事業

文化庁の支援を得て、常設展リニューアルのコンセプト「徳島まるづかみ—“いのち”と“とき”のモノがたり—」について、地域と連携し、住民参加によって深めることを目指した事業である。

実施主体は「徳島まるづかみ」事業実行委員会、当館を中核館（事務局）とし、海陽町立博物館、美馬市立図書館、徳島県博物館協議会、徳島県立二十一世紀館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館が連携館等として参画する体制であった。

主要事業は次のとおりである。

①「徳島まるづかみ展」の実施

県央編（第1期、第2期）、県西編、県南編の開催

②連携講座の実施

県南及び県西での開催

③調査・撮影

「徳島」を象徴する風景・行事の選定と写真撮影

(2) 新常設展グランドオープンに向けた広報戦略策定支援業務

株式会社JTB総合研究所に委託し、新常設展のオープンを見据えた広報戦略の策定を図った。主に他館事例調査、広報戦略コンセプト策定、キャッチコピーやロゴマークの制作などを実施した。

(3) 徳島県文化観光推進地域計画における位置づけ

令和2年5月に施行された「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」（文化観光推進法）では、文化振興を観光振興と地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化振興に再投資される好循環を創出することを目指している。この法律に基づいて徳島県が策定した「徳島県文化観光推進地域計画」が、11月18日付で文部科学大臣及び国土交通大臣の認定を受けた。

この計画では、当館も中核的な文化観光拠点施設となっており、具体的な事業としてウェブサイトのリニューアルや収蔵資料のデジタルアーカイブ化などが位置づけられた。今後、文化行政や観光行政はもちろん、関係団体との連携強化を進める必要がある。

5. 防災及び危機管理

(1) 防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長・副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森4館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に備えている。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

令和元年度末から流行が始まった新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、次のとおり対策を講じた。

- ①全国的に発出された緊急事態宣言を受けた臨時休館（4月22日～5月8日、レファレンス業務は継続）及び代替サービスの推進（ホームページコンテンツの拡充）
- ②感染拡大防止に配慮した利用者サービスの実施（公財）日本博物館協会が作成したガイドライン等を踏まえて、展示観覧や行事参加においてはアルコールによる手指消毒や検温、マスク着用などの協力を要請したほか、所要箇所にはアクリル製パーティションや空間除菌装置を設置した。また、展示に関しては、参加者の密集による感染リスク低減に留意し、必要に応じて入場制限を行い、各種の行事は全面的に規模を縮小し、屋内の場合は換気を徹底することとした。一方、職員もマスク着用や手指消毒などを徹底した。

(3) 防災訓練

3月19日（金）、二十一世紀館を中心に、自衛消防訓練を行った。消防設備についての講義や現場確認、取扱説明を受けたほか、水消火器を使用した消火訓練を行い、防災意識を高めた。

6. ユニバーサル化への取り組み

令和2年度は、新常設展構築事業の一環として、「インクルーシブデザインワークショップ」を実施し、外国人にもわかりやすい展示方法を検討するため、英語、中国語、韓国語を使うリードユーザーからの意見をもらい、解説表現の方法などについて検討した。

第1回ワークショップ

日時：2020年8月28日

参加者：8人（参加者：6人 専門家：2人）

第2回ワークショップ

日時：2020年9月18日

参加者：7人（参加者：5人 専門家：2人）

7. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の

規定に基づき設置されている。

令和2年度は協議会を1回開催した。

●令和2年度博物館協議会

日時：令和2年9月30日（木）

10:00～11:30

会場：博物館講座室

議事

- ①令和元年度年度事業の実施状況について
- ②令和2年度予算及び事業概要について

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（令和3年3月31日現在）

区分	氏名	役職等
学校教育	川真田早苗	元文部科学省学習指導要領等改善検討指導・助言委員（北陸学院大学教授）
社会教育	安倍久恵（副会長）	フリーアナウンサー・佐古絆文化協会事務局
	原多賀子	京都外国語大学非常勤講師
	大栗美菜	徳島市立考古資料館学芸員
学識経験	塩瀬隆之	京都大学総合博物館准教授
	河野まゆ子	JTB総合研究所地域戦略部長・主席研究員
	町田哲（会長）	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
	松村幸江	阿波市国際交流の会会長
	三浦麻衣	徳島新聞社報道本部記者
家庭教育	角元良	八万小学校PTA会長

8. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほかに、各種の研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止が相次いだほか、参加を見合わせたりした。一方で、博物館独自の取り組みとして、次の職員研修を行った。

●職員研修

講師：大野照文氏（三重県総合博物館長）

内容：「貝体新書」（二枚貝の殻を観察して、二枚貝がどのような生き物かを推定する。）

日時：令和2年11月13日（金）

15:00～17:30

会場：博物館実習室

参加者：19人

9. 視察等博物館関係来訪者

9月 8日	堺市博物館・堺市観光推進課・同 世界遺産課	4人
9月 17日	香川県文化振興課	松岡明子氏
11月 13日	三重県総合博物館	大野照文氏



職員研修「貝体新書」

IX 中期活動目標と自己評価

1. 中期活動目標（令和元年9月26日策定）

生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況の大きな変化を受け、博物館活動の基本である資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなどもすすめられるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、3期15年間（第1期：平成16～20年度、第2期：21～25年度、第3期：26～30年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化をすすめてきた。

ちょうど、第1期目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法の一部が改正され（20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第2期目標にもとづく活動をすすめていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23年12月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ、今後も継続的に推進することが必要だと考えられる。

近年では、社会教育施設である博物館の役割は広がりつつあり、観光や地方創生への貢献なども期待されている。だからこそ、地域に根差し、学術的な裏付けのある資料収集・保存や調査研究など、しっかりとした土台を保つことで、良質で多面的なサービスが実現できると考える。

30年度をもって第3期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第4期目標（平成31・令和元～5年度）をまとめた。

(1) 第3期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革をすすめ、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

第2期活動目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の基本理念および基本的性格（注）を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などの見直しも行い、より丁寧な点検・評価をすすめることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残した。

そこで、第3期では、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行い、新たに「「連」県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることで、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう見直した。

この「県民とともに」を基調とする活動路線は、ユニバーサルミュージアムへの各種の取り組み、公募型ボランティア、恐竜化石発掘調査、阿波木偶箱まわし調査などにおいて、一定の成果を挙げたといえる。しかしながら、これらの活動を含めた博物館活動全体について、県民のより一層の認識の深化という点において課題を残した。

(注)

「徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」(昭和59年1月)に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次のとおりである。

〈基本理念〉

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にす博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

①人文科学(考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉)・自然科学(動物、植物、地学)の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育および生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

(2) 第4期中期活動目標の策定の経緯

近年、当館を含めた博物館を取り巻く状況は予算の減少、少子高齢化、ユニバーサル化の推進、インバウンド対応、そして施設の老朽化と設備の長寿命化などの課題が重くのしかかり大きく変化してきている。加えて、当館は令和3(2021)年度のオープンを目標とする新常設展の構築に向けて、鋭意準備をすすめている状況である。このように第4期は、新たな時代を切り開いていくべき期間と言える。

そこで、第4期中期活動目標の策定にあたっては、これまで3期15年間の活動を振り返り、新たな時代にふさわしい活動目標についての検討を行った。その結果、これまでの「県民とともに」という路線を重視・継続し、さらにその深化を図るべく、見直しを行った。

(3) 徳島県立博物館の使命 ※ p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱—だれもがとどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

「連」つながりを大切にし、だれもがとどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがとどえる地域の拠点を目指します。

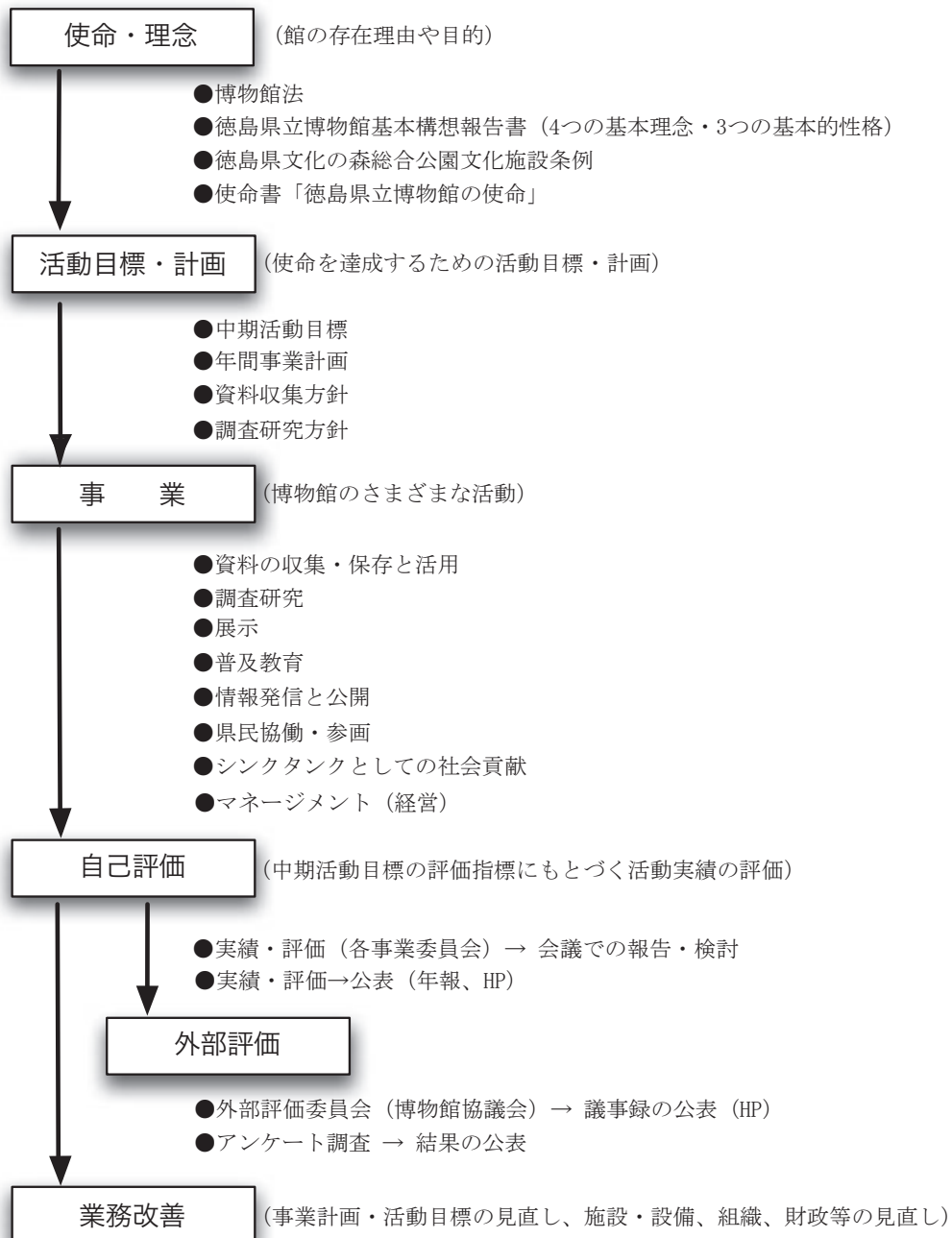
博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

(4) 第4期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成31・令和元～5年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- 中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- 年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- 活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- 活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次のとおりである。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

①展示

だれもが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんや関連機関との連携を大切にしながら、徳島および関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。今期は、だれもが学び、発見し、体験できる場の新たな創出のため、常設展全面リニューアルに取り組みます。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展リニューアルの実施	基本構想にもとづき、常設展のリニューアルを実施します。リニューアルにあたっては、実物資料（モノ）の魅力発信、フレキシブルな展示構成、ユニバーサル化推進、発見・参加体験の充実について重点的に取り組みます。	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み	実物資料（モノ）の魅力発信できる展示の設計・実施・活用		※ H31～R3年度の実施状況およびリニューアルオープン後の活用・改善状況等
		フレキシブルな展示構成に向けた取り組み	展示替えしやすい可変性のある展示の設計・実施・活用		
		ユニバーサル化推進に向けた取り組み	だれもが安心して利用できる空間の設計・整備・活用		
		映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み	高精細映像の制作と配置、ハンズオン展示の拡大と活用		
		新常設展のPRと活用に向けた取り組み	新常設展の広報・PRの充実とリニューアル後の効果的な活用		
1-2 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため目標値がリニューアル前後で異なる
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合		
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため考慮が必要
		展示替え回数	常設展の展示替えおよびテーマ展示の開催回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	※常設展リニューアル前は部門展示、トピック展示を含む
		展示室内の改善・修繕の実施状況	展示室内の設備等改善・修繕状況および展示補助具の追加・改善状況		展示替えは除く
1-3 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 250人 総合 150人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする※第4期中、常設展リニューアル工事にともなう企画展示室が使用できない期間を含むため考慮が必要
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		企画展の検討状況			
1-4 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列等の多様な展示の開催をすすめます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	2回/年	常設展ロビー等における展示を含む
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 300人 総合 200人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	特別陳列のみ
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	内容が取り上げられた場合
		特別陳列等の検討状況			

1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。また、他機関との共同による展示を検討、実施します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
			移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸し出し数」を含む
1-6	展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
			展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
			展示解説シート等の配布・設置状況	展示解説シート等の配布、追加状況		
1-7	県民などとの協働による展示の推進	県民などとの協働で、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化についてだれもが楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創り出すことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		5,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2	学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		館での授業件数			
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
学校の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%			
2-3	普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4	県民との協働による普及行事等の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事等を推進します。	県民との協働による普及行事等の実施状況		県民からの協力を受けた行事を含む
2-5	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み	幼児や外国人、障がい者などさまざまな人が、普及行事等に参加できるように取り組みます。	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み状況		

③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみならず、関係機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元し、可視化に努め、地域の魅力を引き出すよう努めます。(使命:「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1	調査研究活動の推進	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2	外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3	県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみならずが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数	2件/年	
3-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請4件・採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む

64 中期活動目標と自己評価

			民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5	調査研究成果の公表	博物館の調査研究成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年 (査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
			学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
			マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	3件/年	

④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、さまざまな手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、さまざまな形で活用します。（使命：「伝」未来にまもり伝える博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
収集						
4-1	継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集をすすめ、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	前年度の収蔵資料点数実績+20,000点(年4,000点×5年)	550,000点	
			新規資料増加点数		4,000点	
			採集資料件数		20件/年	
			購入資料件数		3件/年	
			寄贈資料件数		100件/年	
4-2	寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			
			新規寄託件数		3件/年	
4-3	文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数（雑誌類を除く）		
			新規受入図書冊数		140冊	
			寄贈図書冊数		40冊	
			購入図書冊数		100冊	
			購入雑誌タイトル数			
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録をすすめるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	50%	
4-5	資料の安全な保存	薬剤の適切な使用と、収蔵庫等の資料保存環境における定期的な点検・清掃作業等を組み合わせて、資料保存に取り組みます。	燻蒸の実施	燻蒸回数	3回/年	
			収蔵庫点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			展示室点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査	適正な空気環境の維持		
			新たな防虫・防菌対策の検討	検討実績		
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等			
活用						
4-7	展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
			常設展での利用点数			
			常設展以外の展示での利用点数			
4-8	貸し出し等の促進	貸し出しや提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出し(2-2学校への資料貸出件数を参照)を除く	60件/年	
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	積極的な情報発信を行うことにより、資料収集保存活動に対する理解の促進を図ります。	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など			

⑤情報の発信と公開

博物館活動についてのさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話をすすめます。第4期は、だれもが博物館の情報を、より利用できるような環境づくりを目指します。また、常設展のリニューアルの進捗状況や広報など、タイムリーな情報発信に努めます。（使命：「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
5-1	マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞等が取材・報道した数	100件/年	印刷メディアに限る（新聞・雑誌等）	
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年		
5-2	広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段や発送の新規開拓	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数および発行回数			
		年間催し物案内発送件数（発送回数）		600件（1回）/年		
		月間催し物案内発送件数（発送回数）		各80件（12回）/年		
		博物館ニュース発送件数（発送回数）		各1,100件（4回）/年		
5-3	インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	HP（全ページ）へのアクセス総数	9,000,000件/年	
		HPの新規および更新したページ数	新たに作成したり更新したページの数	70ページ/年	算定の都合上更新ページ数も含む	
		HPの内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回		
5-4	SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	内容が更新された回数	80回/年	
5-5	だれもが情報にアクセスできるホームページづくり（ユニバーサル視点）	子どもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応	スマートフォンなど新型端末への対応状況		
		HPの多言語対応	英語など日本語以外の対応状況			
		HPの見やすさや色の検討	文字の大きさを選択できたり、テキスト読み上げツールや見やすい配色などへの対応状況			
		デジタルアーカイブ	整備状況			
5-6	常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	展示更新に関する発信状況	発信件数		FB、HP、資料提供などの総件数

⑥ 県民協働・参画

県民のみなさんと一緒に活動することにより、県民の自主的な学びや地域活動の活性化を促進するとともに、だれもがお互いにつながる拠点となることを目指します。（使命：「連」つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
6-1	友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	250人/年	H30年度の会員数から増加を目指す
		個人会員				
		家族会員				
		会員の継続率	当該年度継続率	前年度会員の70%		
		個人会員				
		家族会員				
		友の会行事実施回数		6回/年		
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%		
		個人会員				
		家族会員				
6-2	公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数		
		個人会員				
		家族会員				
		会報の発行回数		2回/年		
		公募ボランティア登録者数				イベントボランティア登録者数、みどりのサポート隊登録者数など
公募ボランティア活動回数（全体会・班会合、イベント）	企画運営型行事等件数	会合等を含む活動の延べ日数			イベントボランティア活動回数、みどりのサポート隊活動回数	

66 中期活動目標と自己評価

6-3	各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事および調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況		1-6 参照
			県民参画型調査の件数	2件/年	3-3 参照
			県民との協働による普及行事等の実施状況		友の会会員、公募ボランティア、その他の県民と協働で実施したイベントを統合して記録する

⑦シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じてさまざまな資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「連」つながりを大切に、だれもが持つ博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
7-1	レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	500件/年	
			周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2	講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
			講演会等の受講者数			
7-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護など自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
			機関・団体等への協力状況			
7-4	大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数		3科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）の延べ受講者数	
			学生・院生指導人数			
			博物館実習生受入人数			
			学芸員養成科目受講者数			
7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受けるなど、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
			学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
			学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
			博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
			連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的でバランスのよい運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。	点検・改善の状況		
8-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内および近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合		

8-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等によるさまざまな博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4	設置者による理解および外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県および県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
			外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況			
			危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割および当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
8-7	博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、来館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況			
			自己点検評価の状況			
			外部評価の状況			

2. 令和2年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
1-1 常設展リニューアルの実施	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み		・基本設計における検討 ・来館者モニタリング調査の実施 ・新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作	・実施設計における検討 ・展示計画再点検ワークショップの実施 ・新常設展での重文展示に関する文化庁との協議 ・新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作 ・デジタルアーカイブの構築と資料撮影	・旧常設展展示資料等の撤去、仮保管 ・展示解説の執筆及びグラフィックパネル等のデザイン、編集作業 ・展示資料の調査、撮影を行い、展示方法や演示具を検討 ・展示内容再検討ワークショップの実施 ・新常設展での重文展示に関する文化庁との協議 ・新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作 ・デジタルアーカイブの構築、資料撮影及び公開
	フレキシブルな展示構成に向けた取り組み		・基本設計における検討 ・新常設展での展示に向けた資料の収集	・実施設計における検討 ・新常設展での展示に向けた資料の収集	・新常設展での展示に向けた資料の収集
	ユニバーサル化推進に向けた取り組み		・基本設計における検討 ・インクルーシブデザイン学習会の実施	・実施設計における検討 ・インクルーシブデザイン・ワークショップの実施	・インクルーシブデザイン・ワークショップの実施 ・展示解説等の翻訳
	映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み		・基本設計における検討 ・新常設展での展示に向けた映像撮影 ・ハンズオングッズの検討 ・インターネットの環境の改善を検討	・実施設計における検討 ・新常設展での展示に向けた映像撮影 ・ハンズオングッズの検討 ・インターネットの環境の改善を検討	・新常設展での展示に向けた映像制作 ・ハンズオングッズの検討と製作 ・インターネットの環境の改善を検討
	新常設展のPRと活用に向けた取り組み		・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道	・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道	・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道

				・県民とともに新常設展を考えるワークショップの実施	・ホームページ、フェイスブック等でのPR ・特別陳列「とくしまタイムトラベル」での新常設展のプロモーション展示 ・広報戦略策定に向けた研修会の実施 ・来館者調査の実施 ・県民とともに新常設展を考えるワークショップの実施 ・「蔵出し!とくしま“宝もの”展」の開催計画	・ホームページ、フェイスブック等でのPR ・企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」「徳島まるづかみ展」での新常設展のプロモーション展示 ・3年度の「徳島まるづかみ展」の開催計画 ・「徳島まるづかみ展」での来館者の意向調査の実施 ・新常設展のリニューアルオープンに向けた広報戦略策定業務の実施
1-2	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	42,764人	49,800人	14,232人 (常設展リニューアルのため、8月までの公開)
		観覧者のリピーター率		40% (8月)	35% (8月)	データなし
		観覧者の満足度	80%	88% (8月)	99% (8月)	データなし
		展示替え回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	16回 (部門展示4回、トピックコーナー6回、阿波の近世絵画3回、ロビー等の小展示3回)	15回 (部門展示5回、トピックコーナー6回、阿波の近世絵画2回、ロビー等での小展示2回)	8回 (部門展示2回、トピックコーナー2回、ロビー等での小展示4回)
		展示室内の改善・修繕の実施状況		・総合展示室、部門展示室及び展示ケースの消耗品等の交換、調整	・部門展示室の扉の修繕検討 ・企画展示室ウォールケースの一部修繕	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対策 ・新常設展構築事業における常設展示室全体の改修
1-3	魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然250人/日 総合150人/日 人文100人/日	111人(阿波漁民ものがたり:4,328人、39日) 295人(ジャングルいきもの図鑑:15,338人、52日)	243人(ミネラルズ2019:8,740人、36日) 416人(とくしまの恐竜時代:18,710人、45日)	37人(宝もの展:1,190人、32日) 336人(甲虫すごいぜ!:14,803人、44日)
		観覧者の満足度	80%	95%(阿波漁民ものがたり) 91%(ジャングルいきもの図鑑)	94%(ミネラルズ2019) 94%(とくしまの恐竜時代)	データなし
		展示への注目度	5件/回	9(阿波漁民ものがたり) 7(ジャングルいきもの図鑑)	8(ミネラルズ2019) 22(とくしまの恐竜時代)	8(宝もの展) 16(甲虫すごいぜ!)
		企画展の検討状況		令和2年度以降の計画の協議	令和3年度以降の計画の協議	令和4年度以降の計画の協議
1-4	多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	2回/年	2回 青蓮院十一面観音菩薩立像、ごっついで那賀川	4回 ヒロシマ原爆展、とくしまタイムトラベル、「板東俘虜収容所」の世界展、二品家政所下文	1回 徳島まるづかみ展県央編第1期
		特別陳列観覧者数	自然300人/日 総合200人/日 人文100人/日	296人(青蓮院十一面観音菩薩立像:2,664人、9日) 161人(ごっついで那賀川:5,971人、37日)	318人(ヒロシマ原爆展:5,731人、18日) 205人(とくしまタイムトラベル:6,364人、31日) 89人(「板東俘虜収容所」の世界展:2,498人、28日) 44人(二品家政所下文:444人、10日)	129人(徳島まるづかみ展県央編第1期:3,488人、27日)
		観覧者の満足度	80%/回	93%(青蓮院十一面観音像) 96%(ごっついで那賀川)	97%(とくしまタイムトラベル)	データなし
		展示への注目度	5件/回	4(青蓮院十一面観音像) 5(ごっついで那賀川)	11(ヒロシマ原爆展) 2(とくしまタイムトラベル) 3(「板東俘虜収容所」の世界) 2(二品家政所下文)	7(徳島まるづかみ展県央編第1期)
		特別陳列等の検討状況		令和2年度以降の計画の協議	令和3年度以降の計画の協議	令和4年度以降の計画の協議
1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回/年	2回 鳥居龍蔵と小金井良精、文化の森人権啓発展	2回 文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島をさぐる及び文化の森人権啓発展	3回 鳥居龍蔵の学問と世界、文化の森30周年展及び文化の森人権啓発展
		移動展等館外での展示の開催回数	2回/年	2回 徳島県戦没者記念館 レヴェタかつら	2回 かつらうら恐竜時代 あわぎん恐竜時代展	3回 恐竜化石展、徳島まるづかみ展県西編、徳島まるづかみ展県南編
1-6	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録等1冊	企画展図録等1冊	企画展図録等1冊
		展示解説等の実施状況		企画展展示解説6回 企画展記念講演会4回 企画展関連行事1回 特別陳列展示解説1回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー24回 常設展活用イベント4回 部門展展示解説11回	企画展展示解説8回 企画展関連行事2回 特別陳列展示解説5回 特別陳列関連行事2回 クイズラリー21回 常設展活用イベント5回 部門展展示解説9回	企画展展示解説5回 企画展関連行事4回 特別陳列展示解説2回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー8回 部門展展示解説2回

					常設展見どころ解説2回 移動展展示解説1回	常設展展示解説10回 移動展展示解説3回
		展示解説シート等の 配布・設置状況		—	部門展示室5件、トピックコー ナー1件	部門展示室5件、トピックコー ナー1件
1-7	県民などとの協 働による展示の 推進	協働の実施状況		部門展示「小川昌彦氏の蝶コレ クション」 特別陳列「ごっついで那賀川」 ロビー等での小展示「「ジュニ ア学芸員講座」開催報告」	部門展示「文化の森の植物」「ア ゲハチョウと甲虫」 トピックコーナー「奇怪！魚類 の頭骨標本」 企画展「ミネラルズ2019」 特別陳列「とくしまタイムトラ ベル」	

●自己評価

(1-1) 常設展リニューアルの実施

- ・新常設展構築事業として、展示製作を進めた。

【実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み】

- ・多彩な実物資料（モノ）の展示、実物資料の魅力の発信方法について検討した。
- ・8月31日以降常設展示室を閉室し、旧常設展展示資料、備品類の撤去、仮保管等に係る作業を行った。
- ・展示解説等を執筆し、グラフィックパネル等のデザイン、編集作業を進めた。
- ・展示資料の調査、撮影を行い、展示方法や演示具等について検討した。
- ・展示製作の一環として、展示内容を再点検するためのワークショップを2回（4日間）実施し、実物資料（モノ）の魅力発信方法についてアドバイザーを交えて検討した。
- ・新常設展での重要文化財等の展示について文化庁と協議した。
- ・新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作を行った。
- ・新常設展で活用する予定のデジタルアーカイブの構築と資料撮影を行い、3月にはweb上に公開した。

【フレキシブルな展示構成に向けた取り組み】

- ・展示替えをしやすいフレキシブルな展示、施設になるよう検討した。
- ・新常設展での展示替えを意図した資料の収集を行った。

【ユニバーサル化推進に向けた取り組み】

- ・誰もが利用しやすい展示、施設になるよう検討した。
- ・インクルーシブデザインワークショップを2回実施し、リードユーザーに参加してもらい多様な展示利用者を想定した検討を行った。
- ・グラフィックパネルやポータブル端末用コンテンツ等に使用する展示解説等の翻訳を進めた。

【映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み】

- ・映像やハンズオン等を用いた体験型の展示について検討した。
- ・新常設展での展示に向けた撮影、編集等映像制作を進めた。
- ・ハンズオングッズの検討、製作等を行った。
- ・展示製作の一環として、展示室での映像展示（AR・VR等を含む）やポータブル端末の活用に向けて、インターネット環境の改善について検討した。

【新常設展のPRと活用に向けた取り組み】

- ・新常設展に関する取材対応をし、マスコミにより報道された。
- ・ホームページ、フェイスブックを用いた紹介等PRを行った。
- ・企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」、特別陳列「徳島まるづかみ展 県央編第1期」、ロビー展示「徳島まるづかみ展 県央編第2期」、移動展「徳島まるづかみ展 県西編」、「徳島まるづかみ展 県南編」では、新常設展のプロモーション展示を行った。3年度に開催する「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—」でのプロモーション展示について検討した。
- ・「徳島まるづかみ展」の各会場では、新常設展に関する観覧者の意向調査を実施した。
- ・新常設展グランドオープンに向けた広報戦略策定業務を実施し、実施報告書が提出された。

(1-2) 常設展の改善・充実

- ・常設展観覧者数は14,232人であり、30年度、元年度より減った。これは、常設展リニューアルのため8月末をもって常設展示室を閉室したためである。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月22日から5月8日の間、

70 中期活動目標と自己評価

臨時休館したことも影響している。

- ・例年夏休み期間を中心に常設展に関するアンケートを実施していたが、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から直接アンケート用紙を手渡しして記入してもらう形での調査は困難であり、加えて、直後に常設展リニューアルを控え、旧常設展の改善に活かしにくかったことから、実施を見合わせた。したがって、観覧者のリピーター率、観覧者の満足度についてのデータはない。
- ・展示替え回数は8回で、30年度の16回、元年度の15回から減っているものの、目標値に達している。展示替え回数が減ったのは、8月末で常設展示室を閉室するなど公開日数が少なかったためである。内訳は、部門展示2回（「発掘された木の道具」、「骨格標本の世界」）、トピックコーナー2回（「令和元年度の恐竜化石含有層発掘調査で見発見された恐竜化石」、「新着資料紹介 徳島ゆかりの歴史資料」）、ロビー等での小展示4回（「写真で見る徳島の遺跡2」、「草木染めで外来種対策にチャレンジ」、「馬形はにわ」、「徳島まるづかみ展 県央編第2期」）である。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受付カウンターへのパーティション、検温器、消毒用アルコール等の設置、展示室への次亜塩素酸空間除菌機の設置、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等を行い、来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、連絡先の提供、ソーシャルディスタンスの徹底等、展示室内での各種対策への協力をお願いした。
- ・新常設展構築事業において、常設展示室全体の改修を進めた。

(1-3) 魅力ある企画展の計画的開催

- ・2年度は企画展2回（「蔵出し！とくしま“宝もの”展」、「甲虫すごいぜ！」）を実施した。両企画展ともに新型コロナウイルス感染症への対応が必要だった。「蔵出し！とくしま“宝もの”展」では、臨時休館による会期の変更、展示解説の予定変更等の対応をした。「甲虫すごいぜ！」では、企画展示室内が過密にならないよう整理券を配布して入場者数を制限し、観覧者にはマスク着用、手指消毒に協力してもらう等の各種対策を実施した。展示解説では、参加者に検温、手指消毒、連絡先の提供をお願いし、過密にならないよう工夫して実施した。
- ・企画展の1日あたりの観覧者数は「蔵出し！とくしま“宝もの”展」が37人（総観覧者数：1,190人、開催日数：32日）、「甲虫すごいぜ！」が336人（総観覧者数：14,803人、開催日数：44日）であった。「甲虫すごいぜ！」では目標値を達成したが、「蔵出し！とくしま“宝もの”展」では目標値にとどかなかった。ゴールデンウィーク中の臨時休館や学校遠足等の中止等、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたのが要因である。
- ・観覧者の満足度に関するデータはない。常設展同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から観覧者アンケートの実施を見合わせたためである。
- ・企画展への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を上げている。「蔵出し！とくしま“宝もの”展」で8件、「甲虫すごいぜ！」で16件であり、ともに目標値に達した。
- ・企画展開催計画については、学術性、新規性、娯楽性等の諸要素をバランス良く取り入れた多様で計画的な運営を心掛けている。また、予算が少ない中で、外部資金の獲得や予算申請方法の工夫により、展示内容や広報の充実を図ることを検討し、実施している。今後も多くの観覧者の満足を得られるよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努めていきたい。なお、新型コロナウイルス感染症の収束を見通せないなかで、引き続き各種対策をふまえた計画が必要である。

(1-4) 多様な展示の開催促進

- ・特別陳列等の開催回数は1回（「徳島まるづかみ展 県央編第1期」）のみで、目標値に達しなかった。常設展リニューアルに際し、企画展示室を旧常設展資料の仮保管に使用していたため、展示に使用できなかったことが要因である。
- ・特別陳列の1日あたりの観覧者数は、「徳島まるづかみ展 県央編第1期」129人（総観覧者数：3,488人、開催日数：27日）で目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったことが要因と考えられる。
- ・観覧者の満足度に関するデータはない。常設展や企画展同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から観覧者アンケートの実施を見合わせたためである。
- ・特別陳列への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を上げている。「徳島まるづかみ展 県央編第1期」7件で目標値を上回った。

(1-5) 他機関との共同展示等の促進

- ・鳥居龍蔵記念博物館との共催により、企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」を開催した。
- ・文化の森6館での共催により、「文化の森30周年記念 共同企画展 文化遺産を後世に伝える—とくしまデジタル

ルアーカイブー」を開催した。

- ・文化の森6館及び徳島県教育委員会人権教育課の共催により、「2020年度文化の森人権啓発展」を開催した。
- ・他機関との共同による移動展を3回（「恐竜化石展」、「徳島まるづかみ展 県西編」、「徳島まるづかみ展 県南編」）実施し、目標値を達成した。「恐竜化石展—かつうらの恐竜時代—」は、勝浦町が主催し、当館が協力した移動展である。「徳島まるづかみ展 県西編」及び「徳島まるづかみ展 県南編」は、当館が中核館である「徳島まるづかみ」事業実行委員会が主催し、「県西編」は美馬市立図書館で、「県南編」は海陽町立博物館で開催したものである。他機関との連携による展示は、当館単独では難しい分野、資料、地域、施設での展示を可能にし、新たな観覧者を得られるため、今後も継続できるよう努めていきたい。

(1-6) 展示解説等の推進

- ・企画展図録を1冊（「蔵出し！とくしま“宝もの”展」）発行した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、文化の森全体で実施する大規模な常設展活用イベント4回（「文化の森こどもの日フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森 大秋祭り!!」、「文化の森ウィンターフェスティバル」）を中止した。
- ・企画展の展示解説を5回、特別陳列の展示解説を2回、部門展示の展示解説を2回（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1回中止）、移動展の展示解説を3回（大雪のため1回中止）行った。企画展関連行事を4回、特別陳列関連行事を1回行った。
- ・旧常設展示室閉室直前の8月、「学芸員によるイブニング解説」として常設展のスポット解説を9回行った。友の会会員を対象に「さよなら常設展 一度限りの夢企画」として常設展のスポット解説を1回行った。
- ・子ども向け展示解説の一環として、クイズラリーを8回（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回中止）実施した。

(1-7) 県民などとの協働による展示の推進

- ・企画展「甲虫すごいぜ!」、ロビー展示「馬形はにわ」、移動展「徳島まるづかみ展 県南編」は、県民と協働で開催した。展示での県民との協働件数は3件だった。毎年新たな形での県民協働による展示を実施している。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	96回	86回	70回
	普及行事参加者数	5,000人/年	7,250人	8,648人	1,560人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	89.3% (19行事)	95.3% (7行事)	アンケート中止
	アウトリーチ活動数	5回/年	4回	5回	7回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	38件	27件	23件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	8件	13件	9件
	館での授業件数		5件	8件	10件
	教員研修件数		4件	5件	0件
	職場体験件数		10件	7件	6件
	遠足件数		123件(学校101件、その他22件)	139件(学校89件、その他50件)	34件(学校26件、その他8件)
	学校の満足度	80%	98%	99%	100%
2-3 普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	40件/年	30件	33件	62件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回
2-4 県民との協働による普及行事等の推進	県民との協働による普及行事等の実施状況		9件(公募ボランティア5件、普及行事3件)	10件(公募ボランティア4件、普及行事6件)	5件(公募ボランティア1件、普及行事4件)
2-5 だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み状況			5件(インクルーシブワークショップ1件、普及行事2件、インバウンド向け対応1件、広報改善1件)	1件(インクルーシブワークショップ1件)

●自己評価

新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和2年4月16日に全国に緊急事態宣言が発令された。4月22日から5月8日まで、臨時旧館となり、その後の催しや事業にも影響が続いた。

(2-1) 県民のニーズを反映した多様な催しの開催

- ・普及行事の実施回数は、元年度の86回から16回減り70回であった。ただし、83回計画しており、12回が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1回が悪天候のため中止になったことは残念であった。参加者数は1,560人で、元年度の8,648人から7,000人ほど減っている。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人文・自然分野の行事ともに、1行事当たりの参加人数を制限したためである。特に、夏季までの行事に多大な影響があった。また、春・夏・秋・冬と実施してきた「文化の森フェスティバル」もすべて中止となった（元年度参加者総数5,565人）。
- ・普及行事は、元年度と同じ13シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、全体を通じて、生物に関する行事、屋外で実施する行事、参加体験行事には、元年度と同数程度の申込みがあった。
- ・普及行事への参加者の満足度調査については、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止等のためアンケートを実施していない。
- ・移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、海陽町立博物館での「海部自然・文化セミナー」が4回、美馬市立図書館での移動展における「徳島まるづかみ展県西編」展示解説が1回、海陽町立博物館での移動展における「徳島まるづかみ展県南編」展示解説が2回の計7回あった。目標値の5回を3回上回った。今後も、他館・機関と連携し、アウトリーチ活動も広げていきたい。
- ・鳥居龍蔵記念博物館との共催により「令和2年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」を実施した。中学生・高校生から研究レポートを公募、フォーラム（発表会）で口頭発表してもらうとともに、優れた成果を表彰した。応募は中学生3組、高校生5組、計8組、参加者は延べ90人であった。遠足等での来館が少ない中学校や高等学校との連携も深めることができた。

(2-2) 学校教育支援事業の推進

- ・2年度の出前授業数は、23件で、元年度同様に目標値の15件を大幅に上回った。その内訳は、徳島市の学校が11件と多く、次いで吉野川市5件、阿南市3件、阿波市2件、美馬市の2件である。校種別では、小学校が20件、高校2件、その他1件であった。中学校や幼稚園・保育園についても広がりを目指したい。出前授業の内容では、小学校の「昔の道具とくらし」が圧倒的に多いが、「昆虫・水生生物」などもある。小学校の1件は阿波の土柱、高校の1件は穴吹川で実施している。中学校や高等学校でできる授業の分野やテーマを開発し、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、アンケート提供のあった7校での教員・生徒の満足度は100%で高い評価を得ている。
- ・資料の貸出件数は、元年度より4件少ない9件であった。内訳は、「岩石・化石」(3件)、「戦争関係資料」(3件)、「昔の道具」(2件)「美術資料(絵巻物)」(1件)などであった。
- ・館内での授業は10件(元年度8件)、教員研修は0件(元年度5件)であった。2年度で8回目となる教員研修として実施予定であった「教員のための博物館の日 in 徳島」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。
- ・職場体験は、元年度より1件少ない6件であった。高等学校4件、大学2件である。2年度の実施はなかったが元年度は中学校が6件あり、今後、職場体験を通じて、出前授業での需要は少ない中学校や高等学校との連携が図られることが必要である。
- ・2年度の遠足は34件(学校教育課程26件、学童等8件)であり、元年度の139件(学校教育課程89件、学童等50件)より減っている。内訳でみると、学校教育課程での利用は63件減り、土曜・日曜や長期休業中での学童保育やその他教育支援施設の利用は、42件と大幅に減少している。校種別では、小学校が19件、未就学(幼稚園・こども園等)が6件となっている。中学校・高校は少数である。遠足利用の減少は、新型コロナウイルス感染症拡大防止やリニューアル工事に伴う常設展閉室の影響が大きいと考えられる。
- ・高校生以下を対象に毎月2回実施しているクイズラリーは、2年度は5月から常設展を閉室する直前の8月まで実施した。参加者は、4ヶ月間で933人であった。未就学児と小学生で大半を占める。年度当初に幼稚園・保育園にチラシを配るなど、広報する校種(対象年齢)を絞ったことに要因があると考えられる。
- ・その他、近年の傾向として、デイサービスセンター(児童・高齢者等)や障がい者支援施設の利用者等の団体での入館件数が増えている。

(2-3) 普及的記事の執筆推進

- ・普及的記事の執筆数は、62件であった。常設展リニューアルに伴う新聞執筆等が多かった。
- ・博物館ニュースの発行は、例年通り4件であった。

(2-4) 県民との協働による普及行事等などの推進

- ・イベントボランティアを公募し、「博物館Vキング」(参加者：24人)においてボランティアスタッフとの協働により1件の行事を実施した。
- ・普及行事等のうち、「ミュージアムトーク「ゼロから始める植物学」」(3回)、「野外生きものかんさつ」(6回)、「徳島まるづかみ展 県南編 展示解説 & ワークショップ」(1回)、「インクルーシブデザインワークショップ」(2回)の4件を県民との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。

(2-5) だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み

- ・さまざまな立場の人が参加しやすい普及行事のあり方を目指し、外国人にもわかりやすい展示方法を検討するため、英語、中国語、韓国語を使うリードユーザーや専門家等と共に、「インクルーシブデザインワークショップ」を実施し、多様な利用者を想定した検討を行った。

(3) 調査研究

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
3-1 調査研究活動の推進	課題調査等実施状況	2件/年	1件(外部との共同1)	2件(外部との共同1)	2件(外部との共同2)
	個別調査研究の実施状況				
3-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	21件/年	20件/年	18件/年
	共同研究プロジェクト件数	3件/年	6件/年	6件/年	6件/年
3-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	2件/年	4件/年	4件/年	4件/年
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請4件・採択1件/年	申請1・採択0(継続7)	申請2・採択0(継続7)	申請2・採択1(継続4)
	民間の研究助成金の申請・採択件数		申請0・採択0・継続1	申請0・継続0	申請0・継続0
3-5 調査研究成果の公表	学術的著述数	24本/年(査読付き4本/年)	23本(査読付き6)	26本(査読付き7)	52本(査読付き17)
	学会・研究会での発表件数	24件/年	14件/年	12件/年	6件/年
	マスコミへの資料提供件数	3件/年	3件/年	8件/年	5件/年

●自己評価

(3-1) 調査研究活動の推進

- ・課題調査として「徳島県におけるミミズハゼ属魚類の分布解明と本属魚類における環境DNAの有効性の検証」を実施した。
- ・令和元年度に引き続き「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」を実施した。
- ・課題調査等の合計件数は2件であり、目標値に達した。
- ・各学芸員が個別調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
- ・学芸員相互の情報交換や研究資質向上をはかるため、学芸員などによる館内公表会(セミナー)を2回実施した。

(3-2) 外部研究機関等との連携の推進

- ・2年度は他機関等の研究者との共同研究数については、18件で目標値を達成した。
- ・共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。日本学術振興会科学研究費補助金による「半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明」、「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化」、「ポスト専業化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から」、「5万分の1 図幅「鳴門海峡地域の地質」に伴う研究」と「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト」がこれにあたり、目標値を達成した。

74 中期活動目標と自己評価

(3-3) 県民参画型調査研究の推進

・2年度の県民参画型調査については、合計5件で目標値を達成した。「タンポポ調査・西日本2020」、「漂着物の調査」、「アサギマダラのマーキング調査」、「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」、「人形座資料調査」が実施された。

(3-4) 外部資金の獲得による調査研究事業の推進

・日本学術振興会による科学研究費補助金(科研費)の2年度の申請を2件(研究代表者)行った(元年11月申請)。
 ・2年度は、科研費等の公的研究助成金の申請が2件、採択が1件で、申請数は目標値に達しなかったが、採択数は達した。科研費研究代表者として1件(「新たな環境への進出と進化：ホトケドジョウ属における源流域への進出と進化プロセス」)、科研費研究分担者として4件(「半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明」、「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究－イワシをめぐる韓国の民俗変化」、「ポスト専門化時代における経験知のマネジメントとその限界性－農山漁業の事例から」)の研究を継続して行った。近年は科研費の研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの広がりがうかがえる。一方、研究代表者としての申請は少なく、積極的な努力が必要である。今後も継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。
 ・研究課題については、博物館の特性を生かした課題(たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したものなど)を設定するなどの工夫が必要である。
 ・2年度の民間の研究助成金への申請はなかった。

(3-5) 調査研究成果の公表

・学術論文数は52本、うち査読付き論文は17本であった。学術論文数、査読付き論文数は、ともに目標値を大きく上回った。
 ・学会・研究会での発表は6件で、目標値に達しなかった。令和2年2月以降に蔓延した新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止や延期になった学会・研究会が多く、その影響が大きかったと考えられる。
 ・マスコミへの資料提供は、「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」関連の5件であり、目標値を超えた。今後ともこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

(4) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
収集						
4-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	R5年度末で550,000点	530,726	544,248	552,024
		新規資料増加点数	4,000点	3,160	13,522	7,776
		採集資料件数	20件/年	11	17	15
		購入資料件数	3件/年	5	6	3
		寄贈資料件数	100件/年	55	66	52
4-2	寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		85	78	78
		新規寄託件数	3件/年	6	3	1
4-3	文献資料の充実	図書冊数		14,162	14,330	14,529
		新規受入図書冊数	140冊	107	168	199
		寄贈図書冊数	40冊	27	65	86
		購入図書冊数	100冊	80	103	113
		購入雑誌タイトル数		33	33	32
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	49.9%	49.2%	48.9%
4-5	資料の安全な保存	燻蒸の実施	3回/年	3回 (燻蒸庫2+全室1)	3回 (燻蒸庫3)	3回 (燻蒸庫3)
		収蔵庫点検	12回/年	自然12回 人文12回	自然12回 人文12回	自然12回 人文12回
		展示室点検	12回/年	12回	12回	12回
		企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査			パッシブインジケータなどによる空気環境調査を実施	パッシブインジケータなどによる空気環境調査を実施

		新たな防虫・防菌対策の検討			二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施	二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等			他館の収蔵庫の状況を調査	
活用						
4-7	展覧における利用促進	展示利用点数		4,879	2,268	22,054
		常設展での利用点数		663	274	156
		常設展以外の展示での利用点数		4,212	1,994	21,898
4-8	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	61	94	78
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など			特別陳列「とくしまタイムトラベル」などの展示で情報発信	企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」などの展示で情報発信

●自己評価

(4-1) 継続的な資料の収集

- ・ 収蔵資料点数は、令和元年度末時点で544,248点であったのが、2年度に552,024点となった(2年度末時点)。
- ・ 新規資料点数は、7,776点で、目標値の4,000点/年を上回った。新規資料のうち特に多かったのが、動物分野(昆虫)の6,990点であった。
- ・ 採集資料件数は15件(目標値20件/年)、寄贈資料件数は52件(目標値100件/年)で、いずれも目標値を下回った。
- ・ 2年度は地学分野で3件(3点)の資料購入があった。いずれも1点あたりの購入金額が100万円未満のため、資料収集委員会は開催されなかった。

(4-2) 寄託資料の受け入れの促進

- ・ 新規寄託は1件で、目標値の3件/年を下回った。

(4-3) 文献資料の充実

- ・ 図書・雑誌については、予算などの状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。なお、平成27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。
- ・ 図書冊数は、14,529冊で、元年度から199冊増加した。
- ・ 購入雑誌タイトル数は、32タイトルであった。

(4-4) 収蔵資料データベースの整備

- ・ 収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた16年度には40%であった。平成18年度から増加しはじめ、19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移した。29年度に登録率が50.0%となり、いったん目標値に達したものの、令和元年度に登録率は49.2%であった。2年度は登録点数が270,211点、登録率が48.9%となり、目標値を下回った。

(4-5) 資料の安全な保存

- ・ 2年度は、燻蒸庫燻蒸を3回実施した。
- ・ 25年1月から、収蔵庫の定期点検を実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26年度以降、目標値を12回/年と定めた。2年度は自然課で12回、人文課で12回の点検を行い、目標値に達した。
- ・ 28年6月から、学芸員が交替で月に1回程度常設展示室の点検を実施し、文化財害虫のモニタリングや、温湿度の計測を行っている。2年度は12回の点検を行い、目標値に達した。
- ・ 元年度に引き続き、2年度も生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫および企画展示室で、パッシブインジケータや検知管による空気環境調査を行った。
- ・ 外気温が上昇する夏期などは、設備調整の他、照明を調整するなどして適宜温湿度の管理を行っている。
- ・ 開館から30年が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでおり、定期点検や修繕が必要になっている。元年度に引き続き、2年度も燻蒸庫の活性炭交換を行った。また、温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。
- ・ 文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、26年度以降、検査範囲に常設展示室も加えている。2年度も引き続き、トラップ設置・害虫出現状況の調査を行った。

(4-6) 収蔵スペースの確保

76 中期活動目標と自己評価

・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き収蔵庫定期点検を実施することで、具体的な対策を考えていきたい。

(4-7) 展覧における利用促進

・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、展示利用点数（館蔵資料と寄託資料の合計）を記録している。2年度の利用点数は22,054点（うち館蔵資料22,050点、寄託資料4点）であった。そのうち常設展（部門展示やトピックコーナーなど）において156点（うち館蔵資料156点、寄託資料0点）、常設展以外の展示（企画展や特別陳列、移動展）において21,898点（うち館蔵資料21,894点、寄託資料4点）の資料を利用した。展示利用点数は、元年度に比して大幅に増加した。これは、2年度に館蔵資料を多数出品した企画展（とくに「甲虫すごいぜ！」）を開催したことによる。

(4-8) 貸し出し等の促進

・収蔵資料活用の指標の一つとして、資料特別利用（収蔵資料の閲覧・貸出・模写・複製・撮影・出版物掲載など）等件数を設けている。これは、他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては「Ⅱ普及教育」を参照のこと）。2年度は78件で、目標値の60件/年を上回った。なお、78件のうち、資料の貸し出しは8件、写真・映像の提供は50件であった。その他、外部から依頼を受ける資料調査にも数多く対応している。

(4-9) 資料収集保存活動に対する理解の促進

・資料収集保存活動に対する理解を促進するため、さまざまな取り組みを行っている。2年度は、トピックコーナーで、発掘調査や購入などによる新着資料の紹介を行った。また、企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」では、指定文化財やタイプ標本を展示・紹介するとともに、資料の収集・保存、活用、収蔵庫の空気環境調査などについて紹介した。

(5) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供しよう努めます。	資料提供件数	30件/年	29件	34件	23件
		マスコミ取材報道件数	100件/年	103件	99件	106件
		マスコミ出演等件数	15件/年	18件	21件	14件
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
		広報関係出版物発送状況				
		年間催し物案内発送件数（発送回数）	600件（1回）/年	625件（1回）	785件（1回）	778件（1回）
		月間催し物案内発送件数（発送回数）	各80件（12回）/年	各85件（12回）	各81件（12回）	各81件（12回）
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	9,000,000件/年	10,645,850件	12,337,362件	10,113,588件
		HPの新規および更新したページ数	70ページ/年	439ページ/年	697ページ/年	270ページ/年
		HPの内容の更新頻度	月3回	24回/月	21回/月	22回/月
5-4 SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	80回/年	54回	60回	47回
5-5 だれもが情報にアクセスできるホームページづくり（ユニバーサル視点）	こどもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応			・企画展専用サイト等で実施	・企画展、リニューアル関連専用サイト等で実施
		HPの多言語対応			・新常設展設計事業と連動して検討	・新常設展構築業務と連動して検討
		HPの見やすさや色の検討			・新常設展設計事業と連動して検討	・新常設展構築業務と連動して検討
5-6 常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	デジタルアーカイブ			・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施	・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施
		展示更新に関する発信状況			5件（FB4、HP1）	26件（FB17、HP8、資料提供1）

●自己評価

(5-1) マスコミへの資料提供等の推進

- ・資料提供件数は23件で、令和元年度より9件減少した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響が考えられるが、博物館からの情報発信としてマスコミへの資料提供は効果的であるため、社会情勢に応じつつ積極的に資料提供を行う必要がある。
- ・マスコミ取材報道件数については、新聞・雑誌によって取材・報道された件数である。2年度は106件で、元年度より7件増加した。「蔵出し！とくしま“宝もの”展」、「甲虫すごいぜ！」、「徳島まるづかみ展」などの企画展・特別陳列のほか、常設展のリニューアルや勝浦の恐竜化石に関するものなど、注目度の高い話題が多かった。
- ・マスコミ出演等件数は14件で、元年度より7件減少した。うち半数が「勝浦の恐竜化石」に関するものである。

(5-2) 広報活動の強化

- ・広報手段の新規開拓状況として、これまでは来館者数の増加が期待できるイベントでの広報を充実させていたが、2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大規模イベントが軒並み中止となったことから、従来の地道な広報活動により配布ルートの新規開拓を行った。また、チラシ・ポスター等の配布先を企画展等のテーマに合わせたり、展示協力者等の協力を得たりして、選定・拡充した。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、県内の小学校の全児童に配布するなど学校関係へ重点的に配布したほか、元年度に引き続き幼稚園や保育園などにも配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校においては理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校においては理科、社会科の教員に対して配布した。年間・月間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数がそれぞれやや減少しているが、これは学校数や児童・生徒数が減少したことに加え、効果的な配布を目指して発送先リストを整理したためである。
- ・新常設展グランドオープンに向けた広報戦略策定事業を行った。株式会社 JTB 総合研究所と契約を結び、事業を実施した。広報戦略の策定を目的とし、主に他館事例調査、広報戦略コンセプト策定、広報戦略策定支援(キャッチコピー、ロゴマーク等の制作)の業務を実施した。

(5-3) インターネットによる情報発信の推進

- ・インターネットによる情報発信においては、2年度は1年間でホームページに約1,011万件のアクセスがあった。元年度の約1,230万件より約200万件減少したものの、目標値の900万件/年を上回った。
- ・新規コンテンツ数は270ページ/年で、元年度より大幅に減少したが、目標値の70ページ/年を上回った。新規コンテンツとして、企画展・特別陳列、ボランティア活動、常設展リニューアル、勝浦の恐竜化石に関するページを作成した。
- ・内容の更新頻度は2.2回/月(26回/年)で、目標値の3回/月を下回った。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止による休校・外出自粛が続く中、博物館を自宅で楽しめるコンテンツ「自宅で博物館を楽しもう！」を博物館ホームページに掲載した。

(5-4) SNSによる情報発信

- ・2年度はFacebookページの更新回数が47回で目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染症拡大によるさまざまな影響があったものの、積極的に活用すべき情報発信ツールであるため、今後はより一層の活用を努めていきたい。

(5-5) だれもが情報にアクセスできるホームページづくり

- ・HPのスマートフォン等への対応は、企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」、「甲虫すごいぜ！」、特別陳列「徳島まるづかみ展」のほか、常設展リニューアルや催し物の専用HPで実施した。
- ・徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業により、28点の館蔵資料を撮影、1件の写真フィルムをデジタル化した。デジタルデータを「徳島県立博物館デジタルアーカイブ」サイトにて公開した。

(5-6) 常設展のリニューアルに関する情報発信

- ・Facebookにて17件、「常設展のリニューアル」の専用HPにて8件、博物館新常設展プレビュー企画「徳島まるづかみ展」の資料提供1件を行った。グランドオープンまで進捗状況を随時発信できるよう努めていきたい。

(6) 県民協働・参画

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	250人/年	217人	262人	185人
	個人会員		54人	48人	39人
	家族会員・家族数		163人・43組	214人・58組	146人・40組
	会員の継続率	前年度会員の70%	76%	70%	60%
	個人会員		76%	79%	75%
	家族会員		76%	62%	48%
	友の会行事実施回数・参加者数	6回/年	6回・119人	6回・147人	6回・122人
	展示利用率	50%	55% (45%)	65% (39%)	51% (39%)
	個人会員		50% (41%)	58% (17%)	46% (26%)
	家族会員		60% (51%)	71% (57%)	55% (46%)
	延べ利用者数		216人 (123人)	334人 (126人)	254人 (143人)
	個人会員		79人 (47人)	104人 (34人)	113人 (64人)
	家族会員		137人 (76人)	230人 (92人)	141人 (79人)
会報の発行回数	2回/年	2回	2回	2回	
6-2 公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		イベントボランティア47人	合計92人 (イベントボランティア46人、みどりのサポート隊46人)	イベントボランティア23人
	公募ボランティア活動回数 (全体会・班会合、イベント)		合計31回 イベントボランティア会合26回	合計41回 会合37回 (イベントボランティア27回・みどりのサポート隊10回)	合計11回 イベントボランティア会合10回
	企画運営型行事等件数		イベント5回	イベント4回	イベント1回
			3件 (8/4-5、11/4、2/11)	4件 (5/4、8/3-4、11/4、2/11)	1件 (2/11)
6-3 各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		部門展示1件、トピックコーナー1件、特別陳列1件	部門展示2件、トピックコーナー1件、企画展示1件、特別陳列1件、常設展更新に向けたワークショップ2件	企画展示1件、トピックコーナー1件、移動展1件、常設展更新に向けたワークショップ1件
	県民参画型調査の件数	2件/年	4件/年	4件/年	5件/年
	県民との協働による普及行事等の実施状況		22件 (県民ワークショップ2件、公募ボランティア5件、普及行事15件)	10件 (公募ボランティア4件、普及行事6件)	5件 (公募ボランティア1件、普及行事4件)

●自己評価

(6-1) 友の会活動の充実と活性化

- ・友の会会員数は、令和元年度は262人、2年度は185人で、77人の減少である。内訳は、個人会員が48人から39人で9人の減少、家族会員が214人 (58組) から146人 (40組) で68人 (18組) の減少となった。今後は、勧誘ポスターの掲示やチラシの配布を行い、PRに努める。また、博物館掲示板等やインターネットを利用した情報発信も、引き続き行っていく。
- ・会員の継続率は、2年度は60%だった。今後も、新規会員を募集する働きかけの強化や、会員が魅力を感じる会の運営を図っていく。
- ・友の会行事の実施回数は6回で、参加者数は122人であった。今後も引き続き会員の満足度の向上をめざした行事の工夫を図っていく。
- ・展示利用率は、2年度は51%となり目標値を上回った。今後も、会員が博物館に足を運びたくなるような工夫が求められる。

(6-2) 公募ボランティアの協働推進

- ・平成17年度から公募しているイベントボランティアは、例年、登録者数に上限を設けていないが、令和2年度は、常設展示室がリニューアル工事のため閉室しており、イベントスペースが限られることが想定されたため、定員を25人程度として公募を行った。令和元年度から継続した20人に加え、新規登録の3人が加わり、合計23人が参加した。
- ・イベントボランティアは、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、流行がいったん収束した9月から活動を開始し、年間10回の会合を実施した。

・イベントボランティアの企画によるイベント「博物館Vキング」を、2月11日(木・祝)に開催した。また、例年は、徳島大学で開催される「科学体験フェスティバル in 徳島」など他機関が開催するイベントにもブースを出展しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けてイベントが中止・縮小されたことから、出展を見合わせた。

(6-3) 各種事業での県民協働の推進

- ・企画展「甲虫すごいぜ!」、ロビー等での小展示「馬形はにわ」、移動展「徳島まるづかみ展 県南編」の3件の展示を県民と協働で開催した。また、新常設展設計事業の一環として、「インクルーシブデザインワークショップ」を1件実施した。
- ・普及行事として、「ミュージアムトーク「ゼロから始める植物館」」、「野外生きものかんさつ「初めての植物かんさつ」」、「徳島まるづかみ展 県南編 展示解説 & ワークショップ」、「インクルーシブデザインワークショップ」を県民と協働で実施した。また、公募ボランティアと協働で「博物館Vキング」を開催した。
- ・「タンポポ調査・西日本2020」、「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」、「漂着物の調査」、「アサギマダラのマーキング調査」、「人形座資料調査」の5件の県民共働参画型調査を実施した。

(7) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
7-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500件/年	625	571	527
	周知状況		HPへの記載	HPへの記載	HPへの記載
7-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		35	35	29(中止12)
	講演会等の受講者数		(1,320)	(1,162)	(796)
7-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		28	29	46
	機関・団体等への協力状況		0	0	0
7-4 大学教育への寄与	非常勤講師受託数		4	3	3
	学生・院生指導人数		0	0	0
	博物館実習生等受入人数		13(8大学)	16(8大学)	10(5大学)
	学芸員養成科日受講者数		70	59	122
7-5 学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		3	1	0
	学会等役員受託数		15	15	14
	学会等事務局受託数		5	3	3
7-6 博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受託数		8	8	8
	博物館関連団体加入数		6	6	6
	連携事業等の実施数		18	19	18
			移動展2回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展2回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展3回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携

●自己評価

(7-1) レファレンス利用者の拡大

- ・レファレンス件数は527件で元年度から44件減少したが、目標値500件は上回った。分野別の件数では、令和2年度は動物(昆虫)が149件と最も多く、次いで地学が95件、動物(脊椎)65件であった。
- ・レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する身近な相談所として博物館に親しんでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

(7-2) 講師派遣等の推進

- ・2年度の講師派遣の依頼数は29件で、元年度と比べて6件減少した。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止により12件が中止になり、実施件数としては17件となった。実施件数では、分野別にみると地学が8件で最も多かった。
- ・派遣先の受講者数は、12件において概数が記録されており、796人であった。

(7-3) 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供

- ・各種委員会等の委員等受託数は46件で、元年度から17件増加した。これまで特に多かった動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるものは10件であり、内容は多様化している。

80 中期活動目標と自己評価

- ・委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。

(7-4) 大学教育への寄与

- ・2年度の大学における非常勤講師の受諾数は3件で、元年度より同数であった。
- ・2年度の博物館実習生の受入人数は10人で、元年度に比べて6人減少した。
- ・2年度は、学生・院生の研究指導はなかった。受入人数については、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。
- ・県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」、「博物館教育論」、「博物館展示論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。新型コロナウイルス感染症対策のため、講義はすべてリモートで行った。2年度は、延べ122人を指導した。

(7-5) 学会・研究会の運営への寄与

- ・2年度の学会や研究会の当館及び文化の森の施設における開催はなかった。新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの学会や研究会はリモートで行うようになっており、その影響があると考えられる。
- ・学会等役員受託数は14件で、元年度より1件減少した。
- ・学会等の事務局受託数は3件で、元年度と同数であった。

(7-6) 博物館施設の連携強化への貢献

- ・博物館関連団体の委員等受託数は8件で、元年度と同じだった。
- ・博物館関連団体加入数は6件で、元年度と同じである。これらのうち2件は当館が事務局を引き受けている。
- ・他館等との連携事業数は18件で、元年度より1件減少した。2年度は移動展を3回開催した。また、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において研修会を実施したほか、県内外の博物館との連携事業を行った。

(8) マネージメント（経営）

●中期活動目標及び元年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	30年度実績	元年度実績	2年度実績
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示点検・修繕および改善 常設展リニューアルに向けての設計	常設展示点検・修繕および改善 常設展リニューアルに向けての設計、製作着手	常設展示点検・修繕および改善（～8月） 新常設展の製作
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査	データなし
	県外利用者の割合		「阿波漁民ものがたり」8% 「ジャングルいきもの図鑑」13%	「ミネラルズ2019」10% 「とくしまの恐竜時代」14%	データなし
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		3件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊、恐竜化石発掘調査）	3件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊、恐竜化石発掘調査）	2件（公募ボランティア事業、恐竜化石発掘調査）
8-4 設置者による理解および外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 91,683千円	2月補正後 80,100千円	2月補正後 6,051,310千円 文化庁補助6,693千円
	外部資金獲得数		申請3、採択1、継続8	申請3、採択2、継続7 クラウドファンディング1	申請2、採択1、継続4
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊の防火防災訓練 1月26日	自衛消防隊の防火防災訓練 3月11日	自衛消防隊の防火防災訓練 3月19日
	危機管理体制の整備状況		分析室書棚固定	事務室等書棚固定	新型コロナウイルス感染症拡大防止
8-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		文化庁等の研修 日本博物館協会全国博物館大会	文化庁等の研修 ICOM 京都大会、日本博物館協会全国博物館大会	講師招聘による研修
8-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第3期中期活動目標の運用 第4期中期活動目標の検討	第4期中期活動目標の策定・運用	第4期中期活動目標の運用
	自己点検評価の状況		29年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	30年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	元年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月13日	博物館協議会 9月26日	博物館協議会 9月30日

●自己評価

(8-1) 利用しやすい博物館をめざす施設の改善

- ・展示室の点検を日常的に行い、修繕及び改善に努め、より多くの人たちが利用しやすい施設づくりに努めた。と

くに令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温や消毒等に必要な物品等の整備、職員及び利用者等の予防行動の浸透に注力した。

- ・常設展リニューアルについては、元年度末に着手した展示製作を進めた。

(8-2) 博物館認知度の向上と利用者層の拡大

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として、各種用具の共用をできるだけ避ける趣旨から、2年度は展示室でのアンケートを行わなかった。会期や観覧者動向など、例年とは大きく異なる状況が続いたため、仮にアンケートを行ったとしても、比較は困難であったと思われる。
- ・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。2年度は22件であった。
- ・平成25年度から始めた講座室の有料貸し出しについては、2年度は利用がなかった。

(8-3) 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

- ・公募ボランティアと職員の協働を継続し、「博物館Vキング」を実施したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来とは異なり、少人数を対象としたワークショップとした。
- ・新型コロナウイルス感染症との共存を余儀なくされるとともに、常設展の全面リニューアルが進む中、県民参画のあり方を見直し、運営基盤の強化につながるよう検討すべき時期に来ている。

(8-4) 設置者による理解および外部資金の獲得

- ・外部資金は、日本学術振興会科学研究費補助金等公的な研究助成を2件申請し、新規採択1件、継続4件であった。
- ・徳島県が策定し、国から認定された「徳島県文化観光推進地域計画」に中核的な文化観光拠点として位置づけられたことから、そうした観点からの取り組みも今後、重要になる。

(8-5) 防災意識の向上と危機管理体制の強化

- ・危機管理に係る新たな課題として、新型コロナウイルス感染症拡大防止がある。県全体の動向を踏まえつつ、文化の森6館で連携しながら、取り組みを進めた。
- ・自衛消防隊の防災訓練を3月に行った。
- ・様々な災害や非常事態に対応できるよう、職員各人の防災意識の喚起と危機管理体制の強化に努めたい。

(8-6) 職員の意識改革と資質向上

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種研修会等が中止になったり、職員の派遣を行わなかったりしたため、2年度は研修等の参加実績がなかった。
- ・大野照文氏（三重県総合博物館長）を招聘した研修を館として独自に行ったほか、新常設展構築事業におけるインクルーシブワークショップなども資質向上に資する研修として意義があった。

(8-7) 博物館評価システムの構築

- ・元年9月に策定した第4期中期活動目標にもとづいて、2年度事業の自己評価を行った。その内容は、年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。

●企画展観覧者数累計（平成3～令和2年度）

（単位：人）

年度	名称	開催期間	開催日数	個人			有料観覧者			減免(割引50%)			有料観覧者計	無料観覧者					観覧者総数			
				一般	高校生・大学生	小学生・中学生	一般	高校生・大学生	小学生・中学生	一般	障がい者	高校生・大学生		小学生・中学生	一般	高校生・大学生	小学生・中学生	その他		無料観覧者計		
3 (1991)	星野り文化財作品展	H3.45 ~ H3.55	27	5,474	286	787	58	30	0	1,497	22	1,519	20	0	8,174	-	-	-	513	513	8,687	
	和泉麗華の化石	H3.7.21 ~ H3.9.1	37	4,755	547	2,594	62	0	161	259	15	274	0	2	8,395	-	-	-	259	259	8,654	
	人形芝居がやってきた阿波の刀剣	H3.10.11 ~ H3.11.10	27	1,381	35	138	246	0	500	323	7	330	0	0	2,630	-	-	-	217	217	2,847	
	平成3年度小計	H4.2.18 ~ H4.3.22	29	2,723	210	277	38	0	0	462	40	502	0	0	3,750	-	-	-	299	299	4,049	
4 (1992)	四国の古墳	H4.4.24 ~ H4.5.24	26	2,566	256	745	169	56	31	473	21	494	0	0	4,316	-	-	-	387	387	4,703	
	甲虫の世界	H4.7.21 ~ H4.8.30	36	8,404	603	6,032	163	0	116	264	20	284	0	5	15,607	-	-	-	349	349	15,956	
	徳島の指定文化財	H4.10.20 ~ H4.11.15	24	1,299	56	79	144	0	0	439	9	448	0	0	2,026	-	-	-	407	407	2,433	
	平成4年度小計	H4.12.29 ~ H5.1.23	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	-	-	-	1,143	1,143	23,092	
5 (1993)	祈り・のらい・ほらい	H5.4.20 ~ H5.5.23	29	1,989	362	492	0	0	0	236	8	244	0	0	3,087	-	-	-	274	274	3,361	
	南アメリカの自然	H5.7.24 ~ H5.9.5	38	6,745	561	3,835	191	6	313	284	13	297	1	0	11,949	-	-	-	257	257	12,206	
	鳥居龍蔵の見たアジア	H5.10.12 ~ H5.11.21	37	1,524	79	148	84	21	83	460	7	467	1	0	2,407	-	-	-	1,201	1,201	3,608	
	平成5年度小計	H5.12.29 ~ H6.1.29	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	-	-	-	1,732	1,732	19,175	
6 (1994)	人間に光あれ	H6.4.26 ~ H6.5.29	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,811	462	2,098	-	7,371	7,371	
	根谷 その自然とくらし	H6.7.26 ~ H6.9.4	36	1,910	131	444	104	0	41	336	12	348	0	1	2,979	-	-	-	266	266	3,245	
	招かれた弥生人のくらし	H6.10.7 ~ H6.11.13	33	800	565	184	61	0	236	209	3	212	0	0	1,549	-	-	-	258	258	1,807	
	高橋新吾と後香の世界	H7.3.4 ~ H7.3.19	14	4,883	521	432	57	0	0	719	21	740	0	5	6,638	-	-	-	697	697	7,335	
7 (1995)	平成6年度小計	H7.4.21 ~ H7.5.21	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,294	36	1,330	0	6	11,166	4,811	462	2,098	1,221	8,592	19,758	
	よみがえる古代の輝き	H7.4.21 ~ H7.5.21	26	2,595	279	601	61	10	56	446	18	464	0	0	4,516	-	-	-	468	468	4,984	
	貝の世界	H7.7.22 ~ H7.9.3	38	5,837	490	3,773	77	0	183	416	37	453	0	3	10,816	-	-	-	2,127	2,127	12,943	
	戦前から豊かな未来へ	H7.10.17 ~ H7.11.19	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10,103	499	4,016	-	14,618	14,618	
8 (1996)	平成7年度小計	H7.12.29 ~ H8.1.29	94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	10,103	499	4,016	2,595	17,213	32,545	
	銅鐸の美	H8.4.2 ~ H8.5.12	36	2,199	362	528	21	0	843	485	30	515	27	0	4,476	-	-	-	1,524	1,524	6,000	
	動物の世界	H8.7.19 ~ H8.9.1	39	3,631	432	1,908	24	0	0	359	22	381	5	1	6,382	-	-	-	981	981	7,363	
	目で見える博物館	H8.10.18 ~ H8.12.1	39	1,214	75	245	2	37	487	210	12	222	1	0	2,283	-	-	-	455	455	2,738	
9 (1997)	平成8年度小計	H8.12.29 ~ H9.1.29	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	-	-	-	2,960	2,960	16,101	
	阿波の近世絵画	H9.4.22 ~ H9.5.18	24	1,214	52	38	4	0	267	445	7	452	0	0	2,027	-	-	-	399	399	2,426	
	吉野川の自然	H9.7.18 ~ H9.8.31	39	2,612	233	914	0	0	0	448	27	475	0	1	4,235	-	-	-	938	938	5,173	
	ネアンデルタール人の復活	H9.9.20 ~ H9.10.26	32	2,196	187	573	43	13	553	369	19	388	4	0	3,957	-	-	-	664	664	4,621	
10 (1998)	平成9年度小計	H9.12.29 ~ H10.1.29	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	63	1,315	4	1	10,219	-	-	-	1,981	1,981	12,200	
	海はむすぶ	H10.4.21 ~ H10.5.24	30	997	43	157	3	3	24	184	17	201	0	0	1,368	-	-	-	465	465	1,833	
	チョウとガ	H10.7.18 ~ H10.8.30	38	4,456	183	3,349	38	0	141	249	37	286	0	9	8,462	-	-	-	2,427	2,427	10,889	
	瀬戸内海のおいたち	H10.10.10 ~ H10.11.23	39	971	40	260	12	0	1,202	227	17	244	0	6	2,735	-	-	-	584	584	3,319	
11 (1999)	平成10年度小計	H10.12.29 ~ H11.1.29	107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	690	71	731	0	15	12,563	-	-	-	3,476	3,476	16,041	
	大空行列	H11.4.20 ~ H11.5.23	30	1,752	74	298	0	7	25	442	26	468	0	1	3,225	-	-	-	426	426	3,751	
	伊藤忠が描いた日本	H11.8.10 ~ H11.10.11	28	1,892	267	461	3	22	133	752	22	797	0	2	3,577	-	-	-	659	659	4,236	
	新発見考古学展 発掘された日本列島 99	H11.10.24 ~ H11.11.21	25	1,861	128	297	111	49	46	532	38	570	0	1	3,063	-	-	-	1,688	1,688	4,751	
12 (2000)	平成11年度小計	H11.12.29 ~ H12.1.29	83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	-	-	-	2,773	2,773	12,738	
	藍のよそおい	H12.4.18 ~ H12.5.21	30	1,851	96	52	9	0	0	626	22	648	0	0	2,656	-	-	-	383	383	3,039	
	まよなら20世紀カメラがとらえた日本の100年	H12.6.1 ~ H12.7.9	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,745	6,745	6,745	
	殺人者たち	H12.7.18 ~ H12.9.10	48	3,374	240	2,134	21	0	79	288	36	324	0	6	6,178	-	-	-	1,669	1,669	7,847	
13 (2001)	世紀末大博覧会	H12.10.20 ~ H12.11.26	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9,888	741	5,155	-	15,784	15,784	
	平成12年度小計	H12.12.29 ~ H1.1.29	145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	9,888	741	5,155	8,797	24,581	33,415	
	コントロール・ワシ神楽の発掘	H1.3.4 ~ H1.3.5.6	27	3,326	267	520	38	0	179	838	42	880	1	5	5,216	-	-	-	821	821	6,037	
	門出のセレモニー	H1.3.17 ~ H1.3.18.26	36	889	65	89	55	0	0	224	6	230	1	0	1,329	-	-	-	489	489	1,818	
14 (2002)	信仰と美術	H1.4.2.19 ~ H1.4.3.21	27	2,087	112	125	53	37	18	1,075	37	1,112	0	0	3,544	-	-	-	760	760	4,304	
	平成13年度小計	H1.4.2.29 ~ H1.4.5.12	90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	-	-	-	2,070	2,070	12,159	
	具化石が語る海の記憶	H1.4.4.12 ~ H1.4.5.12	27	2,125	47	32	0	0	0	300	11	311	0	0	2,515	-	-	-	486	486	3,001	
	海通をゆく	H1.4.7.20 ~ H1.4.9.1	39	1,108	51	0	6	0	0	210	11	221	0	0	1,386	-	-	-	55	1,051	1,106	
15 (2003)	古代のわざ	H1.4.10.11 ~ H1.4.11.10	27	1,148	37	4	28	0	0	347	14	361	0	0	1,578	-	-	-	60	1,618	1,678	
	平成14年度小計	H1.4.12.29 ~ H1.5.12.29	93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	-	-	-	803	5,214	1,941	7,756
	歴史をたのむ	H1.5.4.22 ~ H1.5.5.25	30	1,930	67	15	0	0	0	558	29	587	0	0	2,599	-	-	-	483	1,567	2,044	
	アリス王立展	H1.5.7.19 ~ H1.5.8.31	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	4,555	7,652	
16 (2004)	アンモナイトのすべて	H1.5.10.17 ~ H1.5.11.24	34	2,892	106	35	32	0	0	524	25	549	0	0	3,614	-	-	-	266	3,757	4,581	
	平成15年度小計	H1.5.12.29 ~ H1.6.1.29	102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	-	-	-	1,066	7,779	9,819	
	サメの世界	H1.6.4.24 ~ H1.6.5.30	32	6,328	182	67	36	33	0	521	51	572	0	1	7,219	-	-	-	1,822	6,222	2,681	
	エビとカニ	H1.6.8.12 ~ H1.6.9.20	34	5,008	112	20	7	2	0	386	31	417	0	1	5,567	-	-	-	1,28	3,689	2,581	
17 (2005)	石とくらし	H1.6.10.22 ~ H1.6.11.28	33	1,138	16	31	22	0	0	304	12	316	0	1	1,524	-	-	-	55	1,795	767	
	平成16年度小計	H1.6.12.29 ~ H1.7.1.29	99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,130	-	-	-	365	12,106	6,029	
	縄文の美	H1.7.4.26 ~ H1.7.5.29	30	2,254																		

84 観覧者等統計

●常設展観覧者数累計（平成2～令和2年度）

（単位：人）

年 度	開 館 日 数	有 料 観 覧 者											無 料 観 覧 者											観 覧 者 数				
		個 人			団 体（割引20%）			減 免（割引50%）					有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育				高 齢 者 （65歳以上）	そ の 他	無 料 観 覧 者 計								
		一 般	高 校 大 学 生	小 学・中 生	一 般	高 校 大 学 生	小 学・中 生	大 人			小 学・中 生	幼 稚・保 育 園 園 数		小 学 校 校 数	中 学 校 校 数	高 校 校 数												
								高 齢 者 （65歳以上）	障 がい 者	計							人 数				人 数	人 数	人 数		人 数	人 数	人 数	人 数
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722	-	-	55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	-	-	1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282	-	-	202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	-	-	2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861	-	-	114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	-	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	-	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	-	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	-	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	-	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	-	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	-	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	-	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	-	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	-	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,066	6	630	81	6,176	11,373	-	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	-	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	-	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	-	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	-	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	-	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	-	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	-	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	-	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	-	17,412	32,728	39,531
24	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	9,602	2,706	18,448	36,737	42,545
25	307	5,148	195	55	585	32	8	-	-	-	-	-	6,023	28	1,332	52	3,017	3	218	3	194	86	4,761	10,356	2,875	19,140	37,132	43,155
26	306	3,884	237	38	844	157	4	-	-	-	-	-	5,164	24	1,273	56	3,212	6	220	7	406	93	5,111	8,277	3,343	16,050	32,781	37,945
27	292	4,200	197	47	1,721	84	19	-	-	-	-	-	6,268	19	1,137	56	3,115	0	0	1	37	76	4,289	8,774	4,860	20,235	38,158	44,426
28	308	4,809	178	45	1,753	19	12	-	-	-	-	-	6,816	26	937	58	2,852	3	91	1	25	88	3,905	15,409	6,112	36,211	61,637	68,453
29	308	3,673	177	49	1,653	112	3	-	-	-	-	-	5,667	32	1,274	63	3,102	3	189	7	299	105	4,864	9,204	4,498	19,915	38,481	44,148
30	308	3,636	164	45	1,785	48	12	-	-	-	-	-	5,690	41	1,519	77	3,364	3	138	2	20	123	5,041	7,818	4,778	20,184	37,821	43,511
元	307	4,098	131	56	1,896	140	21	-	-	-	-	-	6,342	22	1,095	107	4,311	0	0	5	77	134	5,483	8,950	5,128	23,897	43,458	49,800
2	116	3,178	109	98	1,579	13	30	-	-	-	-	-	5,007	3	110	5	60	1	3	1	19	10	192	2,752	1,231	5,060	9,225	14,232
計	9,081	379,590	26,733	99,975	43,409	2,848	5,089	53,685	5,751	59,436	175	220	617,475	769	35,824	2,182	164,861	343	40,186	184	18,917	3,478	259,788	205,095	35,531	404,387	904,801	1,522,276

※平成24年9月より、高齢者（65歳以上）及び障がい者は無料。
 ※令和2年9月～3月は、常設展全面リニューアル工事のため閉室。

●総利用者数累計（平成2～令和2年度）

（単位：人）

年 度	常 設 展		常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展等	普及行事		その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者					普及行事参加者	普及行事不参加者		
2	88,722	8,555	97,277	-	-	-	646	-	-	97,923
3	99,282	37,835	137,117	24,237	-	-	1,387	-	-	162,741
4	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	-	1,718	-	-	110,655
5	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	-	1,686	-	-	94,431
6	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	-	2,843	-	-	77,913
7	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	-	4,132	-	-	98,408
8	22,434	34,687	57,121	16,101	-	-	2,419	-	-	75,641
9	18,573	26,147	44,720	12,200	-	-	2,232	-	-	59,152
10	16,590	22,301	38,891	16,041	-	-	1,890	-	-	56,822
11	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	-	2,461	-	-	75,459
12	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	-	4,513	1,561	-	79,471
13	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	-	3,634	2,137	-	55,734
14	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	-	62,911
15	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	-	4,501	2,628	-	81,818
16	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	-	95,822
17	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	-	79,396
18	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	-	85,347
19	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	-	170,438
20	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	-	90,148
21	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	-	131,776
22	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	-	103,659
23	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	-	80,862
24	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	-	97,054
25	6,023	37,132	43,155	13,552	10,008	742	13,089	4,629	-	85,175
26	5,164	32,781	37,945	29,849	1,537	8,512	10,189	5,391	-	93,423
27	6,268	38,158	44,426	7,186	12,963	2,506	9,212	17,579	-	93,872
28	6,816	61,637	68,453	74,076	2,167	92,572	9,146	7,550	-	253,964
29	5,667	38,481	44,148	30,081	19,687	-	8,206	15,924	-	118,046
30	5,690	37,821	43,511	19,666	8,635	18,131	7,250	7,722	-	104,915
元	6,342	43,458	49,800	27,450	14,832	21,375	8,648	7,263	-	129,368
2	5,007	9,225	14,232	15,993	3,693	21,276	1,56			

●特別陳列観覧者数累計（平成4～令和2年度）（単位：人）

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧者 総数
第1回館蔵品展	平 5. 2.16～ 3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平 6. 2. 1～ 2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平 7. 1.13～ 2. 5	21	3,165
第2回収蔵品展	平 8. 2.16～ 3.17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11. 7.17～ 8.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12. 5～12.24	18	1,850
勝瑞時代～細川・三好氏と阿波～	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 ～在日コリアンの労働史～	平14. 6.25～ 7. 7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15. 1.21～ 3. 2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて ～知里幸恵『アイヌ神謡曲集』への道～	平15. 7.19～ 7.27	8	1,317
日本刀の美 ～赤羽刀とその他の館蔵品～	平16. 1.27～ 3. 7	35	8,698
収蔵品展	平16. 6.18～ 7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18. 1. 8～ 1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18. 2.18～ 3.19	26	3,848
旅と祈りの道～阿波の巡礼～	平19. 1.19～ 3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20. 1.17～ 3. 2	40	5,168
空から見た徳島	平21. 1.27～ 3.15	42	7,517
蝶に魅せられて ～愛好家たちのコレクション～	平21. 7.18～ 8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21. 9.19～10. 4	14	1,886
マンダラ ～チベット・ネパールの仏たち～	平21.12.12～平22.2.7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平22. 7.17～ 9. 5	44	10,364
博物館の宝もの	平23. 7.15～ 9. 4	46	15,336
海からどんぶらこ～浜辺の漂着物～	平24. 4.27～ 6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平24. 9.25～10. 3	8	702
みんなの化石コレクション	平25.10.18～12. 1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平26. 3. 7～ 3.19	11	1,537
シエルズ	平27. 7.18～ 8.30	38	12,963
古代の彩り 徳島の朱	平28.12. 3～12.25	20	2,167
日本のアザラシと極地の動物たち	平29. 4.15～ 6.11	50	16,800
よみがえる、ふるさとの“たからもの” ～大津波被災文化財の再生から未来へ～	平29.12.16～平30.1.21	26	2,887
県指定有形文化財 青蓮院十一面観音菩薩立像	平30. 9.21～ 9.30	9	2,664
ごっついで那賀川 ～博物館資料で見る那賀川流域の自然 とくらし～	平30.10.13～11.18	37	5,971
ヒロシマ原爆展	令元. 7.10～ 7.30	18	5,731
博物館60周年記念展 とくしまタイムトラベル～過去・現在・未来～	令元.10. 5～11.10	31	6,364
「板東俘虜収容所」の世界展	令元.12.12～令2.1.19	28	2,498
八杵神社所蔵重要文化財 二品家政所下文～地域で伝えた文化財～	令 2. 3.26～ 4. 5	10	444
徳島まるづかみ展 第1期	令 2.11. 3～12. 3	27	3,488
合 計		1,065	238,657

●移動展観覧者数（平成14～令和2年度）（単位：人）

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧者 総数
昆虫の世界（海陽町立博物館）	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展～江戸から昭和まで～（藍住町歴史館藍の館）	平16.12. 2～12.27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平17. 8. 3～ 8.18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平17. 8.19～ 9.11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町立歴史民俗資料館）	平18. 2. 4～ 3. 5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物（海陽町立博物館）	平18. 7.22～ 8.27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文化センター）	平19. 4.26～ 5.15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平19. 6. 5～ 7.22	42	197
中世阿波の板碑（藍の館）	平19. 8. 2～ 8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民俗資料館）	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル（兵庫県立人と自然の博物館）	平20. 5. 3～ 5. 5	3	4,339
和泉層群の化石（東かがわ市歴史民俗資料館）	平20. 7.19～ 8.31	38	523
海部郡の古代・中世（日和佐図書・資料館）	平20. 7.19～ 9. 7	44	431
那賀川平野の貝化石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平20. 9.25～11. 9	41	956
達磨絵巻 横山天然の世界（藍の館）	平21. 4. 4～ 4.29	22	250
知らせる道具・広告（東かがわ市歴史民俗資料館）	平21. 7.18～ 8.31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平21. 7.25～ 8.30	32	401
国会議事堂の石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平21. 9.25～11. 5	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平21.11.21～平22.1.25	52	220
「ジオプラザ阿南」那賀川流域と県南部地域の化石展～化石が教えてくれるもの～」（阿南市科学センター）	平22. 7.17～ 8.15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南のトンボ展」（日和佐図書・資料館）	平22. 7.21～ 9. 5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」①（貞光ゆうゆう館）	平22. 9.18～ 9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」②（海陽町立博物館）	平22. 9.23～10. 3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③（松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）	平22.10. 9～10.17	8	1,242
空から見た徳島（日和佐図書資料館）	平23. 7.22～ 9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業（日和佐図書資料館）	平24. 9. 6～ 9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」（郷土文化会館）	平25. 1.26～ 2. 7	2	1,385
立体写真でみる38年前の海部郡の海辺（日和佐図書資料館）	平25. 7. 5～ 7.31	22	493
九州・五島行き～以西底曳き網漁業～（美波町由岐公民館）	平25.10.25～11. 4	11	249
ミニ・アンモナイト展（アミコ）	平26. 4.15～ 5.13	28	8,512
空から見た徳島（佐那河内ネイチャーセンター）	平27. 7. 1～ 9.30	78	1,366
漂着物展（海陽町立博物館）	平27.10. 3～10.18	14	640
朱を考古学する（阿南市文化会館）	平27.12. 6～平28. 1.6	26	500
「シカとカモシカ」パネル展（那賀町四季美谷温泉）	平28. 4.18～10. 9	175	8,012
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展（つるぎ町織本屋）	平28.10. 1～10.31	30	320
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展（鳴門市立図書館）	平28.11. 5～11.30	23	4,052
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展（海陽町立博物館）	平28.12.10～平29.1.22	33	282
移動展：県障害者の集い（徳島市あわぎんホール）	平28.11.27	1	15
阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」	平29. 1.14～2.26	35	320
「戦中・戦後の暮らし」（徳島県戦没者記念館）	平30. 7.16～8.15	21	1,463
かつうらの恐竜時代（勝浦町立図書館）	令元. 9.14～9.23	10	288
あわぎん恐竜時代展（阿波銀プラザ）	令 2. 1.10～1.29	20	6,263
勝浦恐竜月間「恐竜化石展」（勝浦町立図書館）	令 2. 8. 1～8.30	26	1,132
徳島まるづかみ展・県西編（美馬市立図書館）	令 2.12.18～令3.1.18	22	5,269
徳島まるづかみ展・県南編（海陽町立図書館）	令 3. 2. 9～3.14	30	574
合 計		1,322	71,927

●人権啓発等観覧者数(平成4~令和2年度)(単位:人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26~9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4~8.12	8	1,290
〃 第2回	平13.12.4~12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27~8.4	8	1,066
〃 第2回	平14.12.3~12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2~8.10	8	1,414
〃 第2回	平15.12.2~12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7~8.15	8	1,568
〃 第2回	平16.12.7~12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6~8.14	8	1,594
〃 第2回	平17.12.6~12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18.8.5~8.13	8	1,532
〃 第2回	平18.12.5~12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12.4~12.9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12.2~12.7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21.12.1~12.6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30~12.5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12.6~12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12.4~12.9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12.4~12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10~12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12.9~12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12.9~12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12.6~12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12.5~12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令元.12.4~12.10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令2.12.9~12.15	6	447
合計		180	19,981

●館内各種展示観覧者数(平成28~令和2年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
連携展示「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展	平28.7.20~8.28	36	56,984
ロビー展示「植物化石」	平28.9.1~平29.2.2	128	19,364
ロビー展示「植物標本」	平29.12.5~平30.3.31	75	5,906
ロビー展示「博物館の催し物」	平30.4.1~7.4	82	7,597
ロビー展示「写真で見る地層」	平30.10.25~平31.2.22	98	9,071
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡①」	令元.5.8~9.3	102	13,231
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡②」	令2.2.27~(3.31)	29	1,593
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡③」	令2.4.1~10.4	146	10,850
ロビー展示「草木染め」	令2.10.6~11.1	24	1,297
ロビー展示「馬型はにわ」	令2.10.20~11.22	30	1,791
ロビー展示「徳島まるづかみ展・県央編 第2期」	令2.12.1~(令3.31)	98	3,797
合計		848	131,481

●その他(啓発を除く共催事業) 観覧・参加者数(平成15~令和2年度)(単位:人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15.7.19~8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16.7.30~8.3	5	2,508
人形ウィーク	平17.8.20~8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18.3.25~3.26	2	555
子どもの絵	平18.4.29~5.7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18.5.5	1	950
日本古生物学会	平19.2.2~2.3	2	325
バラタクソノミスト養成講座	平19.2.17~2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27~11.4	9	71,244
「天正の落日と曙光-守護町勝瑞から城下町徳島へ-」(徳島城博物館)	平19.12.4~平20.1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20.8.3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平20.8.9~8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんざい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20.11.15~11.16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平21.8.8~8.9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平22.2.20~3.31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展(22年度)	平22.4.1~4.18	16	25,113
軌跡-継統と蓄積-	平22.10.23~11.23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平23.2.5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平23.3.21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平23.7.20~8.28	36	4,038
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平23.8.6~8.7	2	1,612
鳥居龍蔵のあいたアジアの自然	平23.10.29~12.4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平24.1.28~3.11	38	2,599
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平24.8.4~8.5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク	平24.9.30	1	5
鳥居ミュージアムトーク	平24.11.25	1	27
特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ-北方のまなざし-	平25.1.26~3.3	32	5,465
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平25.8.3~8.4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書-外国語・学問・文学-	平25.8.30	1	50
MT.第1回「鳥居龍蔵の収集した絵はがきの世界」	平25.9.29	1	14
MT.第2回「鳥居龍蔵の沖縄調査に関わった人々」	平25.11.24	1	14
共催事業第63回四国中世研究会	平25.12.22~12.23	2	47
MT.第3回「鳥居龍蔵の鹿児島調査」	平26.1.19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査-沖縄・南九州-	平26.1.25~3.2	32	1,753
第1回 MT.「鳥居龍蔵の宮崎・鹿児島での古墳調査」	平26.6.15	1	9
第2回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査-諏訪市とその周辺調査について-	平26.9.14	1	7
第3回 MT.「鳥居龍蔵の伊那地方調査」	平27.11.23	1	18
第4回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査-岡谷市とその周辺調査について-	平27.1.17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界-鳥居龍蔵の信州調査-」	平27.1.24~3.1	32	2,827
第1回 MT.「鳥居龍蔵の金海貝塚調査」	平27.6.14	1	11
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平27.8.9~8.10	2	1,743
ufotable 5周年展	平27.9.26~10.12	25	8,180
第2回 MT.「鳥居龍蔵と仏教文化-中国・朝鮮・日本-	平27.11.22	1	11
第3回 MT.「鳥居龍蔵と黒潮文化-沖縄調査より-	平28.1.17	1	26
鳥居企画展「鳥居龍蔵-世界に広がる知の遺産-	平28.1.23~2.28	32	1,831
開館5周年記念講演会「鳥居龍蔵の再発見-国内外の視点から-	平28.2.21	1	199
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平28.8.6~8.7	2	1,689
第1回 MT.「鳥居龍蔵の研究ライフ-その方法と人的交流-	平28.6.12	1	15
第2回 MT.「鳥居龍蔵の出会った南米の史跡-ブラジルとペルーを中心に-	平28.9.25	1	10
第3回 MT.「大正期の鳥居龍蔵と徳島-城山貝塚から発見山「岩の鼻」へ-	平28.11.13	1	24
鳥居企画展「遙かなるマチュピチュ-鳥居龍蔵、南アメリカを行く-	平29.1.28~3.5	32	2,905
鳥居企画展「記念講演会「日本人によるアンデス考古学調査-鳥居龍蔵の思いを受けて-	平29.2.5	1	51
徳島歴史文化フォーラム	平29.2.19	1	126
特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」関連 若杉山跡現地見学会	平29.2.26	1	75
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平29.8.5~8.6	2	1,444
サイエンスフェア2017「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	平29.10.14~10.15	2	870
第1回 セミナー「あるブラジル移民の見た鳥居龍蔵の調査」	平29.6.18	1	14
第2回 セミナー「鳥居龍蔵、世界の巨石構造物を探る」	平29.7.17	1	31
第3回 セミナー「鳥居龍蔵のベストセラー「有史以前の日本」-日本人成立論をめぐって-	平29.9.18	1	28
第4回 セミナー「鳥居龍蔵、南方を探る-日本人の起源を求めて-	平29.11.11	1	21
鳥居企画展「鳥居龍蔵 日本人の起源に迫る-本山彦一との交流-	平30.2.10~3.18	32	1,746
平成29年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平30.2.18	1	146
鳥居企画展「記念講演会「日本人はどこから来たのか?」	平30.3.4	1	160
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平30.8.4~5	2	1,522
サイエンスフェア2018「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	平30.11.4	1	765
第1回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査-日本人起源論との関係で-	平30.6.17	1	20
第2回 セミナー「明治時代から大正時代の日本人人類学調査の一端-小金井良精の調査例から-	平30.7.16	1	20
第3回 セミナー「鳥居龍蔵、郷里を駆けろ」	平30.9.17	1	35
第4回 セミナー「鳥居龍蔵の小学校在学歴-自伝・卒業証書・履歴書を読む-	平30.11.25	1	17
鳥居企画展「鳥居龍蔵と小金井良精-日本人の起源を求めて-	平31.1.26~3.3	32	1,830
平成30年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平31.2.17	1	86
鳥居企画展「記念講演会「骨が語る日本人の歴史」	平31.2.24	1	75
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	令元.8.3~8.4	2	1,764
サイエンスフェア2019「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	令元.11.4	1	709
第1回 セミナー「鳥居龍蔵と小金井良精-城山貝塚の調査をめぐって-	令元.6.16	1	35
第2回 セミナー「鳥居龍蔵と大洲巨石調査を検証する-当館所蔵の資料より」	令元.7.28	1	35
第3回 セミナー「龍蔵にとって城山貝塚は何だったのか?」	令元.8.25	1	36
第4回 セミナー「日本考古学史上における鳥居龍蔵の再評価-国内評価・研究を通して」	令元.9.16	1	33
第5回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査」	令元.10.14	1	28
第6回 セミナー「鳥居龍蔵の未刊原稿群とその周辺-中国からの引き揚げリストをめぐって-	令元.11.4	1	25
第7回 セミナー「大正期の鳥居龍蔵と本山彦一」	令元.12.22	1	24
第8回 セミナー「鳥居龍蔵と阿波の巨石物-川内村史を中心に-	令2.1.19	1	33
鳥居企画展「文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る」	令2.2.8~3.15	32	1,481
令和元年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令2.2.16	1	76
第1回 セミナー「鳥居龍蔵と南方諸民族-異文化理解の試み」	令2.9.6	1	42
第2回 セミナー「鳥居龍蔵のブラジル調査を振り返る」	令2.9.27	1	38
第3回 セミナー「鳥居龍蔵の第5回台湾調査の意味するもの-明治末期の日本と台湾を考える」	令2.10.18	1	26
第4回 セミナー「城山貝塚発掘の影響-住吉派画家・須木一風の残した手帳から」	令2.11.8	1	17
第5回 セミナー「西洋世界と鳥居龍蔵」	令2.12.13	1	28
第6回 セミナー「武蔵野会の設立と東京府下の史跡保護運動」	令3.1.17	1	28
鳥居企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」	令3.2.13~3.21	32	546
鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令3.2.21	1	90
鳥居龍蔵生誕150周年記念 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会-その学問と資料の意義を問う」	令3.3.21	1	100
合計		693	214,986

XI 施設の概要

1. 沿革

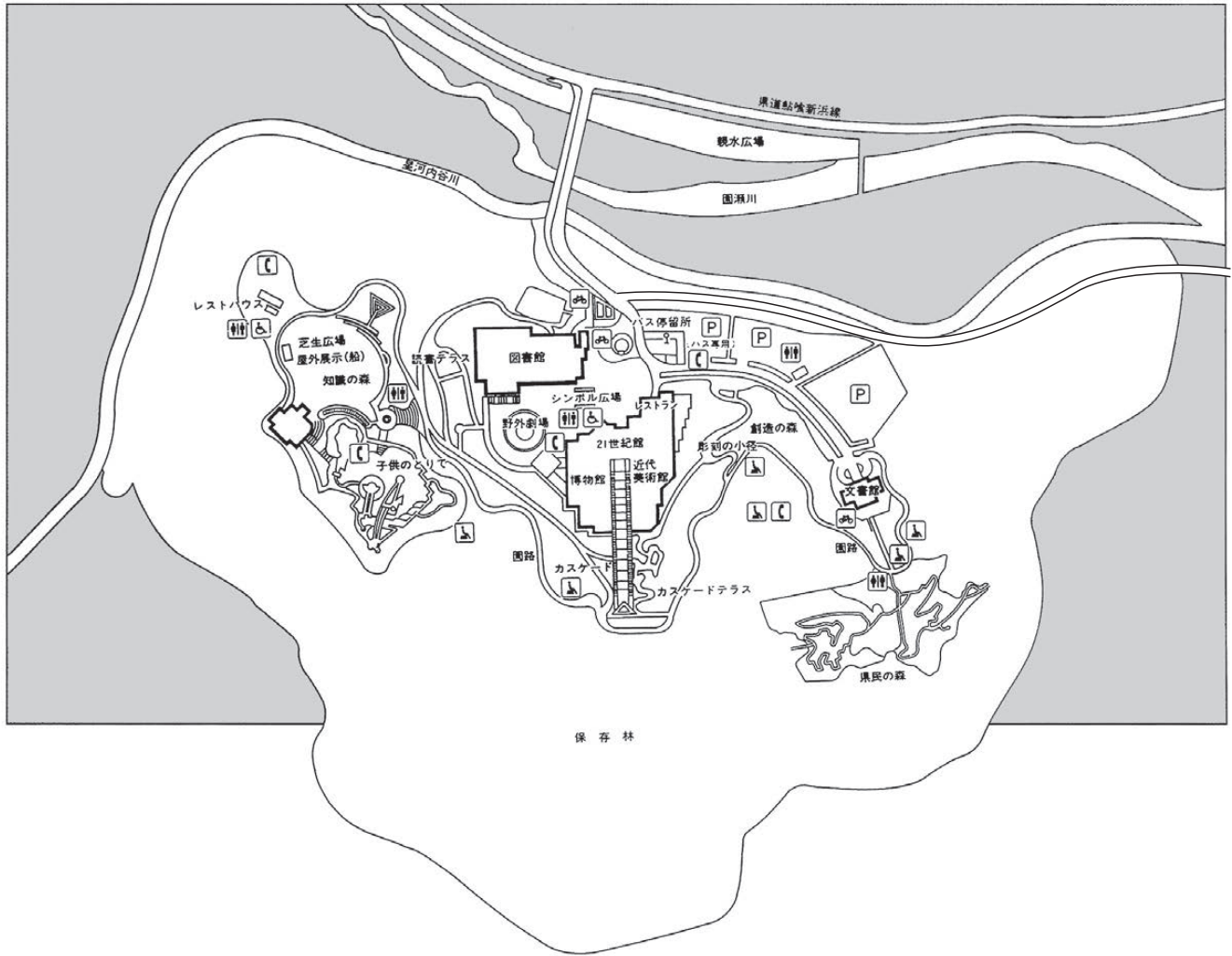
昭和 34 年 12 月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和 55 年 1 月	文化の森構想発表
4 月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和 56 年 2 月	文化の森懇話会報告書提出
昭和 57 年 3 月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12 月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和 58 年 3 月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和 59 年 1 月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4 月	美術品等取得基金設置
5 月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和 60 年 8 月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和 61 年 3 月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和 62 年 3 月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8 月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和 63 年 7 月	博物館展示工事着手
平成元年 4 月	旧博物館展示室閉室
12 月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2 年 3 月	旧博物館閉鎖
4 月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、教育委員会所管のもと、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10 月	博物館展示工事竣工
11 月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3 年 2 月	博物館資料収集委員会設置
平成 4 年 3 月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 4 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 2 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 5 年 3 月	徳島県教育委員会の博物館登録原簿に変更登録（旧博物館の登録 [昭和 35.6] を変更）
平成 7 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 4 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 7 年 7 月～8 年 3 月	文化の森総合公園開園 5 周年記念事業「戦後 50 年をみつめて」を実施。博物館では、企画展「戦争から豊かな未来へ」を開催。また、博物館独自に開館 5 周年記念事業を実施
平成 8 年 4 月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施。また、博物館観覧料減免要綱の一部改正により、祝日・休日における常設展観覧料を免除
平成 8 年 12 月	重要文化財公開承認施設に認定される（5 年毎更新）
平成 12 年 10 月～11 月	文化の森総合公園開園 10 周年記念企画展「世紀末大博覧会」を開催

88 施設の概要

平成 14 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の土・日曜日、長期休業日における常設展・企画展観覧料、祝日・休日における企画展観覧料を免除。また、学校教育に係る企画展観覧料を免除
平成 15 年 7 月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される
平成 17 年 10 月～11 月	文化の森総合公園開園 15 周年記念企画展「ふるさと再発見—15 の人・もの・場所—」を開催
平成 22 年 4 月～23 年 3 月	文化の森総合公園開園 20 周年記念事業を実施。中核事業は、開園 20 周年記念展「軌跡—継続と蓄積—」や「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森 大秋祭り!!」。博物館常設展示室の「リフレッシュ事業」を実施（一部の中・小テーマの更新など）
平成 24 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、満 65 歳以上の高齢者の常設展観覧料を免除。また、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳被交付者と介助者 1 名の常設展・企画展観覧料を免除
平成 25 年 3 月	博物館管理規則の一部改正により、12 月 28 日の開館を実施
平成 27 年 4 月～28 年 3 月	文化の森総合公園開園 25 周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」を実施。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわしの世界—門付け、大道芸」などを開催。また、同じく記念事業「安全安心のモデル事業」の一環として、博物館常設展示室のフレッシュアップ（サインやパネルの更新、多言語解説の導入など）、収蔵庫の耐震対策を実施
令和 2 年 4 月	教育委員会から知事部局に移管
令和 2 年 11 月	文化の森開園 30 周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える—とくしまデジタルアーカイブ—」を開催

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363㎡（3 館棟）
- 延床面積 22,382㎡（4 館合計—積層部分を含めると 23,814㎡）
8,063㎡（博物館占用スペース）
- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上 4 階・塔屋 1 階・地下 1 階
- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施工
建築……………大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
電気……………四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
空調……………東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
管……………朝日工業社・大成設備 共同企業体
エレベータ……………(株)東芝
家具……………富士ファニチア(株)
移動展示ケース……………(株)三井
展示……………(株)丹青社
- 新常設展
基本・実施設計……………(株)乃村工藝社
展示製作……………(株)乃村工藝社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

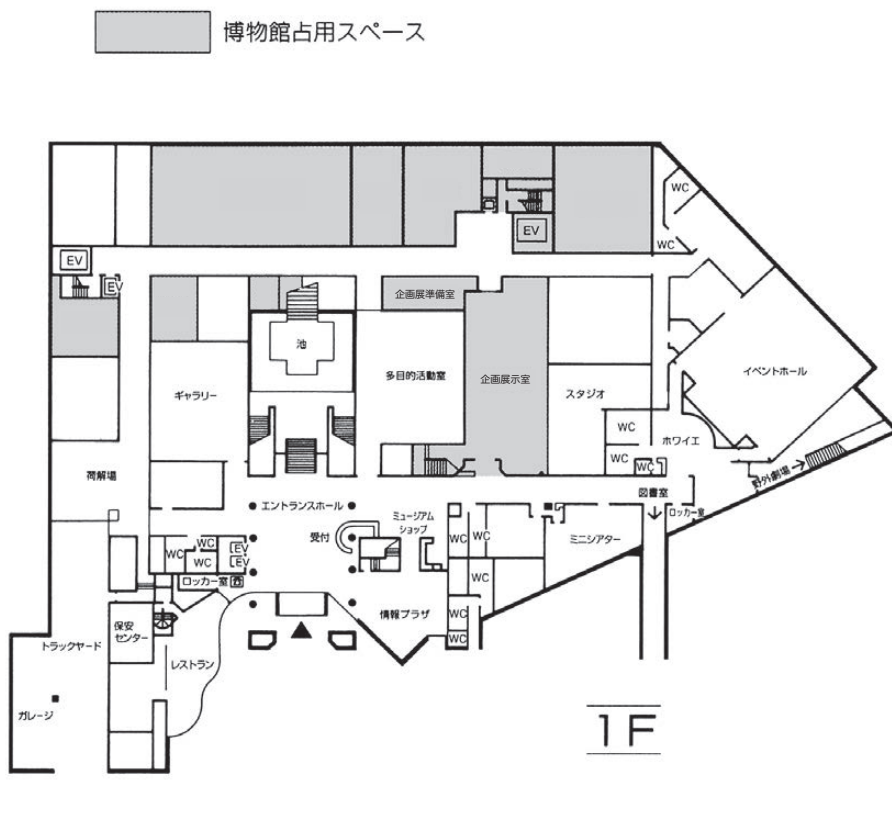
2 階	
室名	面積㎡
常設展示室	2,495
エレベーターホール	20
その他共用部分※	442
小計	2,957

4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。



XII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例（抜粋）

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 令和3年3月19日 徳島県条例第15号

（設置）

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

（名称及び業務）

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 （以下「博物館」という。）	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座などの教育普及事業を行うこと。 (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（利用の許可）

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、知事の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施設又は用具
博 物 館	博物館講座室

（観覧料等）

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

（損害の賠償）

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものと認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

（職員）

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、知事その他必要な職員を置く。

（協議会）

第7条 知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同

表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

- 2 協議会は、委員 10 人以内で組織する。
 - 3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。
 - 4 (省略)
 - 5 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 6 委員は、再任されることができる。
 - 7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。
- (規則への委任)

第 8 条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第 1 (第 4 条関係)

区 分		単 位	金 額			
			常 設 展		企 画 展	
			個 人	団体 (20 人以上をいう。以下同じ)	個 人	団 体
博物館資料	小・中学生	1 人 1 回	100 円	80 円	知事はその都度定める額	
	高校・大学生等	1 人 1 回	200 円	160 円		
	一 般	1 人 1 回	400 円	320 円		

(備考)

「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生等」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者（学齢に達しない者を除く。）をいう。

別表第 2 (第 4 条関係)

区 分	単 位	金 額
博物館講座室	午 前	2,200 円
	午 後	3,550 円

(備考)

- 1 「午前」とは午前 9 時 30 分から正午までを、「午後」とは午後 1 時から午後 5 時までを、「夜間」とは午後 6 時から午後 9 時までをいう。
- 2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。
- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室 1、集会室 2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

●徳島県立博物館管理規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第46号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(利用の許可の申請等)

第4条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を知事に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、知事が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。

3 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第5条 知事は、前条第一項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第6条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第四条第三項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
- (4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第7条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとするときは、直ちにその旨を文書で知事に届け出なければならない。

(遵守事項)

第8条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第9条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第10条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

(補則)

第11条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

別記様式 省略

●徳島県立博物館協議会規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第40号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則（抜粋）

制 定 昭和42年3月28日 徳島県規則第15号

最近改正 令和3年3月31日 徳島県規則第22号

第1章 総 則（省略）

第2章 事務部局（省略）

第3節 センター等 [博物館に係る内容のみ]

第1款 設置等

(法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等)

第34条 前条第1項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機 関		
	名 称	設置の目的又は根拠法令	位 置
未来創生文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

2 次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機

関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機 関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名 称	位 置	所管区域
徳島県文化の森 振興センター	徳島県立博物館（以下「博 物館」という。）	徳島市八万町	

第2款 内部組織及び分掌事務

(分掌事務)

第36条 センター等の分掌事務は、別表第6に掲げるとおりとする。

第3款 職及び職務

(所長)

第38条 センター等に所長（（省略）図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあつてはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2 所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第39条 前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機 関
副 館 長	(1)図書館 (2)博物館 (3)美術館 (4)文書館 (5)二十一世紀館 (6)鳥居記念館

2 副所長、副校長、副知事及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

(主幹等)

第41条 前3条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課 長 補 佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
上 席 学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係 長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学 芸 係 長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

(主任主事等)

第42条 前38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第3章 附属機関 [博物館に係る内容のみ]

第57条 附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

別表第4 主任主事等の職及び職務

職	職務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験が必要とする事務に従事する。
主事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験が必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第6 センター等の分掌事務

センター等	分掌事務
博物館	(1)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5)その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第8 附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名称	庶務を担当する組織
70	徳島県立博物館協議会	博物館

徳島県立博物館年報 第30号（令和2年度）

令和3（2021）年7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園）

TEL（088）668-3636 FAX（088）668-7197

E-mail museum@bunmori.tokushima.jp

ホームページ <https://museum.bunmori.tokushima.jp>

印 刷：星印刷株式会社
